植物

宮城県は偽高山帯とされる蔵王山塊熊野岳（1841m）から海岸地帯の海抜０m及び特別名勝松島に代表される島嶼まで多様な植物の生育環境を有しており、更に東北地方の南部という地理的条件のため暖地性植物の北上と北方系植物の南下による分布限界に近いという特徴を有している。したがって、種の多様性に恵まれ、かつ分布上注目すべき点を多数内包している。

これまで宮城県RDBのカテゴリーと判定基準は環境省の基準の「定性的要件」のみを用いてきた。今回は宮城県植物誌（2017）中の宮城県野生植物目録 2017の元となったデータベースから絶滅危惧植物を抜粋し、1883～2015年の植物の採集地・採集日・所蔵標本庫を記載した冊子を作製して資料とした。これには2008～2018年の宮城県絶滅危惧植物・RL見直し調査結果並びに1990～2004年の環境省RL見直し調査結果も付け加えた。後の二つのデータには個体数・増減率が記載されたものもある。この資料に基づいて調査が進められた。今回の改訂で、植物分科会では環境省のカテゴリーと判定基準の「定性的要件」と「定量的要件（数値基準）」を併用して判定することにした。

今回の改訂の基本的な考えは次の通りである。① 宮城県RDB 2001、宮城県RDB 2016のカテゴリーを基本とした。② 2016年に宮城県で絶滅危惧種に指定した種、宮城県RDB 2001の指定種のうち宮城県RDB 2016年で外された種、それ以外に環境省指定種、個人推薦種、合計791種を絶滅危惧植物の候補とした。③ 環境省の絶滅危惧植物として収録されているが宮城県で指定されていない種は、すべて宮城県絶滅危惧植物に指定した。また、カテゴリーの判定に当たっては、水草、湿地・草原の植物では絶滅・大幅に減少した種が多い、海岸の植物では津波浸水の影響で著しく増加あるいは減少した種が多い、国立・国定・県立自然公園内の植物は保護されているなどの理由からランクを下げるなどの考慮を行なった。

2011（平成23）年3月 11日に発生した三陸沖を震源地とする東日本大震災による津波により 沿岸地域及び平野地帯は浸水によって海岸地形は変貌し、海岸砂丘、防潮林、水田地域が大きく影響を受けた。これらにおいては水路のような開放水域が出現したり、あちらこちらに池沼ができ、さらに海岸の砂が水田地帯に運搬・堆積されるなど、生育環境が激変した。これらのことにより沿岸地域及び平野地帯の自然環境の変質が発生し、これに連動して種々の植物の 消長が発生した。その結果、生育地や個体数が増加した種が出現した一方、逆に生育地や個体数が激減した種も確認された。特に【絶滅危惧I類】のキンポウゲ科ヒメキンポウゲ、シバナ科シバナ、オオシバナ、サクラソウ科ウミミドリ、イソマツ科ハマサジなどは津波の影響によって生育地や個体数が激減した。しかし、一方では津波以前に生育していなかった場所にも生育するようになった事例も確認されている。また、【準絶滅危惧】のヒユ科ハママツナは海岸地帯各地のいたる所で個体数が激増している。今回の改訂では以上の調査結果も反映させた。

今回、宮城県RDB 2016からの大幅なカテゴリー見直しを行った結果、維管束植物及び蘚苔類を合わせると、新規に136種、カテゴリーが変更された種も多く、上位に引き上げられたのが49種、下位に引き下げられたのが26種と、合計で75種、削除24種を選定した。削除の理由は、分類学的な扱いの変更、同定の誤り、文献情報のみで標本が欠如、産地数・個体数ともに多い、植栽、国内帰化などである。新規に選定された種が全体の22％をしめ、またNT以上のカテゴリーでの種数の増加が137種もあるなど、全体として、より危機的な状況になってきていることが判明した。

収録した植物は蘚苔（コケ）植物では43種、維管束植物では、シダ植物66種、裸子植物１種、被子植物557種の合計624種である 。蘚苔（コケ）植物と維管束植物の合計は667種である。

【絶滅 EX】

蘚苔（コケ）植物には該当種はない。シダ植物では、ヒカゲノカズラ科ミズスギ、イワヒバ科カタヒバ、オシダ科サイゴクベニシダ、ウラボシ科ナガオノキシノブの4種である。

種子植物では、スイレン科オニバス、キンバイザサ科コキンバイザサ、カヤツリグサ科ウスイロスゲ、スミレ科タチスミレ、アブラナ科ハナハタザオ、オオバヤドリギ科マツグミ、ヒユ科アッケシソウ、ヒルガオ科マメダオシ、オオバコ科ヒシモドキ、シソ科ムシャリンドウ、ミズトラノオ、タヌキモ科フサタヌキモの12種である。宮城県RDB 2016で【絶滅】としたリンドウ科ハルリンドウは標本が未確認、カワツルモ科ヤハズカワツルモは雑種、ナデシコ科ナガバツメクサは誤同定として削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、新規に選定されたのが5種であったが、削除されたのが2種、絶滅とされていた種のうちCR+ENに変更されたのが2種で、合計で4種減少となったため、差し引き1種が増加ということになった。これらの多くは、土地開発、水質汚染、農薬汚染など人為による要因が絶滅を招いた事に注目すべきである。

【野生絶滅 EW】

過去に宮城県内に生育していたことが確認されていたが、今回も野生では確認されず、栽培条件下で生育が確認されている種は、シダ植物のデンジソウ科デンジソウ1種のみであったが、2025年野生のものが登米市の水田で発見され、カテゴリーを【絶滅危惧I類】に変更した。

水生植物であるため池沼開発、農薬汚染、水質悪化などにより野生では生育出来ない状況が続いているものと思われる。

【絶滅危惧I類 CR+EN】

宮城県は地理的条件から分布の限界に当たる植物が多い。① 県内での産地が局限されており個体数も少ないもの、② 開発などによる生育環境の急激な悪化が考えられるもの、③ 園芸用に乱獲が行われたもの、④ ある地域では絶滅してしまったもの、⑤ 自然災害によって生育環境が悪化したものなど、絶滅の危惧が切迫していると考えられるものを【絶滅危惧I類】として選定した。

蘚苔（コケ）植物ではツノゴケモドキ科イボイボツノゴケ、コマチゴケ科コマチゴケ、ウキゴケ科ウキウキゴケ、ミズゴケ科オオミズゴケなど28種を選定した。ミズゴケの仲間はその生育地である湿原が開発などにより減少した上に、園芸ブームにより園芸用材料として乱獲されて個体数が激減している。他の森林性の蘚苔（コケ）植物は、奥山の森林伐採や里山の開発、更には里山の荒廃などによる生育環境の悪化によって生育地が消失傾向にあり、個体数も減少している。

シダ植物はマツバラン科マツバラン、オシダ科サクライカグマのほかに29種、裸子植物はカラマツ1種、被子植物はサトイモ科ザゼンソウ、オモダカ科マルバオモダカ、イバラモ科イバラモ、ラン科セッコク、バラ科キンロバイなど196種で、維管束植物の合計は228種であった。宮城県RDB 2016で【絶滅危惧I類】としたアカウキクサ科アカウキクサは分類学的扱いの変更、カヤツリグサ科クグガヤツリは国内帰化、チャセンシダ科ヒメイワトラノオ、イネ科イワテイチゴツナギは誤同定、タヌキモ科タヌキモは雑種、ウマノスズクサ科コシノカンアオイは植栽と判定し、削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、206種→228種と22種増加ということになった。

全国的に自然環境の変遷が見られ、平野地帯や丘陵地帯は住宅団地や工業団地など土地造成が進行するとともに、また里山地域は農耕地の放棄や減反政策などにより耕作放棄地が増加し、植物の生育環境が悪化している。水生植物については、埋め立てによって池沼そのものの数が減少しており、残された池沼も浚渫工事が行われたり、富栄養化、農薬などによる水質汚染、津波などによって生育環境の悪化が見られる。キンポウゲ科ヒメキンポウゲ、ヒシ科ヒメビシ、タヌキモ科ミミカキグサ、ヒメタヌキモ、トチカガミ科スブタ、ヒルムシロ科ササバモ、ホソバヒルムシロ、イバラモ科イトイバラモ、ガマ科オオミクリ、イソマツ科ハマサジなど30種以上の水生植物はいずれも絶滅が危惧される状況にある。

また、園芸ブームによって鑑賞のため採掘される種が多く、キンポウゲ科イチリンソウ、オキナグサ、メギ科トガクシソウ、ウマノスズクサ科フタバアオイ、ケシ科オサバグサ、サクラソウ科サクラソウ、ムラサキ科ムラサキ、ユリ科ヒメサユリなどは地域によっては絶滅に瀕している。

ラン科植物は近年のランブームのため乱獲が進んでおり、ほとんどの種で生育地、個体数が激減している。特に、コアニチドリ、キンセイラン、ナツエビネ、サルメンエビネ、クマガイソウ、アツモリソウ、セッコク、サギソウでは一部の生育地において絶滅が確認されている。更に、大木や成熟した森林内の樹木などに

着生するラン科マツラン、モミランなどは、森林開発や森林伐採による大径木の減少や森林の樹冠の劣化によって空中湿度の低下など、生育環境の悪化により生育地、個体数の減少が見られる。また、場所によっては絶滅した所も確認されている。

【絶滅危惧Ⅱ類 ＶＵ】

宮城県内で分布域が限られており、個体数も減少しているが、近い将来直ちに絶滅に追い込まれる危険性が比較的少ないと思われる植物を絶滅危惧Ⅱ類とした。

蘚苔（コケ）植物ではクサリゴケ科マルバヒメクサリゴケ、キヌシッポゴケ科キヌシッポゴケモドキなど8種を選定した。

シダ植物ではハナヤスリ科ヤマハナワラビ、ナヨシダ科ウサギシダ、シシガシラ科コモチシダ、ウラボシ科イワオモダカなど18種、被子植物ではオモダカ科アギナシ、ラン科キンラン、アヤメ科カキツバタ、キンポウゲ科フクジュソウ、ヤナギ科ユビソヤナギ、イワウメ科オオイワカガミ、キク科アズマギクなど182種、合計200種を選定した。宮城県RDB 2016で【絶滅危惧Ⅱ類】としたオシダ科ヒメイタチシダ、キノクニベニシダは分類学的な扱いの変更、オオバコ科ヤマルリトラノオは標本が未確認のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、158種→200種と42種増加ということになった。

シシガシラ科コモチシダ、ウラボシ科イワオモダカなどは園芸品として採取されている。被子植物では、ラン科のキンラン、エビネなどが乱獲され、花の美しいキンポウゲ科カザグルマ、縁起物として珍重されるキンポウゲ科フクジュソウ、愛らしい花を咲かせるキク科アズマギク、花の変異が珍重されるサクラソウ科クリンソウなどが乱獲、あるいは土地開発により都市近郊から姿を消している。

【準絶滅危惧 NT】

宮城県内においてその生育地、個体数は減少しているが、現時点では比較的に生育状況が良好であり、急激に絶滅に向かうとは考えられないが将来に向けて監視の必要があると考えられるものを準絶滅危惧として選定した。

蘚苔（コケ）植物では、キャラハゴケ科コウライイチイゴケ1種のみである。

シダ植物では、ミズニラ科ミズニラ、ゼンマイ科ヤシャゼンマイ、ウラボシ科マメヅタなど10種を選んだ。被子植物では、オモダカ科サジオモダカ、ラン科ユウシュンラン、ヤナギ科トカチヤナギ 、アジサイ科タマアジサイ、シソ科ナミキソウ、キク科オオニガナなど147種を選んだ。宮城県RDB 2016で【準絶滅危惧】としたシソ科コナミキは誤同定、カヤツリグサ科オニナルコスゲ、シソ科タイリンヤマハッカは産地数、個体数ともに多いため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、84種→157種と73種増加ということになった。

ミズニラ科ミズニラ、サンショウモ科サンショウモ、オオバコ科カワヂシャ 、オモダカ科サジオモダカ、イバラモ科イトトリゲモ、ガマ科ミクリ、カヤツリグサ科サギスゲなどの水生植物は、生育域が狭められた上、生育環境の悪化により個体数が減少しているものの、県全体として差し迫った絶滅の危険性がないものと思われる。

キンポウゲ科スハマソウ、ムラサキ科ルリソウ、アヤメ科ヒメシャガ、アヤメ、ラン科ジガバチソウなどは園芸品として採掘され、個体数の減少が目立っている。

【情報不足 DD】

蘚苔（コケ）植物ではツボミゴケ科ユキミイチョウゴケ、キンシゴケ科ヒメキンシゴケ、イワダレゴケ科ヒヨクゴケなど6種を選定した。

シダ植物には該当種はない。被子植物では海産のアマモ科スガモ、オオアマモ、タチアマモ、キンポウゲ科オオヤマオダマキ、ツヅラフジ科ツヅラフジ、ベンケイソウ科ツメレンゲ、ゴマノハグサ科ヒナノウスツボの7種を選んだ。宮城県RDB 2016で【情報不足】としたクサスギカズラ科ナルコユリ、ナデシコ科ナガバツメクサは宮城県に自生しないため、また、スイレン科ネムロコウホネは標本未確認のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、10種→7種と3種減少ということになった。

【要注目種】

宮城県独自のカテゴリーであり、県内での分布状況、個体数などの点から絶滅の危険は低いと考えられるが、分布の北限・南限である、宮城県が基準産地である、環境省の絶滅危惧種に指定されている、県内において稀産であるなどの条件で選定した。

蘚苔（コケ）植物には該当種はない。シダ植物では、メシダ科シケチシダ、オシダ科ナンゴクナライシダ、ナンタイシダの3種、被子植物では、ラン科ヒメフタバラン、フサザクラ科フサザクラ、ブナ科アラカシ、キョウチクトウ科イヨカズラなど13種を選定した。宮城県RDB 2016で【要注目種】としたカヤツリグサ科ヒメガヤツリ、キキョウ科モイワシャジンは誤同定、イグサ科ミヤマイは標本未確認、シソ科タツナミソウは分類学的な扱いの変更のため削除した。宮城県RDB 2016と比較すると、39種→16種と23種減少ということになった。

【植物分科会名簿（執筆者）】

氏　名	所　属　等
浅井　元朗	宮城植物の会会員
市ノ渡　彰	宮城植物の会会員
上野　雄規	宮城植物の会会員
恵美　泰子	宮城植物の会会員・逝去
大越　秀樹	宮城植物の会会員
尾形　良太	宮城植物の会会員
葛西　英明	東北植物研究会会員
加藤　啓子	宮城植物の会会員
国京　潤一	宮城植物の会会員
境　　秀紀	宮城植物の会会員
菅野　登志子	宮城植物の会会員
杉山　多喜子	宮城植物の会会員
高橋　和吉	宮城植物の会会員
滝口　政彦	宮城植物の会会員
細谷　治夫	宮城植物の会会員
松永　和久	宮城植物の会会員・逝去
三島木　進	宮城植物の会会員
八巻　克己	宮城植物の会会員
横山　正弘	宮城植物の会会員

参考文献【維管束植物以外（蘚苔類）】
1. 飯柴永吉・植松榮次郎・加藤鐵次郎. 1912. 普通日本蘚苔図説. 568pp. 成美堂, 東京.
2. 飯柴永吉. 1932. 日本産蘚類の分類. 続日本産蘚類総説. 176pp. 西ヶ原刊行会, 東京.
3. 井上侑哉・山口富美夫. 2024. 日本産セン類の分類表. Hikobia 19:105-124.
4. 岩月善之助・水谷正美. 1972. 原色日本蘚苔類図鑑. 405pp. 保育社, 大阪.
5. 岩月善之助（編）. 2001. 日本の野生植物　コケ. 355pp.+192pl. 平凡社, 東京.
6. 片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. Hattoria 9: 53-102.
7. 環境省（編）. 2025. 第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物 蘚苔類. 環境省, 東京. 1195pp.
8. 滝田謙譲. 1999. 北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について. MIYABEA 4:1-84.
9. 野口彰. 1947,1948. 日本、琉球、台湾産イタチゴケ亜属及びメリンスゴケ亜族の蘚類（其一、其二）. 服部植物研究所報告2:27-79, 3:53-98.
10. 野口彰. 1955. 日本産蘚類の研究（17）. 植物研究雑誌第30巻第5号. 143-147.
11. Higuchi,M. 2025. Hisatsugia, a New Genus Based on Gollania splendens（Hypnaceae, Bryophyta）. J. Jap. Bot. 100(2): 117-123.
12. Horikawa, Y. 1929. Studies on the Hepaticae of Japan II. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. ser. 4, 4 : 395-429.Pl. 18.
13. Matsui,T. et Z. Iwatsuki. 1990. A taxonomic revision of the family Ditrichaceae（Musci）of Japan, Korea and Taiwan. J. Hattori Bot. Lab. 68:317-366.
14. Mizutani, M. 1961. A revision of the Japanese Lejeuneaceae. J. Hattori Bot. Lab. 24:115-302.
15. 宮城県環境生活部自然保護課. 2016. 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016. 503pp. 宮城県環境生活部自然保護課, 仙台.
16. 宮城県植物誌編集委員会（編）. 2017. 宮城県植物誌 370pp. 宮城植物の会, 大崎.
17. 宮城県野生植物分布図集編集委員会（編）. 2024. 宮城県野生植物分布図集［電子版］. 宮城植物の会, 仙台.
18. 宮城県野生植物目録編集チーム（編）. 2024. 宮城県野生植物目録2024［電子版］. 宮城植物の会, 仙台.
19. 横山正弘. 2018. 宮城県におけるウキゴケRiccia fluitans L.とその近縁種の分布および生態. 宮城の植物. 第43号:29-34.
20. Warnstorf, C. 1911. Sphagnales-Sphagnaceae（Sphagnologia universalis）546pp. in: Engler,A. ed., Das Pflanzenreich. 51. Heft. Verlag von Wilhelm Engelmann, Leipzig.

参考文献【維管束植物】
全体に関する文献
1. 上野雄規. 2001. 環境庁編RDB植物Ⅰに収録された宮城県産植物. 宮城の植物（26）: 25-34.
2. 滝口政彦・杉山多喜子・惠美泰子. 2017. 宮城県の絶滅危惧植物. 宮城県植物誌 123-132. 宮城植物の会.
3. 宮城県植物誌編集委員会（編）. 2017. 宮城県植物誌 37pp. 宮城植物の会.

各種に関する文献
1. 相場清一. 1975. 宮城県の2～3の興味ある植物. 宮城の植物（3）: 42-43.
2. 相場清一. 1977. 宮城県七ヶ宿町・白石市のミヤマツチトリモチ. ヤッコソウ・ツチトリモチの友 6（1）: 44.
3. 秋保大滝植物園植物目録担当者. 2006. 仙台市秋保大滝植物園植物目録. 19pp. 仙台市公園緑地協会.
4. 阿久津栄太郎. 1980. 宮城県白石市材木岩付近に発生しているミヤマツチトリモチ. ヤッコソウ・ツチトリモチの友 9（2）: 20-27.
5. 浅野 修・庄子邦光. 1988. 大倉山風穴（仮称）について. 宮城の植物（14）: 38-39.
6. 浅野 修・庄子邦光. 1991. 仙台市に自生！ -ヒメカイウの新産地. 宮城の植物（16）: 64-65.
7. 浅利聰温. 伊具郡丸森町における注目すべき植物の分布. 宮城の植物（5・6）:3-12.
8. 浅利聡温. 1984. 植物. 丸森町史 85-133＋3pl.. 丸森町.
9. 阿部功之. 2019. ホンゴウソウを仙台平野の丘陵地帯で確認. 東北植物研究（21）: 29-32.
10. 井波一雄. 1986. 東北地方基準産地植物図譜Ⅰ タキネツクバネウツギ・ハマヒナノウスツボ. 東北植物研究（3）: 1-6.
11. 井波一雄. 1988. 東北地方基準産地植物図譜Ⅲ シラカワタデ. 東北植物研究（5）: 1-3.
12. 井波一雄. 1992. 東北地方基準産地植物図譜Ⅴ タチドジョウツナギ. 東北植物研究（8）: 1-3.
13. 今井 力. 1987. 宮城県白石市大萩山の植物（2）. 東北の自然（31）: 18-22.
14. 上野雄規. 1972. 宮城県江島諸島植物誌. 92 pp. 自刊.
15. 上野雄規. 1973. 北上山地-田束山, 惣内山周辺の興味ある植物. やまくさ（3）: 7-10.
16. 上野雄規. 1974. 大鷹沢の植物誌. 180 pp. 蔵王自然保護協会.
17. 上野雄規. 1974. 箟岳丘陵の興味ある植物（1）. 北陸の植物 22: 24-27.
18. 上野雄規. 1976. 高等植物分布資料（90）ヤブミョウガ. 植物研究雑誌 51: 128.
19. 上野雄規. 1977. 宮城県迫町に分布する貴重な植物. やまくさ（4）: 35-39.
20. 上野雄規. 1978. 高等植物分布資料（97）チシマギキョウ. 植物研究雑誌 53: 83.
21. 上野雄規. 1979. 宮城県材木岩・虎岩周辺地域における植物相の概観. 宮城県材木岩・虎岩周辺地域植物調査報告書110-134＋2pl. 白石市及び七ヶ宿町教育委員会・建設省東北地方建設局七ヶ宿ダム工事事務所.
22. 上野雄規. 1985. 宮城県白石市に産する注目すべき植物. 宮城の植物（11･12）: 15-19.
23. 上野雄規. 1985. 高等植物分布資料（116）ヨコグラノキ. 植物研究雑誌 60: 268.
24. 上野雄規. 1986. 北本州植物分布資料（3）ヒメマイヅルソウ. 東北植物研究（3）: 20.
24-2. 上野雄規. 1987. 宮城県白石市権現山のシダ植物. 東北植物研究（4）: 4-13.
25. 上野雄規. 1988. 北本州植物分布資料（6）シラカワタデ. 東北植物研究（5）: 3.
26. 上野雄規. 1991. 北本州植物分布資料（12）ヒメミヤマウズラ. 東北植物研究（7）: 16.
27. 上野雄規. 1992. 北本州植物分布資料（13）ヒメノヤガラ. 東北植物研究（8）: 3；
28. 上野雄規. 1992. ヒメサユリの東限. 東北植物研究（8）: 39.
29. 上野雄規. 1996. 北本州植物分布資料（15）キヨスミヒメワラビ. 東北植物研究（9）: 10.
30. 上野雄規. 1996. 北本州植物分布資料（16）ハカタシダ. 東北植物研究（9）: 26.
31. 上野雄規. 1997. 東北におけるフサタヌキモの現状と保全. 植物地理・分類研究 45: 53-64.
32. 上野雄規. 1998. 仙台市太白山自然観察の森の植物相. 平成9年度（1997）仙台市太白山自然観察の森自然観察センター事業報告及び研究報告書 23-52.
33. 上野雄規. 1998. 植物版レッドリストに収録された白石市・丸森町産維管束植物. 白石植物愛好会会誌（29）: 23-27.
34. 上野雄規. 2007. タチスミレの宮城県産標本. 東北植物研究（13）: 48.
35. 上野雄規. 2007. カラフトダイコンソウを宮城で再確認. 東北植物研究（13）: 26.
35-2. 上野雄規. 2008. 宮城県維管束植物目録 89pp. 自刊.
36. 上野雄規. 2020. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 2 アブクマトラノオ・キンカアザミ. 宮城の植物（45）: 23-24.
36-2. 上野雄規. 2021. 宮城県の植物相における新知見Ⅰ. 宮城の植物（46）: 17-26.
37. 上野雄規. 2021. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 3 アブクマトウヒレン・チャボニリンソウ. 宮城の植物（46）: 27-28.
38. 上野雄規. 2021. 宮城県産ムカゴサイシン（ラン科）の生育状況についての詳報. 植物地理・分類研究 69: 103-106.
38-2. 上野雄規. 2022. 宮城県の植物相における新知見Ⅱ. 宮城の植物（47）: 16-25.
39. 上野雄規. 2022. 三陸沿岸固有種ハマヒナノウスツボの研究史 1907-2010年. 岩手植物の会会報（59）: 11-22；
40. 上野雄規. 2023. ハマヒナノウスツボの研究史. 宮城の植物（48）: 1-6.
41. 上野雄規. 2023. 宮城県産維管束植物のタイプ標本 5 ケスズダケ・ナトリアザミ. 宮城の植物（48）: 37-38.
42. 上野雄規. 2023. 宮城県植物誌（2017）補遺 維管束植物. 東北植物研究（23）: 37-46.
43. 上野雄規・上田宗敏. 1975. 宮城県にオサバグサ産す. 宮城の植物（3）: 44.
44. 上野雄規・薄葉 満・葛西英明. 2018. 宮城県栗原市におけるオオタヌキモの分布及び生育地の現状. 宮城の植物（43）: 22-28.
45. 上野雄規・大橋広好. 2007. エゾノチャルメルソウの南限と東北地方における分布. 植物研究雑誌 82: 355-356.
46. 上野雄規・森 俊. 1990. 宮城県にヒメタヌキモ産す. 食虫植物研究会会誌 41: 1-2.
46-2. 上野雄規. 2025. 宮城県の植物相に関する森俊先生（1930-2024）の業績. 宮城の植物（50）: 58-61.
47. 移川 仁・溝田浩二. 2005. 青葉山市有林（仙台市）の植物相（2）. 宮城教育大学環境教育研究紀要 8: 105-112.
48. 移川 仁（編）. 2010. 杜の都「青葉山」の今！ 青葉山自然観察ガイドブック 127pp. 青葉山の緑を守る会.
49. 惠美泰子. 2000. カザグルマに出会って. 宮城の植物（24・25）: 44-45.
50. 惠美泰子. 2008. 仙台市青葉区でトキホコリを確認. 東北植物研究（14）: 16.
51. 大野義輝. 宮城県のコモウセンゴケは越冬するだろうか. 食虫植物研究会会誌（56）: 9-11.
52. 大橋広好・立石庸一・黒沢高秀・梶田忠・横山正弘. 1990. 仙台城址およびその周辺地域の植物相. 仙台城址の自然 47-99＋3pl. 仙台市教育委員会.
53. 大橋広好・吉田 繁・上野雄規. 2004. ミヤマスカシユリの新分布. 植物研究雑誌 79: 140-142.
54. 大橋広好・吉田 繁. 2005. トウゴクサバノオの北限と分布パターン. 植物研究雑誌 80: 57-60.
55. 大柳雄彦. 1992. 一桧山・田代県自然環境保全地域の植物相・植生（一桧山地域）. 一桧山・田代県自然環境保全地域学術調査報告書 5-31. 宮城県保健環境部環境保全課.
56. 大柳雄彦・菅原亀悦. 1991. 船形山南西部の植物. 県立自然公園船形連峰（船形山南西部）学術調査報告書 11-21＋1pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
57. 大柳雄彦・平吹喜彦. 1994. 加護坊・箟岳山環境保全地域の植物相. 加護坊・箟岳山環境保全地域学術調査報告書13-42＋2pl. 宮城県.
58. 大柳雄彦・平吹喜彦. 1998. 斗蔵山県自然環境保全地域の植物相. 斗蔵山県自然環境保全地域学術調査報告書 13-33. 宮城県保健環境部環境保全課.
59. 大柳雄彦・平吹喜彦・三浦修. 1993. 県民の森緑地環境保全地域の植物相. 県民の森緑地環境保全地域学術調査報告 9-41＋2pl. 宮城県.
60. 岡崎 キヌ. 1988. 北本州植物分布資料（8）イチヨウラン. 東北植物研究（5）: 24.
61. 岡田要之助. 1926. おにばす分布ノ北限ニ就イテ. 植物学雑誌 15: 423-424.
62. 岡田要之助. 1926. おにばすノ根茎. 植物研究雑誌 3: 257-260.
63. 尾形良太. 2018. 築館いこいの森周辺の植物. 古川植物愛好会会誌（20）: 5-10.
64. 尾形良太. 2023. 三陸自動車道沿線の観察地を巡って. 古川植物愛好会会誌（24）: 3-11.
65. 尾形良太. 2024. 田束山の花を訪ねて. 古川植物愛好会会誌（25）: 5-9.
66. 小黒仁司・上野雄規・杉山多喜子・惠美泰子. 2008. 宮城大学食産業学部附属農場の植物相. 宮城大学食産業学部紀要 2: 1-24.
67. 小島和夫・齋藤宗夫・森 俊（編）. 2002. 角田市の自然 植物編 173pp. 角田市教育委員会.
68. 小野 治子. 1993. イノモトソウ. 宮城の植物（18）: 65.
69. 小原黒森風穴調査チーム（宮城植物の会内）. 2020. 小原黒森風穴の維管束植物相. 白石市文化財調査報告書第61集 小原黒森風穴並びに近隣の風穴における自然とその利用 38-44. 白石市教育委員会.
70. 葛西英明. 2008. 仙台市・大沼畔ハス池に出現した興味ある植物. 東北植物研究（14）: 35-41.
71. 葛西英明. 2009. 福島・宮城両県の新産植物など. 東北植物研究（15）: 33-35.
72. 葛西英明. 2011. 福島・宮城両県の新産植物. 東北植物研究（16）: 85-87.
73. 葛西英明. 2013. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2012年の現状. 東北植物研究（17）: 32-43.
74. 葛西英明. 2015. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2012年9月中旬から2013年10月の現状. 東北植物研究（18）: 43-53.
75. 葛西英明. 2017. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2013年10月から2014年10月の現状. 東北植物研究（19）: 65-74.
76. 葛西英明. 2019. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2014年11月から2015年11月の現状. 東北植物研究（20）: 31-41.
77. 葛西英明. 2019. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2015年9月から2016年11月の現状. 東北植物研究（21）: 33-46.
78. 葛西英明. 2021. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2016年11月から2017年11月の現状. 東北植物研究（22）: 5-40.
79. 葛西英明. 2022. 宮城県の東日本大震災津波浸水域における希少植物等の2017年11月から2018年11月の現状. 東北植物研究（23）: 51-56.
80. Kadota Y. 2009. Systtematic studies of Asian Saussurea（Asteraceae）Ⅲ. Saussurea fuboensis, a new species from the southernmost part of Tohoku District, northern Japan. J. Jpn. Bot. 84: 171-183.
81. Kadotta Y. 2011. Taxonomic studies of Cirsium（Asteraceae）in Japan ＸＸⅡ. Four new species from Honshu, central Japan. Bul. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B 37: 31-45.
82. Kadota Y. 2013. Systematic studies of Asian Saussurea（Asteraceae）Ⅵ. A new species and a new combination from Hokkaido and three new species from Honshu, Japan. J. Jpn. Bot. 88: 267-285.
83. Kadotta Y. 2014. Taxonomic studies of Cirsium（Asteraceae）in Japan ＸＸⅤ. Identity of Cirsium nipponicum（Maxim.）Makino and two new species from Tohoku district, northern Japan. Bul. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B 40: 73-94.

84. 狩野泰三. 1981. 宮城県宮城町の野生カザグルマの自生地. レポート日本の植物 (10): 95-96.
85. 萱場喜太郎. 1971. 亘理のコモウセンゴケの観察 (1). 食虫植物研究会会誌 (57): 4-9.
86. 萱場喜太郎. 1972a. 亘理のコモウセンゴケの観察 (2). 食虫植物研究会会誌 (59): 17-22.
87. 萱場喜太郎. 1972b. 亘理のコモウセンゴケの観察 (3). 食虫植物研究会会誌 (60): 5-9.
88. 菅野 洋・大柳雄彦. 2007. 植物. 登米市自然環境基礎調査報告書 34-114. 登米市市民生活部環境課.
89. 菊地政雄. 1968. 北上山地産ゴマノハグサ属の一新種. 国立科学博物館専報 1: 67-70.
90. 菊地政雄. 1968. 新種ハマヒナノウスツボについて. 岩手植物の会会報 (5): 1-13.
91. 木村紗重子・長橋美智子・長橋広幸. 2022. 宮城県仙台市でイチヨウランを確認. 宮城の植物 (47): 13.
92. 木村有香. 1954. 宮城県北部の海岸地帯の植物. 三陸海岸・牡鹿半島・松島学術調査書 (国立公園候補地) 21-68＋8pl. 宮城県商工部観光課.
93. 木村有香. 1955. 蔵王山の植物. 蔵王連峯学術調査書 (国立公園候補地) 7-51＋16pl. 宮城県観光課.
94. 木村有香・菅谷貞男. 1970. 松島産植物目録. 特別名勝松島 90-124. 第一法規.
95. 木村有香. 1980. 経ヶ峯の植物. 仙台市文化財調査報告書 第22集 経ヶ峯 (瑞鳳殿周辺) 75-108. 仙台市教育委員会.
96. 木村中外. 1973. 南三陸の植物. 南三陸海岸自然公園学術調査報告 31-36. 日本自然保護協会.
97. 木村中外. 1985. 長沼およびその周辺のフロラ. 尚絅女学院短期大学研究報告書 32: 1-11.
98. 木村中外・小川 茂. 1983. セキショウモ (Vallisneria natans (Lour.) Hara) の雄花 片細胞にみられる赤色顆粒について. 宮城の植物 (10): 1＋口絵1.
99. 木村中外・小倉洋志. 1976. 県立自然公園船形連峰の植物. 県立自然公園船形連峰学術調査報告25-36. 宮城県.
100. 木村中外・佐々木 豊・藤田 卓. 1992. 陸金華山国定公園の植物. 南三陸金華山国定公園学術調査報告書 71-150＋12pl. 宮城県.
101. 木村中外・佐々木 豊・庄子邦光・藤田 卓. 1994. 広瀬川流域の植物相. 広瀬川流域の自然環境 255-310.
102. 木村中外・藤田 卓. 1978. 自然公園蔵王連峰の植物. 蔵王国定公園・県立自然公園蔵王連峰学術調査報告 35-51. 宮城県.
103. 木村中外・藤田 卓. 1979. 県立自然公園二口峡谷の植物相. 県立自然公園二口峡谷学術調査報告12-20＋2pl. 宮城県.
104. 木村中外・藤田 卓. 1980. 県立自然公園気仙沼の植物相. 県立自然公園気仙沼学術調査報告書 16-22＋付図1. 宮城県生活環境部.
105. 木村中外・藤田 卓. 1981. 県立自然公園松島の植物相. 県立自然公園松島学術調査報告書 28-42. 宮城県生活環境部環境保全課.
106. 木村中外・藤田 卓. 1982. 仙台湾海浜県自然環境保全地域の植物相. 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書 21-50+2 pl. 宮城県.
107. 木村中外・藤田 卓. 1983. 高舘・千貫山県自然環境保全地域の植物相. 高舘・千貫山県自然環境保全地域学術調査報告書 21-64+8pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
108. 木村中外・藤田 卓. 1983. 栗駒国定公園の植物相. 栗駒国定公園及び県立自然公園旭山学術調査報告書 16-29＋2. 宮城県保健環境部環境保全課.
109. 木村中外・藤田 卓. 1984. 釜房湖県自然環境保全地域の植物. 釜房湖県自然環境保全地域学術調査報告書 15-49. 宮城県生活環境部環境保全課.
110. 木村中外・藤田 卓. 1985. 太白山県自然環境保全地域の植物相. 太白山県自然環境保全地域学術報告書 39-74+4 pl. 宮城県保健環境部自然保全課.
111. 木村中外・藤田 卓. 1986. 谷山県自然環境保全地域の植物相. 谷山県自然環境保全地域学術調査報告書. 35-61. 宮城県保健環境部環境保全課.
112. 木村中外・藤田 卓. 1988. 阿武隈渓谷県立自然公園 (仮称) 予定地の植物相 (丸森町の植物相). 阿武隈渓谷県立自然公園 (仮称) 予定地学術調査報告書. 35-89＋4pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
113. 木村中外・藤田 卓. 1988. 蕃山・斉勝沼, 権現森緑地環境保全地域の植物相. 蕃山・斉勝沼緑地環境保全地域, 権現森緑地環境保全地域学術報告書 33-65+8pl. 宮城県生活環境部環境保全課.
114. 木村中外・藤田 卓・佐々木 豊. 1989. 翁倉山県自然環境保全地域の植物. 翁倉山県自然環境保全地域学術調査報告書 21-47+9pl. 宮城県保健環境部環境保全課.
115. 京極隆弥. 1968. 宮戸島のフローラ. 宮城県高等学校教育研究会理科研究収録 (5): 27-67.
116. 京極隆弥. 1969. 仙台湾内の島嶼の植物. 宮城県の生物 51-89. 日本生物教育会第24回全国大会仙台大会実行委員会.
117. 京極隆弥. 1974. 伊豆沼に産する若干の注目すべき植物. 宮城の植物 (2): 1-2.
118. 京極隆弥・木村中外. 1973. 伊豆沼湖沼群内沼の水生植物. 伊豆沼湖沼群学術調査報告書 31-43. 日本自然保護協会.
119. 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1932. 金華山島の植物. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 7: 127-182.
120. 京道信次郎・加藤鉄治郎. 1938. 出島の石碑 (せきこく). 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 97-104.
121. 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1938. 岩井崎の植物. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 172-184.
122. 京道信次郎・加藤鐵治郎. 1940. 横倉の木の自生 (分布の北限). 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 12: 172-184.
123. 京道信次郎・加藤鉄治郎. 1940.「野花菖蒲」及「かきつばた」自生の群落. 宮城県史跡名勝天然記念物調査報告13: 137-140.
124. 国京潤一. 2016. 東北のアザミとその仲間たち 126pp. 自刊.
125. 国京潤一. 2017. 東北地方におけるアザミ属 (キク科) の形態およびそれに基づく検索表. 東北植物研究 (19): 1-26.
126. 熊耳久雄. 1976. レンゲショウマ雑記. 宮城の植物 (4): 26-28.
127. 熊耳久雄. 1985. 宮城県松島町のホンゴウソウ. 東北植物研究 (2): 56-57.
128. 黒沢高秀・大橋広好. 2000.「絶滅危惧ⅠA類ムサシタイゲキ」はセンダイタイゲキと区別できない -センダイタイゲキの分類と分布の再検討-. 植物研究雑誌 75: 104-110.
129. 黒沢高秀・庄子邦光. 1994. ヤマクボスゲの分布. 植物研究雑誌 69: 327-329.
130. 黒沢高秀・葛西英明. 2011. 阿武隈川および荒川の植物相. 阿武隈川流域の環境学 53-72. 福島民報社.
131. 小宮定志. 2011. 東北地方に見られる食虫植物についてのトピックス. 東北植物研究 (16): 31-38.
132. 斉藤 助. 1978. 宮城県のラン科植物について. 蘭和会会報 (1): 17-23.
133. 齋藤 清. 1973. 宮城県におけるトキリマメの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
134. 齋藤 清・岡崎 弘. 1973. 宮城県におけるトケンランの産地について. 宮城の植物 (1): 34.
135. 斎藤 慧. 1977. 異常穂型のスゲ-宮城県伊豆沼湖沼群周辺の高等植物. 福島生物 (20): 11-12.
136. 桜田 章. 1962. コモウセンゴケの研究. 食虫植物研究会会誌 (29): 1-3.
137. 佐々木 洋. 1990. 御嶽山県自然環境保全地域の植物・植生. 御嶽山県自然環境保全地域学術調査報告書 15-29. 宮城県保健環境部環境保全課.
138. 佐々木敏雄. 1978. 生きていたムラサキ. 白石植物愛好会会誌 (1): 10-11.
139. 佐々木 豊. 1973. 石巻市牧山の自然植生と注目すべき植物. 宮城の植物 (1): 1-9.
140. 佐々木 豊. 1987. 北本州植物分布資料 (4) クリンユキフデ. 東北植物研究 (4): 13.
141. 佐々木 豊. 1992. 北本州植物分布資料 (14) ヒメノヤガラ. 東北植物研究 (8): 41.
142. 佐々木 豊. 1994. 硯上山・万石浦県立自然公園の植物相. 硯上山・万石浦県立自然公園学術調査報告書13-79＋16pl. 宮城県.
143. 佐々木 豊. 1998. 植物. 石巻市自然環境調査報告書 3-20. 石巻市.
144. 佐々木 豊. 2021. 宮城県迫川水系におけるハナムグラの分布と生態. 宮城の植 (46): 41-57.
145. 佐々木 豊・上野雄規. 1973. 高等植物分布資料 (81) マツバラン. 植物研究雑誌 48: 204.
146. 佐々木 豊・大橋広好. 2007. モクゲンジの日本国内における分布と生態, および新品種のウスギモクゲンジ. 植物研究雑誌 82: 160-174.
146-2. 佐々木 豊. 2020. 佐々木豊遺稿集編集委員会(編), 三陸南部における中間温帯の植物 63pp. 宮城植物の会.
147. 佐藤彌市. 1973. 大関川流域の野草と葺. やまくさ (2): 20-22.
148. 佐藤彌市. 1975. 続大関川流域の野草. やまくさ (3): 4-6.
149. 佐藤彌市. 1979. 大関川流域の植物 (四). やまくさ (5): 6-9.
150. 清水大典. 1965. 新産地探訪 (6) ホソバツルリンドウ. 植物採集ニュース (19): 40
151. 下山祐樹. 2004. 河北町沢田山の植物目録. 宮城の植物 (29): 12-24.
152. 下山祐樹・吉田 馨. 2008. センウズモドキの花柄の毛について. 宮城の植物 (33): 38-39.
153. 下山祐樹. 2009. 仙台市西部の溜池の水草. 宮城の植物 (34): 25.
154. 下山祐樹. 2013. 宮城県の三陸沿岸における東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (38): 1-5.
155. 下山祐樹. 2014. 松島湾一帯における東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (39): 8-12.
156. 下山祐樹. 2015. 仙台市から山元町にかけての東日本大震災後の砂丘植生の分布状況. 宮城の植物 (40): 22-28.
157. 下山祐樹. 2015. ハマハコベ Honckenya peploides (L.) Ehrh. var. minor Hook. を宮城県気仙沼市で確認. 東北植物研究 (18): 55-56.
158. 下山祐樹. 2016. 石巻市南浜地区復興祈念公園 (仮称) 検討区域における植物相および植生. 宮城の植物 (41): 40-48.
159. 庄子邦光. 1983. 北限のギフベニシダについて. 東北植物研究 (1): 31-32.
160. 庄子邦光. 1983. 宮城県新産植物. 宮城の植物 (10): 54-55.
161. 庄子邦光. 1985. ステゴビルの新分布. 東北植物研究 (2): 51.
162. 庄子邦光. 1988. 高等植物分布資料 (123) チャボイ. 植物研究雑誌 63: 232.
163. 庄子邦光. 1990. “チシママツバイ”を求めて “チャボイ”との出会い. すげの会会報 (1): 15-19.
164. 庄子邦光・浅野修. 1991. 宮城県高等植物分布資料Ⅰ. 東北植物研究 (7): 33-36.
165. 白石市植物誌編集委員会(編). 1983. 貴重と思われる植物. 45-54. 白石市植物誌刊行会.
166. 末次健司・阿部功之・上野雄規. 2021. エンシュウムヨウラン (ラン科) を東北地方に記録する. 植物地理・分類研究 69: 193-196.
166-2. 末次健司・阿部功之・上野雄規. 2023. クロヤツシロラン (ラン科) を宮城県に記録する. 植物地理・分類研究 71: 79-82.
167. 菅野登志子. 2008. 仙台市葛岡墓園で観察された宮城県レッドデータブック掲載の植物. 宮城の植物 (33): 55-57.
168. 菅野登志子. 2013. ホンゴウソウ Schiaphila nana Blumeを宮城県仙台市で確認. 東北植物研究 (17): 15-16,
169. 菅原亀悦. 1983.七ヶ宿町有谷「ヨコグラノキ」自生地の調査報告書 14pp. 宮城県七ヶ宿町教育委員会. 七ヶ宿.
170. 菅原亀悦. 1995. 荒沢県自然環境保全地域候補地の植物相と植生. 荒沢県自然環境保全地域候補地学術調査報告書 5-43＋11. 宮城県.
171. 菅原長太夫. 1971. ふるさと歌津の草花-みやぎ田束山系の植物 94pp.「ふるさと歌津の草花」刊行協力委員会.
172. 菅谷貞男. 1961. 青葉山植物園に見られるヒメノヤガラについて. 日本植物学会東北支部報 11:3.
173. 菅原亀悦(監). 2014. 二口渓谷 三方倉山植物ガイドブック 189pp. 緑を守り育てる宮城県連絡会議.
174. 杉山多喜子. 2008.名取市及びその近辺の植物探訪記 (1). 宮城の植物 (33): 51-54.
175. 杉山多喜子. 2008. 名取市及びその近辺の植物探訪記 (2) 休耕田の絶滅危惧植物. 宮城の植物 (34): 21-24.
176. 杉山多喜子. 2012. 大津波後の名取市美田園調整池の植物 (藻類含む). 宮城の植物 (37): 19-23.
177. 杉山多喜子・葛西英明 2013. 大津波後の名取市下増田北原東の植物. 宮城の植物 (38): 9-15.
178. 杉山多喜子・葛西英明・恵美泰子 2013 東日本大震災大津波後の仙台市大沼の植物相の変化. 東北植物研究 (17) 44-52.
179. 杉山多喜子・葛西英明・恵美靖子. 2019. 東日本大震災大津波前後の仙台市海岸林の植物相の変化-2008年4月から2010年10月と2012年5月から2016年11月の比較. 東北植物研究 (21) 47-84..
180. 杉山多喜子・平吹喜彦・内藤俊彦 2018. 維管束植物 (シダ植物・裸子植物・被子植物). 岩沼市史 第9巻 特別編Ⅰ自然172－192. 岩沼市.
181. 杉山多喜子・滝口政彦. 2021. 仙台市蒲生の海浜で見つかったハマゴウ. 宮城の植物 (46): 29-31.
182. 仙台市の植物相調査委員会(編). 2010. 仙台市の植物相調査報告書 標本に基づいた仙台市野生植物目録 309pp. 仙台市講演緑地協会.
183. Suzuki S. 1964. Taxonomical studies on the Bambusaceous Genus Sasa Makino & Shibata Ⅰ. Jap. J. Bot. 18: 306 (1964)
184. 鈴木長治. 1954. 松島公園の植生分布状況について. 62 pp. 宮城県林務部治山課.
185. 髙橋和吉. 1972. 宮城県網地島植物誌. 142 pp+16 pl. 自刊.
186. 髙橋和吉.1974. 県内初発見 ヒゴスミレ. 宮城の植物 (2): 30.
187. 髙橋 和吉. 1975. キヨスミウツボについて. 宮城の植物 (3): 18-20.
188. 髙橋和吉. 1981. 貴重と思われる植物. 古川市化女沼および周辺地域植物調査報告書 22-29.
189. 髙橋和吉. 1987. 化女沼治水ダム建設工事植物調査及び移植業務報告書. 55pp. 宮城県古川土木事務所.
190. 髙橋和吉. 1989. 薬莱山・田谷地沼湖沼群地域の植物. 薬莱山・田谷地沼湖沼群地域学術調査報告書 31-58.
191. 髙橋和吉. 1992. 上荒沢・荒沢湖沼群地域の植物相. 上荒沢・荒沢湖沼群地域学術調査報告書 21-47.
192. 髙橋和吉. 2007. 栗原市花山で確認したトガリバイヌワラビとアズマシロカネソウ. 東北植物研究 (13): 59-60.
193. 髙橋和吉. 2014. 化女沼を北限とするシダ フモトシダとハカタシダ. 古川植物愛好会会誌 (16): 1-2.
194. 髙橋和吉. 2020. 蕪栗沼のトネハナヤスリ. 古川植物愛好会会誌 (22): 1-4.
195. 髙橋和吉・大野利男・後藤 淳. 2011. 金華山でシハイスミレを再確認. 宮城の植物 (36): 12-13.
196. 髙橋和吉・齋藤宗夫・森俊. 1999. 斗蔵山と周辺地域の植物. 斗蔵山周辺自然環境調査報告書 6-51. 角田市教育委員会.
197. 高山晴夫. 1989. 志津川の植物. 志津川町誌 Ⅰ 自然の輝 309-463. 志津川町.
198. 滝口政彦, 1975, 角田高校所蔵の明治時代の植物標本について, 宮城の植物 (3): 10-13.
199. 滝口政彦. 1983. 蔵王山におけるコマクサの分布と人為的影響. 東北植物研究 (1): 13-24.
200. 滝口政彦. 1984. 植物と動物. 角田市史Ⅰ通史編 (上) 108-177. 角田市.
201. 滝口政彦, 1985, 宮城県のカシ林の分布, 東北の自然 4: 8-13.
202. 滝口政彦・市ノ渡 彰. 2022. ムラサキセンブリ (リンドウ科) 絶滅記. 宮城の植物 (47): 14-15.

203. 滝口政彦・上野雄規. 2012. 宮城県のサクラバハンノキの分布と生態. 宮城の植物 (37): 27-31..
204. 滝口政彦・上野雄規. 2012. ヨコグラノキの北限地帯における生育地の調査報告. 宮城の植物 (37): 32-39.
205. 滝口政彦・杉山多喜子. 2020. ハマナス (バラ科) の虫こぶとハマナスの分布. 宮城の植物 (45): 11-13.
205-2. 滝口政彦・市ノ渡 彰・横山正弘. 2025. 秋保二口の三つ目の風穴. 宮城の植物 (50): 32.
206. 武田眞一. 2017. 東北地方におけるシロスミレ Viola patrinii DC. の分布と岩手県における自生地の植生. 東北植物研究 (19): 27-36.
207. 竹原明秀・内藤俊彦. 1986. 宮城県内のユビソヤナギ. 植物研究雑誌 61: 127-128.
208. 竹原明秀・伊藤 聡. 1992. 宮城県内のマツバラン. 植物研究雑誌 67: 367-377.
209. 立花繁信. 1975. 河北町の植物. 河北町史 65-85. 河北町.
210. 内藤俊彦. 1978. ソヨゴ (Ilexx pedunculosa Maxim.) (モチノキ科) の新産地. 宮城の植物 (5・6): 46-47
211. 内藤俊彦. 1981. ベニシュスラン (Goodyera macrantha Maxim.) の採集報告. 宮城の植物 (8・9): 55 + 口絵.
212. 内藤俊彦. 1991. 危機に瀕する宮城県産高等植物. 宮城の植物 (16): 69-72 + 1pl.
213. 内藤俊彦. 1994. ソヨゴ (Ilex pedunculosa Miq.). 市史せんだい 4: 57. 仙台市博物館.
214. 内藤俊彦. 2015. 平成23年 (2011) 3月11日の東日本大震災に伴う津波が仙台市若林区井土浦ハマナス群落に及ぼした影響. 宮城の植物 (40): 18-21.
215. 内藤俊彦・黒沢高秀・立石庸一. 1990. 仙台城址およびその周辺地域の植物分布. 仙台城址の自然 101-123 + 付図1. 仙台市教育委員会.
216. 内藤俊彦・柴崎 徹・菅原亀悦・飯泉 茂. 1992. 伊豆沼・内沼の植生. 伊豆沼・内沼環境保全対策に関する報告書 201-262 + 2pl. 宮城県生活環境部環境保全課.
217. 中井猛之進. 1943. 小原のヨコグラノキ. 天然記念物調査報告 植物の部 (20): 9-10 + 1pl.
218. 長島康雄・髙橋真実・攝待尚子. 2014 仙台西北部における北限ソヨゴ林の研究 1 ソヨゴ小林分の樹形に着目した検討. 仙台市科学館研究報告 (24): 62-67.
219. 長島康雄. 2015. 仙台西北部における北限ソヨゴ林の研究 2 匍匐枝による更新について. 仙台市科学館研究報告 (25): 42-47.
220. 日野 東・葛西英明. 2004. フラワートレッキング蔵王連峰 141pp. 無明舎出版.
221. 平吹喜彦. 1990. 森林帯の主要構成常緑樹11種の宮城県における分布状況. 文部省特定研究 宮城県における地域自然の基礎的研究 59-85. 宮城教育大学.
222. 藤田 卓. 1981. コウヤボウキ. 宮城の植物 (8・9): 55-56.
223. 細井幸兵衛.1999. 北本州植物分布資料 (17) ウスイロスゲ: 東北植物研究 (10): 22.
224. 細谷治夫. 2021. 横川流域に生育するクロブシヒョウタンボクの生育環境とフェノロジー. 宮城の植物 (46): 32-35.
224-2. 細谷治夫. 2025. 仙台市周辺におけるアキタスズムシソウの確認 (短報) . 宮城の植物 (50): 30-31.
225. 村井三郎・棟方啓爾. 1957. 北限カラマツ林の現状. 日本林学会大会講演習 67: 198-202.
226. 村上孝夫. 1993. 蔵王の花 268pp. 金港堂出版部.
227. 目黒 聡・滝口政彦. 2002. 宮城県のヒメバイカモの分布と生活史. 宮城の植物 (27): 9-15.
228. 森 俊. 1985. 宮城県角田市で北限の植物3種を採集. 東北植物研究 (2): 55-56.
229. 森 俊. 1987. 角田市のシダ植物. 宮城の植物 (13): 23-28.
230. 森 俊. 1987. 阿武隈山地北部での採集ノート II. 東北植物研究 (4): 15-16.
231. 森 俊. 1988. 角田市「内町湖」の興味ある植物. 宮城の植物 (14): 30-32.
232. 森 俊. 1989. 北本州植物分布資料 (10) チョウセンキンミズヒキ. 東北植物研究 (6): 6.
233. 森 俊. 1990. アオホラゴケとミヤマウメモドキ. 宮城の植物 (15): 20.
234. 森 俊. 1992.「角田市のシダ植物」補遺. 宮城の植物 (17): 39-40.
235. 森 俊. 2004. 宮城県内阿武隈川河岸でカワヂシャを確認. 東北植物研究 (11): 24.
236. 森 俊. 2007. 宮城県内 2 新北限種. 東北植物研究 (13): 14.
237. 森 俊. 2008. 北本州植物分布資料 (18) オモエザサ. 東北植物研究 (14): 15.
238. 安原修次. 1993. 仙台の花 196 + 4pp. ほおずき書籍.
239. 山口賢一・上野雄規. 1998. ヒロハイヌワラビ、イトスゲの新産地. 植物研究雑誌 73: 332.
240. 山下由美・山下俊之・移川 仁・小笠原宏晃・黒沢高秀. 2013. 東北地方新産のタンザワサカネラン (ラン科) とその生育地および花の形態. 分類 13: 119-122.
241. 山元町植生調査会(編). 1987. 山元町の植物 82pp. 山元町環境保全課.
242. 山元町植物植生調査会・山元町環境保全課(編). 1995. やまもとの植物. 152 pp. 山元町.
243. 結城嘉美. 1977. またまたヒメカイウの群生地. 植物採集ニュース 89: 54.
244. 吉岡邦二・菅原亀悦. 1975. 天然記念物「ヨコグラノキ北限地帯」調査報告書 12pp. 宮城県教育委員会. 仙台.
245. Yonekura K., Iketsu J. and Ohashi H. 1995. A New Species of Bistorta (Polygonaceae) from Japan. J. Jap. Bot. 70: 107-110.
246. 米倉浩司・牧雅之. 2015. 宮戸島の植物相. 宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討事業報告書 II 奥松島 II -自然・景観・歴史・文化9-58. 宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討実行委員会.
247. 林木育種協会(編). 1995. 第1回林木遺伝育種セミナー 隔離分布する天然生北限カラマツの特性と保存-幻のカラマツをみる 97pp. 林木育種協会.
248. 亘理町史編纂委員会(編). 2023. 維管束植物. 亘理町史 自然編 111-135. 亘理町.
249. 茨木 靖・仲村得喜秀・上野雄規. 2023. 宮城県新産タツノヒゲ属 (イネ科) 植物の検討. 植物研究雑誌 98: 150-155.
250. 斉藤憲治・速水裕樹. 2021. 2021. ミズワラビ属Ceratopterisの世界の北限とみられる記録. 伊豆沼・内沼研究報告 15: 25-30.
251. 松永和久. 2017. ヒメウズSemiaquilegia adoxoides (キンポウゲ科) の新北限地を宮城県大和町で確認. 宮城の植物 (42): 25-27.
252. 宮城県野生植物目録編集チーム(編). 2022. 宮城県野生植物目録2022 151pp. 宮城植物の会.
253. 岡本泰典. 2025. 10年を経て宮城の日々を想う-震災復興支援と宮城の植物を振り返って. 宮城の植物 (50): 11-20.
254. 宮城県野生植物目録 [電子版] 編集チーム(編). 2025. 宮城県野生植物目録 [電子版] 2024補遺. 宮城野植物 (50): 70-77.
255. 仙台市の植物相調査委員会(編). 仙台市の植物相調査報告書 標本に基づいた仙台市野生植物目録 309pp. (財)仙台市公園緑地協会.
256. 小原黒森風穴調査チーム(編). 2020. 白石市文化財調査報告書 第61集 小原黒森風穴並びに近隣の風穴における自然とその利用 61pp. 白石市教育委員会.

(執筆：滝口　政彦)

イボイボツノゴケ
Phaeoceros gemmifer

ツノゴケモドキ目
ツノゴケモドキ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

（撮影：横山　正弘）

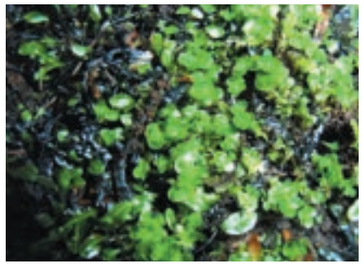
■**選定理由**　生育地は人家付近など、攪乱された狭い立地に限られており、開発により生育地、個体数共に著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道、本州に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市、大和町、栗原市では、生育する個体数が極めて少なく、仙台市、白石市、亘理町では生育が確認できない。
■**形態**　植物体は長さ2～3㎝、幅5～8㎜ほどで、中肋と細胞間隙がなく、表皮細胞が薄壁。腹面に、密にいぼ状の無性芽をつける。
■**近似種との区別**　ミヤケツノゴケとは、無性芽が長い柄をもたずいぼ状で、腹面に密につけることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成
■**保護保全上の留意点**　人為的に攪乱される立地に生育することから、保護・管理対策などは特に必要ない。
■**主要文献番号**　12、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

コマチゴケ
Haplomitrium mnioides

コマチゴケ目
コマチゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -


（撮影：横山　正弘）

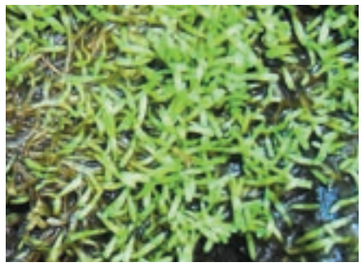
■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄、東アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の湿原の縁を流れる、小川周囲の地上に生育するが、水量の減少による乾燥化で、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は2㎝と緑色で多肉。茎は地下茎が匍匐し、地上茎が斜上ないし直立して分枝をする。葉は円形～卵円形で、円頭で全縁。造卵器は裸出して茎に頂生し、造精器も茎に頂生する。
■**近似種との区別**　キレハコマチゴケとは、生殖器官が茎に頂生し、葉が全縁であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　周辺湿原の乾燥化が見られることから、繁茂しているヨシなどの刈取りなど、集水域の保全対策が必要。
■**主要文献番号**　12、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

ウキウキゴケ
Riccia fluitans

ゼニゴケ目
ウキゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -


（撮影：横山　正弘）

■**選定理由**　全ての生育地で生育環境が悪化し、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～沖縄、世界各地に分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯や丘陵地帯の水田、ため池、河川に広く生育するが、水質汚濁、管理放棄等により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は淡緑色をした、長さ1～5㎝、幅1㎜ほどの細長いベルト状で、規則的に2叉状に分枝する。胞子体をつけることはごく稀で、日本では知られていない。
■**近似種との区別**　近似種のホソバウキゴケとは、腹鱗片が長さより幅が広く、半月状であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、水質汚濁、農薬汚染、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　生育する一部ため池は、周辺水田の耕作放棄から取水利用されずに荒れているため、災害防止の観点とあわせて適正な管理・保全が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18、19

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

カテゴリー	絶滅 (EX)	野生絶滅 (EW)	絶滅危惧I類 (CR+EN)	絶滅危惧IA類 (CR)	絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧II類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	要注目種

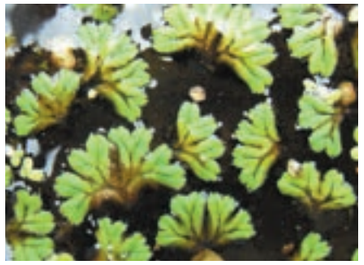
イチョウウキゴケ
Ricciocarpos natans

ゼニゴケ目
ウキゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　全ての生育地で生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～沖縄。世界各地に分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯や丘陵地帯の水田などに広く生育するが、耕作放棄や除草剤散布等の影響により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体はイチョウの葉状で、光沢のある緑色をしているが、秋ごろから赤紫色を帯びる。長さは1～1.5㎝前後で、気室孔が小さいが明瞭で、内部に数層の気室がある。腹鱗片は密につき、紫色をした長いリボン状で、縁に微鋸歯がある。
■**近似種との区別**　近縁のウキゴケ属の種からは、明瞭な気室孔があり、腹鱗片が多列につくことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、水質汚濁、農薬汚染、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　生育地である沼池の適正な水質管理と、水田耕地での適正な管理が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：横山　正弘）

エゾヤハズゴケ
Hattorianthus erimonus

クモノスゴケ目
チヂレヤハズゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州、中国、韓国、極東ロシアに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯等のコナラ林内の湿土上に生育するが、森林伐採の影響で生育不良となり、各地で個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は淡緑色～鮮緑色。葉状で長さ5㎝、幅5㎜前後。葉状体の中肋部内に、2本の中心束がある。腹鱗片は長毛状。雌苞膜は鱗片状。
■**近似種との区別**　クモノスゴケに似るが、中肋部内に2本の中心束があることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　森林内の立ち入れない立地にあるため、現状のままで良い。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘）

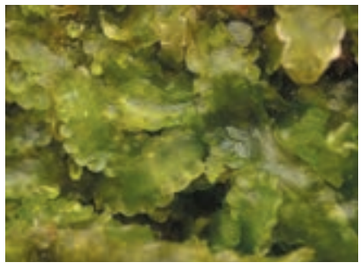
シフネルゴケ
Schiffneria hyalina

ツボミゴケ目
ヤバネゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体群の生育範囲が狭まり、個体数も著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄、東アジア、東南アジア、ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯や山地帯のモミやキタゴヨウ林内の腐木上に生育するが、乾燥化や低木の繁茂などから、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は葉が茎にゆるく重なってほとんど縦につくので、葉状体のように見える。葉は半円形で、円頭で全縁。腹葉はない。
■**近似種との区別**　シフネルゴケ属の種は、日本では本種のみ。日本産のヤバネゴケ科の種からは、茎が背腹に扁平で、葉状体のように見えることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、植物群落保護林、国定公園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：左木山　祝一［撮影地：京都府］）

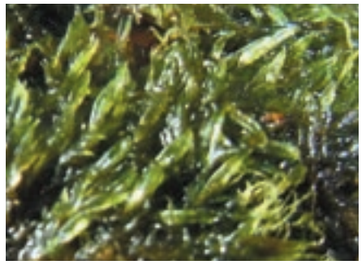
エゾヒメヤバネゴケ
Hygrobiella laxifolia

ツボミゴケ目
カサナリゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州、東アジア、ヨーロッパ、北アメリカの冷温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の渓谷の岩上等に生育するが、生育地が限られており、個体数も少ない。
■**形態**　植物体は緑褐色で、長さ3～10㎜、先端が立ち、下部からは鞭枝が生じる。葉は離在し、長卵形で葉先が1/4までV字状に2裂し、裂片の先端が尖る。腹葉は葉とほぼ同じ大きさ。
■**近似種との区別**　西日本に分布するニシムラヤバネゴケとは、腹葉があり葉に翼がないことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国定公園や県立自然公園として保護・保全されているため、現状のままで良い。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：横山　正弘）

ユキミイチョウゴケ
Mesoptychia heterocolpos

ツボミゴケ目
ツボミゴケ科

情報不足（DD）	
2016 -	環境省 CR

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で、周辺森林の伐採による生育環境の著しい変化から、現在生育が確認されていないため、絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　釧路（北海道）、八ヶ岳（山梨県）、南アルプス（長野県）、白山（石川県）、ヨーロッパ、北アメリカの北極周辺、中国などに分布する。
■**県内の生育状況**　現在、白石市の風穴地から生育が確認できず、現状不明である。
■**形態**　植物体は黄褐色で、長さ1.5㎝。葉はやや長く1/5～1/4まで浅く2裂する。腹葉は舌状で2裂し、基部に鋸歯がある。植物体上部は細く伸びて、先端部の葉先に1～2細胞性で楕円形をした無性芽をつける。
■**近似種との区別**　近似種からは、植物体の上部が細く伸びて、先端部の葉先に無性芽をつけることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採
■**主要文献番号**　16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘［服部植物研究所所蔵］）

ヨコグラハネゴケ
Plagiochila parvifolia

ツボミゴケ目
ハネゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、東アジア、北アメリカ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯や島嶼の森林の樹幹上に生育するが、森林伐採等による影響により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は黄緑褐色で、長さ2～5㎝。葉は三角形で著しく折れやすい。背縁は外曲し1～2歯があり、背縁基部が長く流下する。
■**近似種との区別**　他のハネゴケ科の種とは、葉が折れやすいので完全な葉がほとんどないという、顕著な特徴によって区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、ニホンジカ食害
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国立公園や県環境保全地域として保護・保全されているため、現状のままで良いが、生育環境の変化に注意する必要がある。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：道盛　正樹［撮影地：兵庫県］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

シゲリゴケ
Cheilolejeunea trapezia

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は1ヶ所で、極めて局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、小笠原、東南アジア～ニューギニアに分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼の森林の樹幹に生育するが、生育地がごく限られており、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は灰緑色で1～4㎝、着生基物上をはう。葉の腹片は背片の1/2の長さで、先端に1細胞幅で2～4細胞の長さの歯牙が1本ある。油体は1細胞に2個で、ブドウ房状。
■**近似種との区別**　オガサワラシゲリゴケに似るが、腹片の歯牙（2～4細胞長）の他、小さな葉のついた小枝が無く、背片の縁が内曲しないことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　産地局限、ニホンジカ食害
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：道盛　正樹［撮影地：兵庫県］）

ナカジマヒメクサリゴケ
Cololejeunea nakajimae

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育環境の悪化により、全ての個体群で、個体数が大幅に減少している。
■**分布の概要**　本州（主に日本海側）に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　山地帯の沢沿いなど、空中湿度の高い立地に生育する、ハイイヌガヤ等の葉上に着生して生育するが、個体数が少ない。
■**形態**　植物体は長さ0.5～１㎝前後で匍匐し、不規則に分枝する。葉は腹片と背片からなり、背片の背側の細胞に1個の乳頭状突起をもつ。腹片の表面は平滑で、基部に1～2細胞の糸状のスチルスがある。
■**近似種との区別**　同属の他の種とは、腹片の腹面側が平滑で、スチルスが1～2細胞層、葉の乳頭の高さが、5～7μmであることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国定公園や県立自然公園内にあるが、登山道沿いに生育しているものでは、刈取り管理がなされているので、配慮が必要である。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

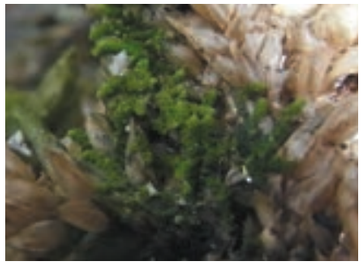
ヤマナカヨウジョウゴケ
Cololejeunea ornata

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地の全ての個体群は極めて小さく、生育環境の悪化により、個体数が大幅に減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に広く分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯のコナラ林内の岩上に生育する、シダ植物や蘚類の葉上に着生しているが、森林伐採の影響で生育不良となり、各地で個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は長さ1～3㎜前後で茎がはい、不規則に分枝する。葉は腹片と背片からなり、ともに表面に乳頭状突起があり、背片の先端が内曲する。腹片基部のスチルスは、多細胞性で棍棒状。
■**近似種との区別**　近似種とは、腹片の腹面側に乳頭状突起があり、スチルスが多細胞性で棍棒状であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地造成
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国立公園、保存緑地や城址公園などとなっており、保護・保全されているが、生育地周縁域の改変を避ける必要がある。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）


（撮影：横山　正弘）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ヨウジョウゴケ
Cololejeunea trichomamis

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県は太平洋側分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄、東アジア～東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼の森林の樹幹に生育するが、生育地がごく限られており、個体数も少ない。
■**形態**　植物体は白緑色で長さ10㎜前後。葉の背片は卵形で円頭。腹片は背片の約2/5の長さで卵形、先端が切頭で2個の小さな歯牙がある。葉細胞は薄膜で、トリゴン（細胞膜の隅にある肥厚）が大きい。
■**近似種との区別**　西日本に分布する近縁種のイボケクサリゴケとは、葉の背辺が背側に偏向せず立ち上らないこと、幅が基部で最大であることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　産地局限、ニホンジカ食害
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：道盛　正樹［撮影地：三重県］）

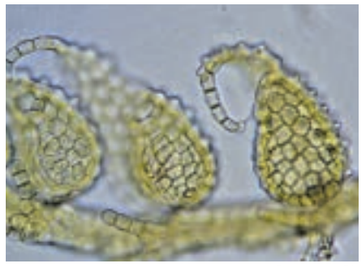
ナンヨウサンカクゴケ
Drepanolejeunea ternatensis

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育範囲が極めて狭く、個体数に大幅な減少が見られることから、絶滅の危険が増大している。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、台湾、東南アジア、オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼の林内の岩上等に生育するが、個体数が極めて少なくなっている。
■**形態**　植物体は黄緑色で、長さ5㎜と極めて小さい。葉の背片は長卵形で、葉先が著しく鎌状に曲がり、先端が鋭尖頭で背縁に大きな鋸歯がある。腹片は背片の1/2の長さで強く膨らむ。腹葉は離在して深く2裂する。
■**近似種との区別**　サンカクゴケに似るが、葉が著しく鎌状に曲がり、先端が鋭くとがることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　ニホンジカ食害、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国立公園内にあり、保護・保全されているが、ニホンジカによる周辺林床植物への採食圧が高く、生育環境が変化しているため、注意する必要がある。
■**主要文献番号**　14、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）


（標本写真：佐伯　雄史［大阪府産］）

マルバヒメクサリゴケ
Myriocoleopsis minutissima

クラマゴケモドキ目
クサリゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は国内分布の北限。生育環境の悪化により、個体数が大幅に減少している。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、小笠原、北半球の温帯に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯のコナラ樹幹などに着生するが、森林伐採等による影響で個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は長さ0.5～１㎝前後で茎がはい、不規則に分枝する。背片は円形で円頭。腹片は背片の3/4以上の大きさで、卵形の先端に1～3細胞の2歯牙がある。細胞膜は厚くトリゴン（細胞膜の隅にある肥厚）がない。
■**近似種との区別**　類似するヒメクサリゴケ属の種とは、腹片が背片の3/4以上の長さで大きく、トリゴンがないことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地造成
■**保護保全上の留意点**　生育地は、社寺林、県環境保全地域等として保護・保全されているところも多いので、現状のままで良い。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

クラマゴケモドキ
Porella perrottetiana

クラマゴケモドキ目
クラマゴケモドキ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄、東アジア～ヒマラヤ、インドに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯のコナラ林内の岩上に生育するが、森林伐採の影響により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は暗緑色で、長さ5～10㎝と大きく、規則的に1～2回羽状に分枝する。背片は内曲せず鋭尖で、先端部に数個の長歯があり、腹片と腹葉にも全周に長歯がある。
■**近似種との区別**　同属の他種からは、背片が内曲せず、葉の長歯が先端部のみにあること、腹片と腹葉の全周にも長歯があることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採
■**保護保全上の留意点**　生育地は、車道や登山道が整備され人の出入りも多いので、啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（撮影：左木山　祝一［撮影地：京都府］）

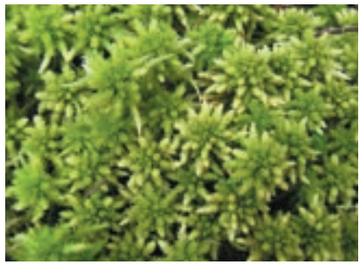
（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

フナガタミズゴケ
Sphagnum imbricatum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で、極めて狭い範囲に生育しており、危機的水準にまで減少している。
■**分布の概要**　北海道～本州、中国、インド、朝鮮半島、コーカサス、ヨーロッパ、アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市青葉区の丘陵地帯の湿地に生育するが､生育量が極めて少ない。
■**形態**　大形のミズゴケで、茎が細く、枝や葉がまばらにつく。茎葉は舌形。枝葉は卵状楕円形で深くくぼみ、長さ1.2～1.7㎜。葉緑細胞は、葉の横断面で正三角形で腹面側に広く開き、葉緑細胞に接する透明細胞の側壁に櫛の歯状の突起がある。
■**近似種との区別**　ミズゴケ節の他の種からは、大形で茎の表皮細胞にらせん状の肥厚があることで似るが、枝葉の横断面で葉緑細胞に接する透明細胞の側壁に、櫛の歯状の突起があることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、園芸採取
■**保護保全上の留意点**　地域住民による保護活動が行われているが、生育量がわずかなことから、より一層の啓発活動や監視の強化などの対応が必要。
■**主要文献番号**　1、15、16、17、18、20


（撮影：横山　正弘）

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

コアナミズゴケ
Sphagnum microporum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　丘陵地帯の開発により生育地が減少し、個体数も園芸用材料として採取されていることから、著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州、朝鮮半島、中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯や山地帯の湿地に生育するが､各生育地とも個体数が少なく、石巻市では生育が確認できない。
■**形態**　茎葉は舌形で、先端が円頭。縁に狭い舷（他の細胞から分化した細胞の帯）がある。枝葉は卵形で深くくぼみ、鎌状に片方に曲がっている。枝葉の透明細胞の背面側には、縁に沿って数多くの小さい孔が、不連続に列をつくる。
■**近似種との区別**　シタミズゴケなどからは、茎葉の縁にある舷が狭く、下部で広がらないことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、園芸採取
■**保護保全上の留意点**　丘陵地帯では太陽光発電施設などが設置されており、また園芸利用による採取もあることから、啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（標本写真:横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］）

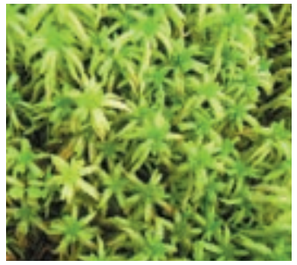
（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

オオミズゴケ
Sphagnum palustre

ミズゴケ目
ミズゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　園芸用材料としての採取及び開発などにより、生育地、個体数共に著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州、世界に広く分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯から亜高山帯の湿地及び湿原に生育する。七ヶ宿町の低地で、新たに生育を確認した。低地にある生育地では、宅地開発や園芸用材料として採取されていることから、消滅及び個体数が少なくなっている。
■**形態**　茎は長さが10㎝以上になり、頂端部に多くの枝が集まってつく。茎の表皮細胞には、らせん状の肥厚がある。茎葉は舌形で長さ2㎜前後、枝葉では卵状楕円形で深くくぼみ、長さ1.5～2㎜。葉緑細胞は、葉の横断面で二等辺三角形をしており、腹面側に広く開く。
■**近似種との区別**　ミズゴケ節の他の種からは、枝葉の葉緑細胞と接する透明細胞の側壁面に乳頭がなく、平滑であること、葉緑細胞が枝葉の横断面で腹面側に底辺があることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、湿地開発、土地造成、園芸採取
■**保護保全上の留意点**　自然公園内でも園芸用材として採取されることが多いので、より一層の監視と啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18


（撮影：横山　正弘）

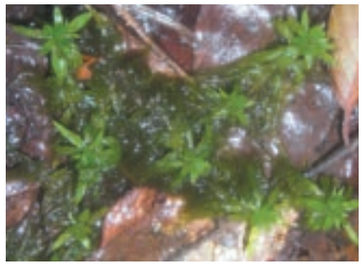
（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

シタミズゴケ
Sphagnum subobesum

ミズゴケ目
ミズゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化と園芸用材料として採取されていることから、個体数が著しく減少しており、絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～本州に分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯及び山地帯の湿地に生育する。各生育地では、森林伐採による乾燥化と園芸用材料としての採取により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　黄緑色をしたやや大形のミズゴケ。枝葉は長さ1.5～2㎜、広卵形で深くくぼむが歪まない。茎葉は1㎜前後の舌状で、透明細胞の腹面側に多数の孔がある。茎の皮層は1～2層。
■**近似種との区別**　ヒラハミズゴケとは、茎葉の透明細胞の腹面側に多数の孔があり、また、茎の皮層が1～2層であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取
■**保護保全上の留意点**　自然公園内でも園芸用材として採取されることが多いので、より一層の監視と啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18


（撮影：横山　正弘）

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

オキナスギゴケ
Polytrichum strictum

スギゴケ目
スギゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 DD

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で、極めて狭い範囲に生育しており、個体数も減少している。
■**分布の概要**　北海道～本州中部、朝鮮半島、中国、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、グリーンランド、パタゴニア、南極大陸に分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の特殊な環境にある風穴地に生育するが、周辺森林の伐採等による影響で、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は直立し、茎の長さが3～8㎝、葉が3～5㎜と短く、茎のほとんどがフェルト状の灰色の仮根で覆われている。
■**近似種との区別**　スギゴケとは、フェルト状の仮根以外に葉が短いこと、乾燥時に茎に強く接着することなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　風穴地の維持管理及び見学者への注意喚起が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（撮影：横山　正弘）

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

クマノチョウジゴケ
Buxbaumia minakatae

キセルゴケ目
キセルゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　全国的に稀な種で、県内でも生育地が少ない希少種。生育環境の変化により、生育地、個体数共に大幅に減少している。
■**分布の概要**　北海道～四国、朝鮮半島、中国、シベリア、北アメリカ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯及び山地帯の森林内の腐木上に生育する。大崎市や七ヶ宿町では、管理放棄により低木が繁茂しており、生育が確認できない。
■**形態**　配偶体の葉や茎が退化し、胞子体だけが目立つ。蒴柄は長さ2～3㎜、蒴が長さ3～5㎜で稜がなく、ほぼ円筒形。
■**近似種との区別**　ウチワチョウジゴケとは、腐木上に生育し、蒴に稜がなく円筒形で、扁平にならないことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　県立自然公園や保安林等に生育することから、来訪者への啓発活動が必要であるが、保護対策などは特に必要ない。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

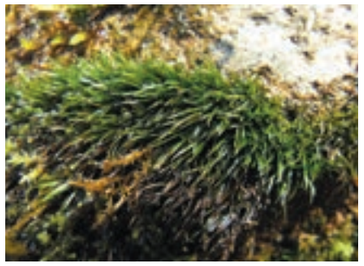
クマノゴケ
Diphyscium lorifolium

イクビゴケ目
イクビゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 DD

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～九州、朝鮮半島、中国、カシミールに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯と山地帯にある、森林内の沢沿の湿岩上に生育するが、森林伐採や土地造成等により、生育地及び個体数共に少なくなっている。
■**形態**　植物体は暗緑色で、葉がひも状に長く伸び、長さ6～12㎜で、乾くと内側に巻く。中肋は葉身の大部分を占め、横断面が楕円形。蒴は長さ5㎜ほどで非相称。
■**近似種との区別**　カシミールクマノゴケに似るが、葉は乾いてもあまり縮れず、中肋の両側の葉身部が、基部だけに認められることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地造成、自然災害
■**保護保全上の留意点**　生育地の一部は、県立自然公園及び県緑地環境保全地域として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：横山　正弘）

キヌシッポゴケモドキ
Brachydontium trichodes

ギボウシゴケ目
チヂレゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 DD

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で、個体群が極めて小さく、生育環境の変化により、絶滅の危険が増大している。
■**分布の概要**　北海道～本州、中国、ヨーロッパ、北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の特殊な環境にある風穴地に生育するが、面積が極めて小さな岩上に生育しており、個体数も少ない。
■**形態**　植物体は長さ1㎜以下と微小で、密に葉をつける。葉は細く、長さ1～1.6㎜。蒴は卵形で直立し、明瞭な縦の溝があり、乾くと深くしわよる。蒴歯は短いが、口環が良く分化する。
■**近似種との区別**　オリンピックゴケとは、蒴が葉の上に抜き出て卵形で、縦に溝があり、先端が切形の短い蒴歯があることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　人の踏みつけ、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　風穴地の維持管理及び自然愛好家への注意喚起が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：小林　亮平［石川県産］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

ヤマトハクチョウゴケ
Campylostelium brachycarpum

ギボウシゴケ目
チヂレゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の変化により、生育地、個体数共に減少している。
■**分布の概要**　本州～九州、北アメリカ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼や沿岸部、丘陵地帯及び山地帯の森林内の岩上に生育する。生育が確認できない沿岸部や山地帯の生育地では、震災や津波被害により、絶滅した可能性が高い。
■**形態**　高さ１～2㎜。葉は線形で長さ1～1.5㎜で、中肋が葉頂に達する。蒴柄は白鳥の首のように湾曲する。蒴歯は赤褐色で線形。
■**近似種との区別**　ハクチョウゴケに似るが、蒴歯が単一で2裂せず、蒴歯の間隔が広いことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、自然災害、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、県立自然公園や自然植物園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

ヒメキンシゴケ
Ditrichum macrorhynchum

キンシゴケ目
キンシゴケ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　仙台市（基準産地）から記録があるが、現在生育が確認されていない。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布する。
■**県内の生育状況**　現在、仙台市から生育が確認できず、現状不明である。
■**形態**　植物体は小形で長さ7～20㎜。葉は幅広い基部から狭披針形に漸尖し、長さ1～2㎜で葉縁が狭く反曲する。葉の細胞は基部で矩形～線形。蒴は円筒形で直立。仮根の上に無性芽をつくる。
■**近似種との区別**　イトキンシゴケとは、葉縁が狭く反曲し、葉が乾くと開出することで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成
■**主要文献番号**　13、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］）

チャボナガダイゴケ
Trematodon asanoi

ブルッフゴケ目
ブルッフゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　高地の湿潤な立地に生育するが、分布が局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州、九州、北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王山等の亜高山帯の登山道沿いの湿潤地に生育するが、登山者による踏みつけ等で少なくなっている。
■**形態**　小形で茎の長さは3～6㎜。葉は密につき、幅広い鞘部から急に中肋が針状に伸びる。蒴柄は黄色で長さ5㎜程度。蒴は褐色で長さ2㎜前後、頸部は壺とほぼ同じ大きさ。
■**近似種との区別**　キンシナガダイゴケに似るが、蒴がやや傾き、蒴柄が長さ5㎜程度と短く、鞘部の肩の細胞が薄壁であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　道路建設（登山道整備）、人の踏みつけ
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国定公園内にあるが、登山道沿いの湿潤地に生育するので、立ち入り制限や登山者への注意喚起が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

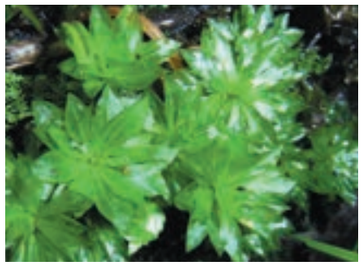
（作画：横山　正弘）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

オオカサゴケ
Rhodobryum giganteum

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -


（撮影：横山　正弘）

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化による減少が顕著で、一部個体群で絶滅の危険性が高い。
■**分布の概要**　本州～沖縄、朝鮮半島、中国、熱帯アジア、ハワイ、マダガスカルに分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯のハンノキ林下の湿地等に生育する。森林伐採等により、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は長さ6～8㎝、茎頂に大形で濃緑色の葉が集まり、湿ると傘を広げたような形になる。葉の上半の縁には、対になった鋭い歯が並んでいる。葉身細胞は六角形。
■**近似種との区別**　カサゴケモドキに似るがより大きく、葉縁に双生する歯をもつことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　治山工事に伴う森林伐採などにより、減少・消滅する恐れがあることから、より一層の監視が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

カサゴケモドキ
Rhodobryum ontariense

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

（撮影：加藤　啓子）

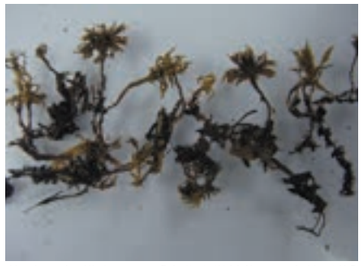
■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、一部個体群が消滅する可能性がある。
■**分布の概要**　北海道～九州、北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯と山地帯のコナラ林及びミズナラ林内に生育する。環境が悪化している生育地では、生育を確認できない。
■**形態**　植物体は1～3㎝ほどで、葉が傘状になる。傘の部分の葉は20～50枚あり、葉の長さが10㎜前後で、葉縁上部に単生の歯がある。葉身細胞は狭い六角形。
■**近似種との区別**　オオカサゴケより小形で、葉縁に単生の歯を持つこと、カサゴケとは葉の数がより多いことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　森林伐採などにより、減少・消滅する恐れがあることから、より一層の監視が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

カサゴケ
Rhodobryum roseum

ハリガネゴケ目
ハリガネゴケ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 -


（標本写真：横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］［山形県産］）

■**選定理由**　金華山から記録があるが、現在生育が確認されていない。
■**分布の概要**　北海道～四国、ヒマラヤ、ヨーロッパ、北アメリカ西部に分布する。
■**県内の生育状況**　現在、金華山から生育が確認できず、現状不明である。
■**形態**　植物体は1～2㎝。傘の部分の葉の数が20枚弱と少なく、葉先が狭く尖り、中肋が普通葉頂に達しない。葉縁の歯は単生。
■**近似種との区別**　カサゴケモドキに似るが、傘の部分の葉の数がより少ないことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移
■**主要文献番号**　1、15

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

テヅカチョウチンゴケ（アズミチョウチンゴケ）
Plagiomnium tezukae

ハリガネゴケ目
チョウチンゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 DD

（撮影：横山　正弘）

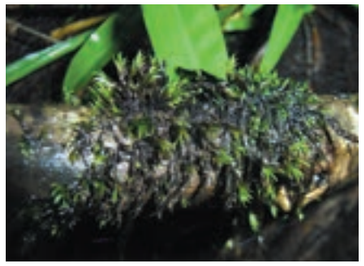
■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境が悪化し、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道～四国、朝鮮半島、中国に分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯のアカマツ林、カラマツ植林等の腐葉土が厚く堆積した場所に生育する。奥羽山脈周辺や北上高地の山々で確認されているが、個体数が少ない。
■**形態**　匍匐茎の葉は光沢のある黄緑色で長さ3～6㎜、卵形で葉縁に2～3細胞の大きな歯があり、円頭の葉先には短い突起がある。中肋は葉頂部に終わり、葉身細胞が長い六角形で厚壁、ところどころにくびれがある。
■**近似種との区別**　オオバチョウチンゴケに似るが、葉縁に2～3細胞の大きな歯があることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　林内の下層に低木が繁茂し、生育に影響が出ることのないよう、下刈りなどの適正な管理が求められる。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

コシノヤバネゴケ
Dichelyma japonicum

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT


（撮影：横山　正弘）

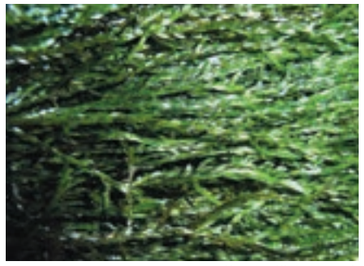
■**選定理由**　生育地は局限されており、環境の悪化により、全ての個体群で著しい減少が見られる。
■**分布の概要**　日本固有種で、北海道～本州中部にかけて分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の湿原や渓流沿いにある低木に着生して生育する。栗原市等の湿原などでは、過去に周辺森林が伐採された影響から、水路の流量が減少して乾燥化していることから、個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は暗黄緑色で、長さ5～10㎝。葉はややまばらにつき、長さ4㎜。中肋は葉先に達し、中肋部で葉が縦に折りたたまれる。葉縁は反曲し、葉の先端に小歯がある。蒴は円筒形で直立する。
■**近似種との区別**　クロカワゴケに似るが、水際に生育し葉が披針形で葉縁が反曲すること、葉頂に達する中肋があること、また蒴柄がより長いことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、湖沼開発、湿地開発
■**保護保全上の留意点**　生育地は、国定公園、県立自然公園として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

クロカワゴケ
Fontinalis antipyretica

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT


（撮影：横山　正弘）

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道、本州、北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の河川、湧水で涵養される水路などの水中に生育する。大崎市、石巻市では、護岸工事や水路の改修等で個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は黒緑色を帯び、長さ30㎝ほどに生長する。葉は長さ3～8㎜で広い披針形～卵形で、縦に折りたたまれ、舟形となる。葉は中肋を欠き、葉先が鈍頭で、目立たない鋸歯がある。蒴柄は非常に短い。
■**近似種との区別**　カワゴケに似るが、葉が縦に折りたたまれることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、水質汚濁
■**保護保全上の留意点**　河川や水路は、護岸工事や農業用水路として改修されることが多いことから、生育に配慮した工法での施工が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

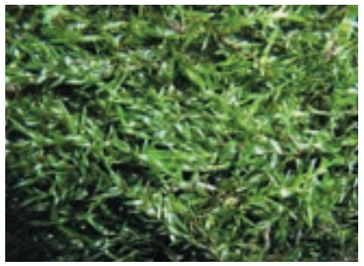
カワゴケ
Fontinalis hypnoides

ハイゴケ目
カワゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の変化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　北海道、本州、北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　南三陸にある寺院境内の湧水で涵養される池や周辺の水路にのみ生育するが、池等の浚渫等で個体数が少なくなっている。
■**形態**　植物体は柔らかく、葉をまばらにつけ、長さ20㎝ほどに生長する。葉は平坦で長さ1.5㎜、先端が尖り、狭い卵状披針形で全縁。
■**近似種との区別**　クロカワゴケに似るが、葉は普通平坦で、折りたたまれないことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、水質汚染、その他
■**保護保全上の留意点**　生育地は適正に管理されているが、池や水路の浚渫と除草など、過度の管理を行わないよう配慮する必要がある。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）


（撮影：横山　正弘）

ササオカゴケ（アオモリカギハイゴケ）
Sasaokaea aomoriensis

ハイゴケ目
ヤナギゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、個体数が著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～九州、韓国（済州島）、台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　大崎市にある湿地やその周辺にある休耕田、涌谷町の沼地等に生育する。沼地の改修工事や草本類の繁茂で、個体数が少量となっている。
■**形態**　植物体は大形で、匍匐し長さ10㎝。葉は卵形で茎に扁平につき、先端が鋭頭。茎一面に分岐した毛葉がつく。中肋は1本で、葉長の3/4以上に達する。
■**近似種との区別**　近似種とは、茎葉の先端が鎌状に曲がり鋭頭で、中肋が葉先に達せず、細胞が線状で薄壁であることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、湿地開発、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　生育に配慮した改修工事の実施と、繁茂したヨシ等の定期的な刈取りなど、適切な管理が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

コハイヒモゴケ
Meteorium buchananii subsp. *helminthocladulum*

ハイゴケ目
ハイヒモゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育地、個体数共に著しく減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄、朝鮮半島、中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の岩上や人家付近の石垣上に生育するが、福島県沖地震等の災害により、仙台市の一部で生育が確認できない。
■**形態**　植物体は10㎝ほどのひも状で、黄緑色で光沢があり、岩上などをはうか垂れ下がる。葉は深くくぼみ、葉先がまっすぐで短く、乾いても縦ひだが不明瞭。葉身細胞中央に、１個の大きい乳頭がある。
■**近似種との区別**　ハイヒモゴケに似るが、葉に縦ひだがなく、やや光沢があって深くくぼみ、葉先がまっすぐで短いことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、自然災害
■**保護保全上の留意点**　生育地は、仙台市の保存緑地や城址公園などとして保護・保全されているが、石垣周縁域の改変を避ける必要がある。
■**主要文献番号**　9、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］）

キヨスミイトゴケ
Neodicladiella flagellifera

ハイゴケ目
ハイヒモゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は局限されており、生育環境の変化により、生育範囲の減少及び個体数に著しい減少が見られる。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、小笠原、中国、熱帯アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　空中湿度の高い立地にある、モミ等の樹幹や枝に着生し生育する。松島町及び東松島市で新たに生育を確認したが、他の生育地では森林内の乾燥化などの影響により、生育範囲が狭められ、個体数も少なくなっている。
■**形態**　植物体は30㎝ほどで、枝や茎の基部の葉が大きく、糸状に垂れ下がる葉では小形で、鮮緑色をした絹状の光沢がある。葉は長さ2㎜、中肋が細く葉の中部に達する。葉身細胞は線形で、中央に１個の乳頭がある。
■**近似種との区別**　イトゴケに似るが、葉に中肋があり、葉細胞の乳頭が普通1個であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移
■**保護保全上の留意点**　生育地は、植物群落保護林、県立自然公園等として保護・保全されているが、来訪者へのさらなる啓発活動が必要。
■**主要文献番号**　9、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

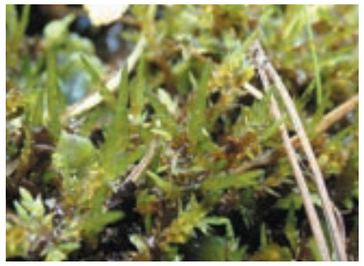
ヤリノホゴケ
Calliergonella cuspidata

ハイゴケ目
キヌゴケ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は局限されており、生育環境の悪化により、生育地、個体数共に大幅に減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州、アジアの温帯、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド、北アフリカに分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯及び丘陵地帯の水田周辺など、湿った場所に生育する。栗原市、七ヶ浜町で生育が確認されたが、他の生育地では、宅地造成等によって消滅及び個体数が少なくなっている。
■**形態**　茎は長さ10㎝ほどで、短い枝をやや羽状につける。葉は展開せず、枝先では覆瓦状に卵形の葉をつけてまっすぐに尖る。中肋は短く2叉する。
■**近似種との区別**　湿った場所に生育することから、ササバゴケ科の種と似ているが、茎葉の中肋が短く2叉することなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、管理放棄
■**保護保全上の留意点**　水辺での生育に配慮した改修工事の実施と、繁茂したヨシ等の定期的な刈取りなど、適切な管理が必要。
■**主要文献番号**　1、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）


（撮影：市ノ渡　彰）

オオカギイトゴケ
Hisatsugia splendens

ハイゴケ目
ハイゴケ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 EN

■**選定理由**　日本固有種で、仙台市青葉区東照宮が基準産地の一つ。現在生育が確認されていないため、絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　宮城県と千葉県、茨木県に分布する。
■**県内の生育状況**　現在、仙台市青葉区東照宮から生育が確認できないため、現存しているか不明である。
■**形態**　植物体は匍匐し、長さ8㎝ほどで、不規則に分枝し、葉を丸くつける。茎葉は楕円状披針形で深くくぼみ、葉縁が全縁で長さ2㎜、上部に向かってしだいに細くなる。
■**近似種との区別**　サジバラッコゴケとは、茎葉の先が漸尖して長く尖り、葉の縁が全縁であることなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、自然遷移
■**主要文献番号**　2、10、11、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］）

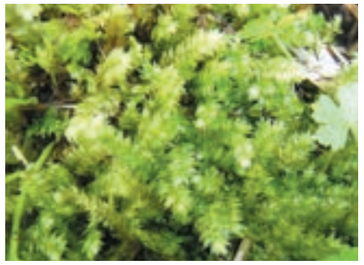
コウライイチイゴケ
Taxiphyllum alternans

ハイゴケ目
キャラハゴケ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　水辺環境の悪化で、生育地、個体数共に減少している。
■**分布の概要**　本州～九州、朝鮮半島、中国、極東ロシア、北アメリカ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平野地帯の水辺を中心に広く分布するが、湖沼開発や河川改修などで産地が減少しており、個体数も少なくなっている。
■**形態**　植物体は5㎝前後ではい、不規則に分枝する。葉はゆるく茎についてあまり重ならず、乾いても展開したままで、短く尖った葉先が下方を向く。葉は卵形ないし広卵形でくぼみ、多くが非相称、葉縁には細かい歯がある。
■**近似種との区別**　アオモリサナダゴケとは、葉がゆるく茎についてあまり重ならず、大きくて長さ2～4㎜、水辺に生育することで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、河川開発
■**保護保全上の留意点**　生育している平野部の池沼では、農業用水池としてコンクリート構造物で改修されることが多いため、環境に配慮した改修が必要。
■**主要文献番号**　15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：横山　正弘）

ヒヨクゴケ
Hylocomiastrum umbratum

ハイゴケ目
イワダレゴケ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　泉ヶ岳から採集された標本や不忘山（御前岳）から記録があるが、現在生育が確認されていない。
■**分布の概要**　北海道～本州、ロシア、中国、ヨーロッパ、北アメリカなどに分布する。
■**県内の生育状況**　現在、泉ヶ岳、不忘山から生育が確認できず、現状不明である。
■**形態**　植物体は暗緑色で頑丈で大形。茎は斜上し、不規則に枝を出す。茎葉は三角形で葉縁に細かい歯があり、先が長く尖り鎌形となる。枝葉は広卵形で、葉縁全周に荒い歯がある。中肋は2本で弱く、葉の中央で終わる。
■**近似種との区別**　シノブヒバゴケとは、茎葉の先端が長く尖り、中肋が2本であることで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移
■**主要文献番号**　1、15

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（作画：横山　正弘）

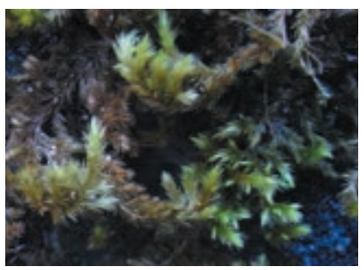
ヒムロゴケ
Pterobryon arbuscula

ハイゴケ目
ヒムロゴケ科

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　自然災害等により一部生育地が消失し、他の生育地でも個体数が減少している。
■**分布の概要**　北海道～沖縄、朝鮮半島、中国に分布する。
■**県内の生育状況**　樹幹、岩、石垣に着生する種で、金華山では個体数が少なくなっている。記録がある仙台市では、確認できていない。
■**形態**　大形で第一次茎は細く基物上をはい、第二次茎が立ち上がるか垂れ下がり、規則正しく2回羽状に分枝する。枝葉は2㎜前後で縦じわがあり、先端が鋭く尖る。中肋は葉の3/4に達する。葉先縁には大形の鋭い歯がある。
■**近似種との区別**　ヒムロゴケ科の他属の種からは、第二次茎が多くの枝を羽状に出し、葉が披針形に長く伸びてあまりくぼまず、中肋が長いことなどで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地造成、自然災害
■**保護保全上の留意点**　生育地の一つの島嶼は、国立公園として保護・保全されているので、現状のままで良い。
■**主要文献番号**　9、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）



（撮影：横山　正弘）

フクラゴケ（ナワゴケ）
Eumyurium sinicum

ハイゴケ目
ナワゴケ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。金華山から記録があるが、現在生育が確認されていない。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）～沖縄、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンに分布する。
■**県内の生育状況**　現在、金華山から生育が確認できず、現状不明である。
■**形態**　植物体は5㎝ほどで、主茎が長くはい、第二次茎が多数生じて斜上する。葉は覆瓦状について、枝がなわ状になる。葉は広卵形で舟形に深くくぼみ、縦ひだがある。葉先は急に細く尖り、ほぼ全縁。
■**近似種との区別**　宮崎県以南に分布するカクレゴケに似るが、小形で葉が乾くと茎に接着し、葉縁がほぼ全縁で、萌柄が10㎜と長いことで区別される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移
■**主要文献番号**　9、15、16、17、18

（執筆：宮城県希少野生動植物保護対策検討会植物分科会）

（標本写真：横山　正弘［東北大学植物園記念館所蔵］［福島県産］）

ミズスギ
Lycopodiella cernua

ヒカゲノカズラ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　噴気孔に生育していたが、周辺で地熱発電が行われたり、地殻変動のため噴気が無くなり、環境が寒冷になり生育不能となり絶滅した。
■**分布の概要**　本州の伊豆半島・東海地方から沖縄まで分布、東北・北海道にも例外的に分布している。世界の熱帯・亜熱帯に分布する暖地性植物である。
■**県内の生育状況**　大崎市鳴子地域の噴気孔地帯の一年中暖かい場所に生育していた。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　地熱発電、自然災害など
■**主要文献番号**　108

（執筆：植物分科会）

（生態写真：横山　正弘　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

チシマヒカゲノカズラ
Lycopodium alpinum

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は国定公園内の数ヶ所で、分布は局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州（福井県以北）の高山帯に分布している。北半球の温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山に稀に生育が見られるだけで、個体数も極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰［撮影地：山形県］）

スギラン
Phlegmariurus cryptomerinus

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は国定公園内の数ヶ所で、分布が局限されている。園芸品として乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道南部・本州・四国・九州・屋久島に分布している。南千島・朝鮮・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯のブナなどの樹上に稀に着生している。個体数が減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カタヒバ
Selaginella involvens

イワヒバ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　角田市角田近郊で採集された標本があるだけで、その後生育の確認はない。
■**分布の概要**　本州（福島県以南）・四国・九州・琉球列島の岩上や樹上に分布している。朝鮮・中国・台湾・熱帯アジアに広く分布する。
■**県内の生育状況**　角田市が分布の北限とされている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、園芸採取など
■**主要文献番号**　42、198、200

（執筆：植物分科会）

（生態写真：石隈　健斗［撮影地：埼玉県］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ミズニラ
Isoetes japonica

ミズニラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は50ヶ所程度で、農薬等の環境汚染、環境悪化に伴い生育地・個体数共に減少している。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼を除く地域の水田、池沼に生育する。環境悪化に伴い生育地、個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域で一時的に増加した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、水質汚染、干拓、管理放棄など
■**主要文献番号**　33、57、67、74、75、76、77、78、79、88、99、101、153、175、177、188、212、234、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ミズニラモドキ
Isoetes pseudojaponica

ミズニラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所あるが、ミズニラと同様に農薬による環境汚染、生育地の環境悪化に伴い、減少率も大きい。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　平野部から丘陵地の池沼、溜池に生育しており、生育地、個体数共に減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、水質汚染、池沼開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

ヒメハナワラビ
Botrychium lunaria

ハナヤスリ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所に局限され、個体数も極めて少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州（北陸地方以北）の高山帯に分布している。南千島・北半球・オーストラリア・南米に分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山のごく一部に生育が見られるだけで、個体数も極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　22、33、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ヤマハナワラビ
Botrychium multifidum var. *multifidum*

ハナヤスリ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州（中部地方以北）に分布している。ロシア・ヨーロッパ・北米に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、北上山地、島嶼の日当たりの良い草原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、草原開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

トネハナヤスリ
Ophioglossum namegatae

ハナヤスリ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県は分布の北限。平野部の河川域１ヶ所に生育地は局限されている。
■**分布の概要**　本州（宮城県・関東地方・大阪府・和歌山県）の河川の氾濫原に生育している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙北の平野部の河川域に群生して生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　144、194

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

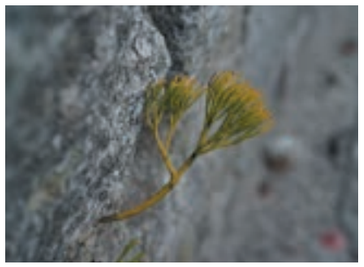
マツバラン
Psilotum nudum

マツバラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は国立公園内の２ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島・小笠原に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジア・オーストラリアの熱帯・亜熱帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　南三陸の島嶼にごく稀に少数が生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　42、100、143、145、208、212

（執筆：植物分科会）



（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

オニゼンマイ
Osmunda claytoniana

ゼンマイ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州（福島県・関東地方・中部地方）に分布している。ロシア（極東）・朝鮮・中国・南アジア・北米（東部）に分布する。
■**県内の生育状況**　山地の湿地などに生え、丸森町で採集された標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝沢　玲子［撮影地：福島県］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

ヤシャゼンマイ
Osmunda lancea

ゼンマイ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地が10ヶ所程度と限定されている。園芸品として乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道（日高）・本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　渓流の水飛沫を浴びるような所に生育し、生育地も限定され、乱獲されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害など
■**主要文献番号**　7、8、88、112、130

（執筆：植物分科会）

（撮影：岡崎　キヌ）

アオホラゴケ
Crepidomanes latealatum

コケシノブ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所に局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・琉球列島・小笠原の低地の山林に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアの亜熱帯～熱帯地域に分布する。
■**県内の生育状況**　岩上や樹上に着生するが、白石市に僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　233

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ホソバコケシノブ
Hymenophyllum polyanthos

コケシノブ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**分布の概要**　本州・四国・九州・琉球列島に分布している。世界の熱帯～暖温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　山地の湿った岩上、樹幹に生え、仙台市と丸森町で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

ウラジロ
Diplopterygium glaucum

ウラジロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は太平洋側北限。生育地は１ヶ所で極めて局限され、個体数も極めて少ない。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の島嶼部に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：合田　爽馬［撮影地：滋賀県］）

デンジソウ
Marsilea quadrifolia

デンジソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 EW	環境省 NT

■**選定理由**　最も新しい標本は約50年前の栗原市の池沼の標本である。池沼や水田などの環境悪化によって絶滅した。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州の水田や池沼に分布している。朝鮮・中国・ベトナム・ヨーロッパに分布する。
■**県内の生育状況**　３ヶ所の生育地の標本があり、自然条件では絶滅し、栽培条件下で生育は確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　19、88、118、135、188、212、216

（執筆：植物分科会）

（生態写真：新井　隆介［撮影地：岩手県］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

サンショウモ
Salvinia natans

サンショウモ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は30ヶ所近くあるが、減少率の高い所が半数近くある。環境悪化により生育地、個体数ともに減少している。
■**分布の概要**　本州・四国・九州（熊本県以北）に分布している。ロシア・朝鮮・中国・台湾・インド・東南アジア・ヨーロッパに分布する。
■**県内の生育状況**　各地の溜池、湖沼及び水田に生育する。環境悪化により生育地、個体数とも激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼改修、水質悪化、農薬汚染、管理放棄など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、88、175、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

オオキジノオ
Plagiogyria euphlebia

キジノオシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。阿武隈山地に生育地は１ヶ所に局限されている。
■**分布の概要**　本州（新潟県・宮城県以南）・四国・九州・琉球列島（奄美大島以北）に分布している。朝鮮・中国・台湾・南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の林床に生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　236

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ホラシノブ
Odontosoria chinensis

ホングウシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で極めて局限されている。
■**分布の概要**　本州（岩手県以南）・四国・九州・琉球列島・小笠原諸島に分布している。アジア・南太平洋・ハワイ・マダガスカルの熱帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の島嶼の一部にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　143

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

コバノイシカグマ
Dennstaedtia scabra

コバノイシカグマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は１ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　角田市の一部にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　42、228、229

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

フモトシダ
Microlepia marginata

コバノイシカグマ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県の分布は太平洋側北限。生育地は10ヶ所近くあるのでランクを下げた。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾・南・東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　乾いた林床に生え、県南、仙台市、仙北と広く生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発など
■**主要文献番号**　193、196、234

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ヒメミズワラビ
Ceratopteris gaudichaudii var. *vulgaris*

イノモトソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（山形–宮城以南）、四国、九州、琉球（沖縄島以北）に分布している。 アジアの亜熱帯や熱帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　松島町の海岸近くの平地の水田に生育。除草剤の散布等で絶滅する恐れがある。
■**近似種との区別**　以前はミズワラビだけだったが、本州から九州のものはヒメミズワラビに分けられた。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　産地極限、水田開発、農薬汚染など
■**主要文献番号**　250

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

リシリシノブ
Cryptogramma crispa

イノモトソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　本県が太平洋側の南限。生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の高山帯に分布している。アジア～ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の岩場に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　36-2

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

タチシノブ
Onychium japonicum

イノモトソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島（沖縄島以北）・小笠原諸島（父島）に分布している。朝鮮・中国・台湾・東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　東松島市の標本が一点ある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　246

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

イノモトソウ
Pteris multifida

イノモトソウ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は30ヶ所近くで限定的である。園芸品として採取される。
■**分布の概要**　本州（岩手県以南）・四国・九州・琉球列島（宮古島以北）に分布している。朝鮮・中国・台湾・アジアに広く分布する。
■**県内の生育状況**　平野部、丘陵地、島嶼等の石垣などに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など
■**主要文献番号**　69、196、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

マツザカシダ（マツサカシダ）
Pteris nipponica

イノモトソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は１ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島（沖縄島以北）に分布している。朝鮮・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　角田市の一部にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　67

（執筆：植物分科会）

（撮影：安達　悦之）

オオバノハチジョウシダ
Pteris terminalis　イノモトソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地２ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州・種子島に分布している。朝鮮・中国・台湾・南アジア・東南アジア・南太平洋・ハワイに分布する。
■**県内の生育状況**　富谷市、利府町の丘陵地のやや湿った林床に生育している。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：千葉県］）

ウスヒメワラビ
Acystopteris japonica　ナヨシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・屋久島に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の林内に局限的に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：茨城県］）

ウサギシダ
Gymnocarpium dryopteris　ナヨシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、特定の限られた立地にある。生育地、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州（岐阜県以北）に分布している。ロシア・朝鮮・中国・西アジア・ヨーロッパ・北米に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の特別な立地、風穴に僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　5、21、22、102、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

コバノヒノキシダ
Asplenium anogrammoides　チャセンシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で、局限されている。
■**分布の概要**　本州（福島県以南）・四国・九州・種子島に分布している。朝鮮・中国・ベトナムに分布する。
■**県内の生育状況**　角田市の丘陵で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

コハシゴシダ
Thelypteris angustifrons　ヒメシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は１ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島（沖縄島以北）に分布している。朝鮮（済州島）・中国南部・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の島嶼に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：千葉県］）

ハシゴシダ
Thelypteris glanduligera　ヒメシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県・宮城県以南）・四国・九州・琉球列島（与論島以北）に分布している。朝鮮・中国・台湾・フィリピン・インドシナ半島・南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　山元町と石巻市の島嶼に局限して生育し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然災害、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

コモチシダ
Woodwardia orientalis　シシガシラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は数ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部の七ヶ浜町、東松島市、石巻市に生育している。また、東日本大震災による津波の影響を受けている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、園芸採取、土地開発など
■**主要文献番号**　92、94、100、105、115、116、142、184、185、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ハコネシケチシダ
Athyrium christensenianum　メシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。朝鮮（済州島）・中国（浙江省）に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は湿った林床で局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発など
■**主要文献番号**　100、164、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

シケチシダ
Athyrium decurrentialatum　メシダ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は10ヶ所近くで限られている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮（済州島）・中国・台湾・ベトナム・南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、北上山地、阿武隈山地の丘陵地から山地帯に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　234

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝沢　玲子［撮影地：福島県］）

オクヤマワラビ
Athyrium distentifolium　メシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地１ヶ所で、極めて局限されている。
■**分布の概要**　北海道（知床半島・大雪山系）・本州（石川県以北）に分布している。朝鮮・ロシア・ヨーロッパ・北米の温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の一部のブナ林で僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：佐竹　惠一［撮影地：山形県］）

ホソバイヌワラビ
Athyrium iseanum var. *iseanum*　メシダ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で限られており、生育地、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地のやや湿った林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　78、196

（執筆：植物分科会）

（撮影：森　俊）

トガリバイヌワラビ
Athyrium iseanum var. *angustisectum*　メシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で、極めて局限されている。
■**分布の概要**　東北地方～四国・九州・屋久島に分布している。台湾・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　栗駒山のやや湿った森林の林床に稀に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　192

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）	絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

イワイヌワラビ
Athyrium nikkoense

メシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～本州・九州・屋久島に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の岩上に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ヒロハイヌワラビ
Athyrium wardii

メシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は２ヶ所で局限、ランクを上げた。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・スリランカに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王町の奥羽山地及び仙台市の森林下に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　239

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

ヤリホノシケシダ（ヤブシダ）
Deparia conilii var. *angustata*

メシダ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市と東松島市の丘陵地に分布は局限されている。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

コウライイヌワラビ
Deparia coreana

メシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、局限されている。
■**分布の概要**　北海道（胆振）・本州（新潟県以東）・四国（愛媛県）・九州（対馬）に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市、登米市、石巻市牡鹿半島のやや湿った林床に僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

セイタカシケシダ
Deparia dimorphophylla

メシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は１ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州・琉球列島（屋久島・奄美大島）に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　角田市の限定された湿った林床に僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

ヒカゲワラビ
Diplazium chinense

メシダ科

絕滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は１ヶ所で局限、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（新潟県以南）・四国・九州・琉球列島（沖永良部島以北）に分布している。朝鮮（済州島）・中国・ベトナムに分布する。
■**県内の生育状況**　仙北の丘陵地の森林の林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、森林伐採など
■**主要文献番号**　96

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：東京都］）

オニヒカゲワラビ
Diplazium nipponicum

メシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮（済州島）・中国（浙江省）に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地、島嶼の林内のやや湿った場所に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

オニカナワラビ
Arachniodes chinensis

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で極めて局限されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州に分布している。朝鮮・中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　角田市の一部にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　196

（執筆：植物分科会）

（撮影：佐竹　惠一［撮影地：山形県］）

ナンゴクナライシダ
Arachniodes fargesii

オシダ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で限られている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・インド（北東部）に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、阿武隈山地の林内に生育地は限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

ハカタシダ
Arachniodes simplicior

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州に分布している。朝鮮・中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　白石市、角田市、仙台市、大崎市で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　30、193

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ミヤコヤブソテツ
Cyrtomium yamamotoi

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限で、生育地は２ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　白石市と柴田町の丘陵地に生育している。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

オクヤマシダ
Dryopteris amurensis

オシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　北海道・本州（長野県以北）に分布している。ロシア（極東）・朝鮮・中国（北部）に分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰のブナ帯の林床にごく僅かに生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

サイゴクベニシダ
Dryopteris championii

オシダ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　白石市のスギ植林の一部の林床にごく僅かに生育していたが、採取などにより絶滅した。
■**分布の概要**　本州（山形県・宮城県以南）・四国・九州の低山の林床に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　白石市が太平洋側分布北限とされている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　24-2

（執筆：植物分科会）

（生態写真：上野　雄規　標本写真：上野　雄規［国立科学博物館植物研究部所蔵］）

ニオイシダ
Dryopteris fragrans

オシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は県立公園内の2ヶ所で、局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州（東北地方・長野県）に分布している。南千島・ロシア・朝鮮・中国（北部）・ヨーロッパ・北米に広く分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰、二口山塊の岩壁で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、森林伐採など
■**主要文献番号**　5

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：山形県］）

サクライカグマ
Dryopteris gymnophylla

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　分布の北限近くであり、生育地は数ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（岩手県以南の太平洋側）・九州（大分県）に分布している。朝鮮・中国・タイに分布する。
■**県内の生育状況**　松島町、柴田町の限定された立地にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　107

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

オオイタチシダ
Dryopteris hikonensis

オシダ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州・琉球列島（沖縄島・久米島以北）に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　県南地域から仙台市、塩竈市の丘陵地の林縁、斜面に分布は限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　229、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

ギフベニシダ
Dryopteris kinkiensis

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は１ヶ所で局限的である。
■**分布の概要**　本州（秋田県以南）・四国・九州に分布している。朝鮮・中国南部に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市でごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　101、159

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

リョウトウイタチシダ
Dryopteris kobayashii

オシダ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所と限定されている。
■**分布の概要**　本州（山形県-宮城県以南）・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の乾燥した林内に生える。白石市、川崎町、東松島町で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

イワカゲワラビ
Dryopteris laeta

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で極めて局限されている。
■**分布の概要**　北海道（北見・釧路・十勝）・本州（東北地方太平洋側・中部地方）に分布している。ロシア極東・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　登米市東和町の明るい林床という限定された立地にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明［撮影地：岩手県］）

キヨスミヒメワラビ
Dryopteris maximowicziana

オシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。本県の生育地は10ヶ所程度で局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮・中国・台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　利府町以南の湿った林床にごく僅かに生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　29、196、228、229、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ナンタイシダ
Dryopteris maximowiczii

オシダ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の２ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南・奈良県以東）に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、二口山塊の山地帯に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

イワオオイタチシダ
Dryopteris subhikonensis

オシダ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の関東内陸と西部日本海側に分布している。
■**県内の生育状況**　亘理町の低地の林床に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　252

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規［国立科学博物館植物研究部所蔵］）

イノデモドキ
Polystichum tagawanum

オシダ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　県中部以南の丘陵地の林内に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　254

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

マメヅタ
Lemmaphyllum microphyllum

ウラボシ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は20ヶ所程度で限定されている。園芸品として採取される。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球列島に分布している。朝鮮・中国・台湾・ベトナムに分布する。
■**県内の生育状況**　山元町、丸森町から石巻市までの沿岸部、島嶼及び内陸部の山裾の岩上や樹上に着生する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　7、8、96、100、105、112、115、116、119、130、142、143、184、185、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ナガオノキシノブ
Lepisorus angustus

ウラボシ科

絶滅（EX）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は角田市の岩上の1ヶ所のみであったが、絶滅が確認された。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・九州まで深山の樹上・岩上に着生、分布している。また中国に分布する。
■**県内の生育状況**　県南の角田市で過去に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　42、196

（執筆：植物分科会）

（生態写真：石隈　健斗［撮影地：山梨県］　標本写真：上野　雄規［国立科学博物館植物研究部所蔵］）

ヒメサジラン
Loxogramme grammitoides

ウラボシ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道（日高）・本州・四国・九州・屋久島に分布している。朝鮮（済州島）・中国・台湾・インド（北東部）に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市の山地の岩上で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　101、102

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：秋田県］）

エゾデンダ
Polypodium sibiricum

ウラボシ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　国定・県立公園内で2ヶ所生育地が局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州（中部地方以東）に分布している。南千島・ロシア（極東）・朝鮮・中国（北部）・モンゴルに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰と船形連峰の岩上で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

イワオモダカ
Pyrrosia hastata

ウラボシ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で限定され、個体数も少ない。園芸植物として価値が高く、乱獲され激減している。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国（安徽省）に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、阿武隈山地の岩場や樹幹に着生しているが、乱獲により個体数が激減し絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　55、100

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カラマツ
Larix kaempferi

マツ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　植林は多いが、国定公園内の高山で1ヶ所だけ自然分布が確認されている。
■**分布の概要**　本州の中部山岳地帯と宮城県・石川県側白山に隔離分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰馬ノ神岳で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　22、93、102、165、225、247

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

オニバス
Euryale ferox

スイレン科

絶滅（EX）	
2016	環境省
EX	VU

■**選定理由**　水田地帯の数ヶ所の沼地に生育記録があるが、埋め立てなどにより絶滅した。仙台市若林区大沼の100年前の標本が残されている。
■**分布の概要**　宮城県以南～九州の低地の池に分布している。台湾・中国南部・インドに分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市の池沼で過去に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発など
■**主要文献番号**　61、62、178、182、212、255

（執筆：植物分科会）

（生態写真：国京　潤一［撮影地：新潟県］　標本写真：上野　雄規［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

チョウセンゴミシ
Schisandra chinensis　マツブサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と局限され、個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部に分布している。アムール・朝鮮・中国・樺太に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市と白石市の奥羽山地の山地帯の林内に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ハンゲショウ
Saururus chinensis　ドクダミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は十数ヶ所で限定されている。湿地などの開発で生育地、個体数共に減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・フィリピンに分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の湿地、沼沢地に生育し、生育地、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　144

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ウマノスズクサ
Aristolochia debilis　ウマノスズクサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限定されている。
■**分布の概要**　本州の東北以南から九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の河川敷の日当たりのよい草地などに広く生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、土地造成など
■**主要文献番号**　16、17、88、130、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

フタバアオイ
Asarum caulescens　ウマノスズクサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は２ヶ所で限定されている。園芸採取される恐れがある。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南部の山地の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など
■**主要文献番号**　7、8、112

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ミチノクサイシン
Asarum fauriei var. *fauriei*　ウマノスズクサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。生きた化石のヒメギフチョウの食草の一つである。
■**分布の概要**　本州の東北地方・群馬県・新潟県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地に生育するが、生育地は限定的である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　108

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太［撮影地：山形県］）

オクエゾサイシン
Asarum heterotropoides　ウマノスズクサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県の分布は太平洋側南限。生育地は栗駒山の数ヶ所で局限されている。以前に森林伐採等により生育地、個体数が減少した。
■**分布の概要**　本州の東北地方・北海道に分布している。千島・樺太・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　栗駒山の山地帯のブナ林の林床に生育し、生育地、個体数は以前のような減少は発生していない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　108

（執筆：植物分科会）

（撮影：菅野　壽代）

ヤブニッケイ
Cinnamomum yabunikkei

クスノキ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は１ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　関東・北陸以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。韓国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　平野地区と島嶼に生育地は局限し、個体数も少ない。植栽からの逸出もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

マイヅルテンナンショウ
Arisaema heterophyllum

サトイモ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、限定されている。生育地、個体数が少し多いのでランクを下げた。
■**分布の概要**　本州の岩手県・秋田県～岡山県、九州に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　仙北の平野部の河川、池沼の畔の草本群落中に生育している。大崎市と松島町にまたがる品井沼に生育していた個体は干拓により絶滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　干拓、土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　92、96、144、194

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ヒメカイウ
Calla palustris

サトイモ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と局限されている。園芸採取により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部の水湿地に分布している。北半球の寒冷地に広く分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の池沼に少数点在して生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　6、56、101、243

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ナベクラザゼンソウ
Symplocarpus nabekuraensis

サトイモ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は1ヶ所と局限され、個体数も少ない。近年分類された種で詳細な生育地は情報不足。
■**分布の概要**　本州の北陸～東北地方の日本海側に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　大崎市の奥羽山地の湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然災害など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫［撮影地：山形県］）

ザゼンソウ
Symplocarpus renifolius

サトイモ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と極めて限られ、生育地、個体数ともに少ない。周辺の森林伐採や道路開発により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。朝鮮・樺太・ウスリー・アムールの水湿地に分布する。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の森林内湿地に生育する。生育地、個体数共に少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　7、112

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

チシマゼキショウ
Tofieldia coccinea var. *coccinea*

チシマゼキショウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で限られている。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国に分布している。千島・樺太・朝鮮北部・中国北部・アリューシャン・カムチャツカ・シベリア・アラスカ・カナダに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰から船形連峰にかけての奥羽山地の亜高山帯の岩場に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、220、226

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）	絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

チャボゼキショウ
Tofieldia coccinea var. *gracilis*　チシマゼキショウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の亜高山帯の湿原数ヶ所と局限されている。
■**分布の概要**　中部地方以北の本州・四国の山地・亜高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地の船形連峰、栗駒山に局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

サジオモダカ
Alisma plantago-aquatica var. *orientale*　オモダカ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限定的である。農薬汚染などにより生育地や個体数が減少している。
■**分布の概要**　北海道・本州北部に分布している。アジア北東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の水田、沼沢地に広く生育する。農薬汚染などにより生育地や個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域にも出現したが，復旧工事により消滅した所が多い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、農薬汚染、管理放棄など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、130、179、180、230、231、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

マルバオモダカ
Caldesia parnassiifolia　オモダカ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州～奄美大島に分布している。中国・インド・オーストラリア・マダガスカルに分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の湿地に生える。生育する水湿地の環境の変化により絶滅する恐れがある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発、土地造成など
■**主要文献番号**　212

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

アギナシ
Sagittaria aginashi　オモダカ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は十数ヶ所で限られている。土地開発や管理放棄などにより個体数は減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　水田、水田の用水路、池沼に生育する。生育地は限られており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、88、189

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ウリカワ
Sagittaria pygmaea　オモダカ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度であるが、水質汚染等で減少している。
■**分布の概要**　北海道から沖縄に分布している。アジアの温帯から熱帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の溜池、水田に広く生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、管理放棄など
■**主要文献番号**　174、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

スブタ
Blyxa echinosperma　トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。東アジア・東南アジア・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　山間の自然度の高い水田などに生育している。農薬汚染、耕作放棄などにより絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、水質汚染、耕作放棄など
■**主要文献番号**　33、67、180、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：森　俊）

ヤナギスブタ
Blyxa japonica

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は十数ヶ所で限られており、土地開発や管理放棄などにより個体数は激減している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。東アジアにも分布する。
■**県内の生育状況**　水田、水田の用水路、池沼に生育する。生育地は限られており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　180、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

トチカガミ
Hydrocharis dubia

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は十数ヶ所と比較的多いのでランクを下げた。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。東南アジア～オーストラリアの温帯～熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　河川、湖沼に生育しているが、生育地が限られている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。湖沼の開発などによる減少が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼開発、水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　75、88、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ムサシモ
Najas ancistrocarpa

トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　本県が分布の北限で、生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州・四国に分布している。台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は池沼、溜池に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　88、164

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

サガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）
Najas chinensis

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で限られている。絶滅、個体数が減少した所も多い。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。東南アジアにも分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の貧栄養の池沼や山間部の水田や用水路に生育する。津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、水田改修、水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　33、73、74、75、76、77、78、177、178、196、212、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

イトトリゲモ
Najas gracillima

トチカガミ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で各所に見られるが限定されている。湿地の開発が進行しており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。東アジアにも分布する。
■**県内の生育状況**　平野部、丘陵地の貧栄養の池沼、水田や用水路に生育する。2011年の東日本大震災の津波に遭遇した後に、新たに生育した所、消滅した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水田改修、水質汚染、農薬汚染、管理放棄など
■**主要文献番号**　33、73、74、75、76、77、78、101、177、178、196、212、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

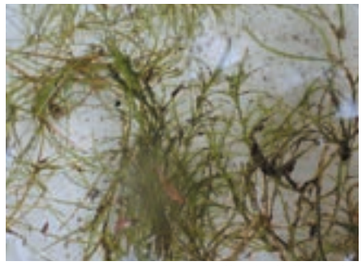
ホッスモ
Najas graminea

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で限られている。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。世界の温帯～熱帯に広くに分布する。
■**県内の生育状況**　貧栄養の池沼や山間部の水田や用水路に生育する。生育地は減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、水田改修、水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　76、78、88、189、246

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

イバラモ
Najas marina

トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～奄美諸島に分布している。世界の温帯～熱帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は県北の池沼、溜池に限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、自然災害、池沼開発など
■**主要文献番号**　88

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明［撮影地：福島県］）

トリゲモ
Najas minor

トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度とごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は池沼、溜池に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

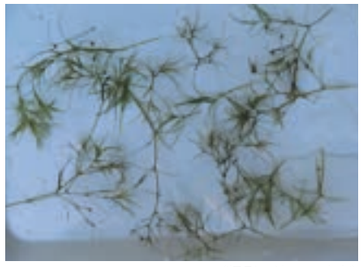
オオトリゲモ
Najas oguraensis

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上と少し多いのでランクを下げた。生育地の減少が目立つ。
■**分布の概要**　東北地方以南の本州・四国・九州・沖縄に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は池沼、溜池等に限られており、水質汚染などによる絶滅が危惧される。津波浸水域で一時的に増加。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、農薬汚染、水質汚染など
■**主要文献番号**　74、76、77、78、79、88、117、118、188、216

（執筆：植物分科会）



（撮影：滝口　政彦）

イトイバラモ
Najas yezoensis

トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は1ヶ所でごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州・北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　湖沼や溜池に稀に生育する。県南の溜池に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ミズオオバコ
Ottelia alismoides

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は60ヶ所以上と多いが、減少率の大きい場所が多いのでランクを上げた。水湿地は開発が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州・沖縄に分布している。アジアの熱帯～温帯域・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　各地の水湿地や水田等に局限的に生育する。津波浸水域で一時的に増加。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、水田改修、農薬汚染、水質汚染など
■**主要文献番号**　67、73、75、76、77、78、79、175、177、178、180、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

コウガイモ
Vallisneria denseserrulata

トチカガミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地が20ヶ所程度と比較的多いのでランクを下げたが、分布は限られている。
■**分布の概要**　本州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の池沼、河川に生育している。東日本大震災の津波浸水域でも確認されたが、復旧工事等で消滅したところもある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、農薬汚染、水質汚染など
■**主要文献番号**　88、151、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

セキショウモ
Vallisneria natans

トチカガミ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所ではごく限られている。環境の悪化により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。アジア・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　溜池、用水路などに生え、生育地も少なく、土地開発により生育地が狭まっている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、水質汚染、土地開発など
■**主要文献番号**　88、98、189

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

シバナ
Triglochin asiatica

シバナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と、ごく限られている。生育地、個体数とも少なくなった。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。北半球の温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　海岸塩生湿地に生育するが、東日本大震災の津波により個体数は激減した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、78、100、142、143、209、212、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

オオシバナ
Triglochin maritimum

シバナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は以前は10ヶ所以上あったが、生育地、個体数とも少なくなった。
■**分布の概要**　北海道・本州北部・中部の高地に分布している。北半球の温帯～亜寒帯に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸塩生湿地に生育するが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも激減した。
■**近似種との区別**　シバナとの違いは葉幅が狭く、果実は楕円形。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

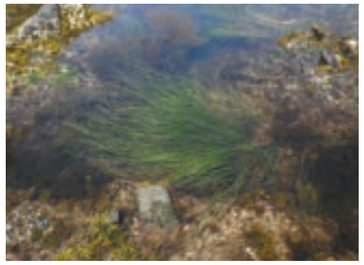
スガモ
Phyllospadix iwatensis

アマモ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限られている。海生種子植物であり詳細は分かっていない。
■**分布の概要**　北海道・本州北部に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国北部の海中に分布する。
■**県内の生育状況**　松島湾～三陸海岸南部の海水中の砂地に生育する。東日本大震災の津波に遭遇し、生育地および個体数が減少したり、絶滅した生育地もあるものと思われる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海洋開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　105、246

（執筆：植物分科会）



（撮影：大越　秀樹）

オオアマモ
Zostera asiatica

アマモ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されている。海生種子植物であるが分布の詳細は分かっていない。
■**分布の概要**　北海道に分布している。千島・朝鮮の海中に分布する。
■**県内の生育状況**　三陸海岸の海水中の砂地に生育し、女川町の標本がある。東日本大震災の津波に遭遇し、絶滅した生育地もあるものと思われる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海洋開発、自然災害、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

スゲアマモ
Zostera caespitosa

アマモ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　海底に生えるアマモ科の植物、国立公園内の標本が１点あるのみである。
■**分布の概要**　宮城県以北の太平洋・日本海海岸に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の海中で採集した標本がある。生育地の情報が不足し、実態がよくわからない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発など
■**主要文献番号**　42

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

タチアマモ
Zostera caulescens

アマモ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。海生種子植物であるが分布の詳細は分かっていない。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北の海中に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　松島湾～三陸海岸の海水中の砂地に生育する。東日本大震災の津波に遭遇し、生育地および個体数が減少したり、絶滅した生育地もあるものと思われる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海洋開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　246

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

コアマモ
Zostera japonica

アマモ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と少なくランクを変えた。
■**分布の概要**　北海道～沖縄に分布している。東アジアの亜寒帯～熱帯の内湾等に分布する。
■**県内の生育状況**　現在知られている生育地は塩釜湾から三陸沿岸にかけての海中である。海生種子植物である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害など
■**主要文献番号**　246

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ホソバヒルムシロ
Potamogeton alpinus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の東北地方に分布している。北半球の北部に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は仙北の奥羽山地の谷地で、極めて限られている。水質などの変化で絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　164、170、191

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

イトモ
Potamogeton berchtoldii

ヒルムシロ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は60ヶ所以上と多いが、減少率が大きい所が多くランクを変えた。生育地、個体数とも激減している。
■**分布の概要**　日本全土に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　各地の沼沢、湖沼、水路等に生育する。沿岸部では東日本大震災の津波に遭遇し消滅した生育地もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　沼沢開発、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　32、33、70、74、75、78、178、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

エゾヤナギモ
Potamogeton compressus

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道・中部地方以北の本州に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は平野部の湖沼、河川で水質などの変化で絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　88

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

コバノヒルムシロ
Potamogeton cristatus

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上あるが限られている。個体数が減少している場所もみられる。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られ,個体数も少ない。東日本大震災の津波浸水域で生育が確認された地点ではその後消滅。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　52、75、76、78、101、143、189、212、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：浅井　元朗）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

エゾノヒルムシロ
Potamogeton gramineus　ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく限られている。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布する。北半球の寒冷地に広く分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の池沼、沼沢に生育するが、生育地はごく限られている。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

センニンモ
Potamogeton maackianus　ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度あるが、限られている。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。東南アジア北部にも分布する。
■**県内の生育状況**　湖沼、池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られている。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、富栄養化など
■**主要文献番号**　74、88

（執筆：植物分科会）

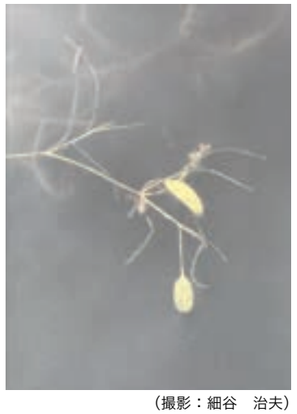
（撮影：石隈　健斗［撮影地：茨城県］）

ホソバミズヒキモ
Potamogeton octandrus var. *octandrus*　ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あるが限られている。絶滅あるいは個体数が減少した所もある。
■**分布の概要**　北海道～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　湖沼、池沼、沼沢地等に生育するが、生育地は限られている。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　73、88、130、153

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

ミズヒキモ
Potamogeton octandrus var. *miduhikimo*　ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で、ごく限られている。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　池沼、沼沢地等に生育するが、生育地はごく限られている。個体数も少ない。津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　74、78、88、189

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ヒロハノエビモ
Potamogeton perfoliatus　ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。世界の温帯～亜熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　仙北の限られた池沼、河川に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、水質汚染、池沼開発、河川開発など
■**主要文献番号**　88

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

ツツイトモ
Potamogeton pusillus　ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は40ヶ所以上で、2011年の東日本大震災の津波後急激に増加したが、復旧工事により減少。それ以前は生育地は3ヶ所であった。
■**分布の概要**　本州・四国に分布している。ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は沿岸部の池沼、河川に限られている。水質などの変化で絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、176、177、179、180、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ササバモ
Potamogeton wrightii

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、ごく限られている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地はダム、池沼に極限られている。個体数も少ない。東日本大震災の津波浸水域で新たに確認された生育地もあったが一時的であった。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、水質汚染、農薬汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　77、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

リュウノヒゲモ
Stuckenia pectinata

ヒルムシロ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地が30ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げたが、分布範囲は淡水から汽水域の湖沼や水路に生育する。
■**分布の概要**　日本全土に分布している。世界の温帯～熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸沿いの塩性湿地に多い。水質汚染や埋め立てによって絶滅した所もある。他の生育地も絶滅が危惧される。津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

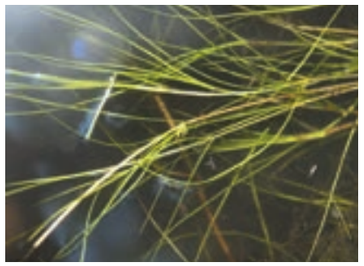
イトクズモ
Zannichellia palustris

ヒルムシロ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、東日本大震災前は7ヶ所と半分以下であった。
■**分布の概要**　日本全土に分布している。世界に広く分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は数ヶ所であったが、東日本大震災後は一時的に生育地、個体数とも増加した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、自然災害、水質汚染、土地開発など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、143、212、246、248

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

カワツルモ
Ruppia maritima

カワツルモ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は30ヶ所程度で限られている。東日本大震災の津波後、生育地は大幅に増えたが、再び減少している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。世界に広く分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部の汽水域の池沼に生育しているが、限定されている。東日本大震災の津波浸水域で多数確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　淡水化、水質汚染、農薬汚染、富栄養化など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、143、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

ホンゴウソウ
Sciaphila nana

ホンゴウソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　県内で1983年に採集されているが、その生育地のものは工事で絶滅したものと見られ、新たに生育地が数ヶ所発見されている。宮城県が北限。
■**分布の概要**　本州中部以南～沖縄に分布している。東南アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　最初は松島町、その後仙台市、名取市、利府町の丘陵地の森林の林床で生育していることが確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　9、127、168、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

クルマバツクバネソウ
Paris verticillata

シュロソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。千島・朝鮮・中国・樺太・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　山地の森林内に点在して生育する。生育地は県内広い範囲にわたるが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

エゾノミヤマエンレイソウ

Trillium tschonoskii var. *atrorubens*

シュロソウ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県北の北上山地の林床に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　114

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一［撮影地：岩手県］）

マルバサンキライ

Smilax stans

サルトリイバラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　生育地が10ヶ所近く、比較的多いのでランクを下げた。分布は限られている。
■**分布の概要**　本州～四国・九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地、北上山地の林床であり、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

アマナ

Amana edulis

ユリ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県の分布は太平洋側北限。生育地は10ヶ所程度で限られており、個体数は多い。
■**分布の概要**　秋田県・宮城県以南の本州・四国・九州・奄美大島に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　県南の河川の土手、日当たりの良い草原に生育地が限られている。生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　88、180、231、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ミヤマスカシユリ

Lilium maculatum var. *bukosanense*

ユリ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
CR+EN	VU

■**選定理由**　生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。生育地は限られており、個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州の新潟県・福島県・山形県・秋田県・岩手県の深山に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の岩場に少数点在している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　53、112

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヒメサユリ

Lilium rubellum

ユリ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	NT

■**選定理由**　本県の分布が太平洋側北限。生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　新潟県・福島県・山形県の県境付近に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南部の奥羽山地に少数点在している。最近はニホンザルがユリ根を採餌しているとのことで絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、動物食害、園芸採取など
■**主要文献番号**　21、22、28、33、102、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

コアニチドリ

Amitostigma kinoshitae

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、園芸価値が高く乱獲が続き、個体数とも激減している。
■**分布の概要**　中北部以北の本州・北海道に分布している。南千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　限られた山地の湿原や湿った岩上に群生しているが、園芸品として乱獲され絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　132、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ムギラン
Bulbophyllum inconspicuum

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮半島南部に分布する。
■**県内の生育状況**　県南部の限られた場所の樹木に着生している。乱獲された様子はないが、保護対策が必要である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　196、228

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

エビネ
Calanthe discolor

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は30ヶ所以上で比較的多いが、減少率の高い所も多い。園芸価値が高く、乱獲され個体数は激減している。
■**分布の概要**　北海道西南部～沖縄に分布している。朝鮮（済州島）にも分布する。
■**県内の生育状況**　里山や山地の林床に広く分布するが、乱獲が進み絶滅した所もある。個体数も減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、48、67、101、130、142、143、149、173、180、212、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

キンセイラン
Calanthe nipponica

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あるが、個体数も少ない。園芸価値が高いので乱獲により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州宮崎県に分布している。チベットにも分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地のクリ・コナラ林やスギ植林などの林床に稀に生育する。乱獲による絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、47、57、66、101、130、142、143、180、190、212、238、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ナツエビネ
Calanthe puberula

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され個体数も少ない。園芸価値が高いので乱獲により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮（済州島）・中国南部・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　スギやヒノキ植林の林床にごく稀に生育している。乱獲により絶滅した所もあり、個体数も激減した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、67、130

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

サルメンエビネ
Calanthe tricarinata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、個体数は少ない。園芸価値が高いので乱獲により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。台湾・ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地であるが、乱獲が行われ絶滅した所も多く、個体数も激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　100、130、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

キンラン
Cephalanthera falcata

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は50ヶ所以上で多いが、減少率の高い所も多い。園芸価値が高く盗掘が進み個体数が激減していたが、改善されつつある。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の林床に生育、開発により生育環境が悪化し、園芸採取も行われて個体数が減少したが、自然保護の普及により改善された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、47、48、63、64、67、88、132、142、143、167、171、179、180、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

クゲヌマラン
Cephalanthera longifolia

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度と局限されており、個体数も少ない。東日本大震災で生育地が減少した。
■**分布の概要**　青森県～和歌山県の本州・四国・九州に分布している。ユーラシア大陸に広く分布する。
■**県内の生育状況**　海岸に近い所に生育するが個体数は少ない。東日本大震災による津波の影響により消滅した生育地もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　73、74、100、105、115、116、132、142、143、179、180、212、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ユウシュンラン
Cephalanthera subaphylla

ラン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は40ヶ所以上で少し多いが、減少率の高い所が多い。また、ランマニアによる乱獲、土地開発によって減少している。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮半島にも分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地から山地の落葉広葉樹林の林床に広く生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　3、32、33、47、48、88、100、102、113、114、132、139、142、143、167、179、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヒメノヤガラ
Chamaegastrodia shikokiana

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　岩手県以南の本州～四国・九州に分布している。
■**県内の生育状況**　無葉のランで菌従属栄養植物（腐生植物）。丘陵地の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など
■**主要文献番号**　27、47、52、130、141、172

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

トケンラン
Cremastra unguiculata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所であるが、減少率が高い生育地が多く、個体数も少ない。園芸価値が高いので乱獲により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国に分布している。朝鮮（済州島）にも分布する。
■**県内の生育状況**　山地に稀に生育し、個体数も少ない。園芸植物として採取されるため、場所によっては絶滅している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、134

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

コアツモリソウ
Cypripedium debile

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げたが、減少率大の生育地が多い。園芸採取で絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道西南部・本州・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　里山から山地にごく稀に生育し、個体数も少ない。場所によっては絶滅している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、47、92、100、101、113、132、139、142、143、198、212、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

クマガイソウ
Cypripedium japonicum

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くあるが、減少率の高い生育地が多い。園芸価値が高く、園芸採取で絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道西南部～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　山地に稀に生育し、個体数も少ない。園芸植物として採取されるため、場所によっては絶滅している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　33、47、67、101、132、142、143、171、180、209、212、238、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

アツモリソウ
Cypripedium macranthos

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高く、園芸採取で個体数が激減している。絶滅が危惧され保護する必要がある。
■**分布の概要**　本州中北部以北・北海道に分布している。南千島・アジア北東部～ヨーロッパ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　山地にごく稀に生育する。乱獲で絶滅した所も多い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　15、33、47、100、132、171、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

イチヨウラン
Dactylostalix ringens

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　園芸価値があり、生育地が数ヶ所と局限されている。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。南千島・サハリンに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰から栗駒山までの奥羽山地と阿武隈山地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　60、91、101

（執筆：植物分科会）

（撮影：木村　紗重子）

セッコク
Dendrobium moniliforme

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　園芸価値が高く乱獲が続き、生育地は数ヶ所で、個体数とも激減している。保護対策が必要である。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　南三陸の島嶼や沿岸部の岸壁や樹上に着生し、ごく稀に生育している。乱獲が進み絶滅した所も多く見られ、個体数は激減した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　7、8、92、94、96、100、101、102、105、112、115、116、120、130、184、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：八巻　克己）

サワラン
Eleorchis japonica

ラン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の数ヶ所でごく限られている。
■**分布の概要**　本州中部以北から北海道の湿原に分布している。南千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、栗駒山の高山の湿原で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　220、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

エゾスズラン（アオスズラン）
Epipactis papillosa var. *papillosa*

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。減少率大の生育地が多い。園芸植物としてマニアによる乱獲が進んでいる。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。南千島・樺太・中国東北部・ウスリー・カムチャツカに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地から亜高山帯まで生育するが、個体数が極めて少ない。マニアによる乱獲が進み個体数が激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　21、88、143、167、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

ハマカキラン
Epipactis papillosa var. *sayekiana*

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。減少率大の生育地が多い。園芸植物としてマニアによる乱獲が進んでいる。
■**分布の概要**　青森県～愛知県の太平洋側の海岸地域に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸域の海岸林の林床等に生育し、個体数は少ない。東日本大震災の津波に遭遇し、海岸砂丘地では絶滅し、また復旧工事で消滅した所もあるが、復活した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、園芸採取、自然災害など
■**主要文献番号**　73、78、79、105、132、142、179、180、212、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

アオキラン
Epipogium japonicum

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　中北部以北の本州に稀産している。ヒマラヤ西部にも分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の二口山塊のただ1ヶ所で確認されただけである。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　182、255

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カモメラン
Galearis cyclochila

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と局限されている。園芸価値が高いので、乱獲され絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　中北部以北の本州・北海道に分布している。樺太・朝鮮・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の木陰に生育するが、園芸価値が高く乱獲され個体数は激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　132、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

マツラン（ベニカヤラン）
Gastrochilus matsuran

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で局限されている。絶滅した生育地もあり、乱獲が心配される。
■**分布の概要**　岩手県以南の太平洋側本州～九州に分布している。朝鮮半島南部にも分布する。
■**県内の生育状況**　マツ等の樹上に着生するランであるが、生育地は海岸から丘陵地に局限されている。乱獲されて個体数が激減した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　8、58、92、96、100、106、112、119、130、139、142、143、179、200

（執筆：植物分科会）

（撮影：横山　正弘）

モミラン
Gastrochilus toramanus

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は国立公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。
■**県内の生育状況**　樹上に着生する。南三陸の島嶼に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　100

（執筆：植物分科会）

（撮影：岡崎　キヌ）

シロテンマ
Gastrodia elata var. *pallens*

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、個体数が少なく極めて稀な植物で、ランクを上げた。珍しいという事で採取されている。
■**分布の概要**　北海道～本州に分布している。
■**県内の生育状況**　山地の林床で数ヶ所生育地が確認されているのみである。オニノヤガラの変種で稀。
■**近似種との区別**　オニノヤガラの変種で、花は白色で萼片と側花弁が合着して壺状になるのが特徴。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、珍種採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　88、142、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：森　俊）

クロヤツシロラン
Gastrodia pubilabiata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。2022年初めて生育が確認された。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。
■**県内の生育状況**　山元町で確認。丘陵地の広葉樹林に稀に生育する菌従属栄養植物。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　166-2、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：阿部　功之）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ベニシュスラン
Goodyera biflora

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で局限されている。園芸価値が高いので乱獲され個体数は激減している。
■**分布の概要**　北海道南部・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・台湾・中国～ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　山地の林床に生え、奥羽山地の栗駒山と川崎町で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　210、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：須川　敏幸）

ヒロハツリシュスラン
Goodyera pendula f. brachyphylla

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度とごく限られており、マニアによる乱獲があり個体数が減少している。
■**分布の概要**　中北部以北の本州・北海道に分布している。
■**県内の生育状況**　山地のブナ等に着生するが、極限られた場所に生育している。乱獲により絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ヒメミヤマウズラ
Goodyera repens

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で限られている。マニアによる乱獲で個体数は減少している。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部に分布している。南千島・中国東北部・朝鮮・樺太・ヒマラヤ・シベリア・ヨーロッパ・北アフリカ・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の山地帯から亜高山帯の針葉樹林下で生育が確認されているが、個体数も極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　26、220

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

テガタチドリ
Gymnadenia conopsea

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の数ヶ所に限られており、個体数はごく少ない。
■**分布の概要**　中北部以北の本州・北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国～シベリア・ヨーロッパに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の草原に生育し、確認地は極めて少ない。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　22、165、220

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

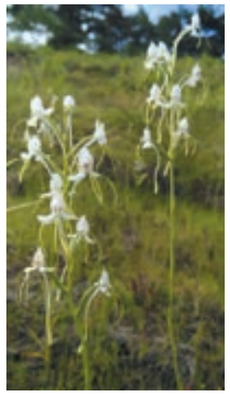
オオミズトンボ
Habenaria linearifolia

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上あるが、開発による減少、マニアによる乱獲で絶滅した所もある。
■**分布の概要**　北海道・関東以北の本州に分布している。ウスリー・アムール・中国東北部・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の日当たりの良い湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、土地開発など
■**主要文献番号**　63、88

（執筆：植物分科会）



（撮影：尾形　良太）

ミズトンボ
Habenaria sagittifera

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で、減少率が大きいが多い。開発による減少、マニアによる乱獲で絶滅した所もある。
■**分布の概要**　北海道西南部～九州に分布している。中国中部にも分布する。
■**県内の生育状況**　日当たりの良い丘陵帯の湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、土地開発など
■**主要文献番号**　33、63、190、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヒナチドリ
Hemipilia chidori

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高いので乱獲され、生育地、個体数共に激減している。
■**分布の概要**　本州・四国に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　丘陵から山地のコケの生えた樹上に着生し生育するが乱獲が進行し、個体数も激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　132

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ミヤマモジズリ
Hemipilia cucullata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　分布は県立公園の２ヶ所に局限されている。園芸価値があり乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道・中北部以北の本州・四国に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア・ヨーロッパに分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯から亜高山帯の針葉樹林下に生育する。個体数は極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　132、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

ウチョウラン
Hemipilia graminifolia

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高いので、乱獲され絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　東北以南の本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地～山地の岩場のやや湿った場所に生育している。乱獲が進み絶滅した所もある。個体数は激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　21、33、99、101、102、103、109、132、212、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ムカゴソウ
Herminium angustifolium

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～沖縄に分布している。朝鮮・台湾・中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、平野部、島嶼のやや湿った草原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、乾燥、自然遷移など
■**主要文献番号**　132

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：鹿児島県］）

ハクウンラン
Kuhlhasseltia nakaiana

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上で広く分布するが、個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

エンシュウムヨウラン
Lecanorchis suginoana

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　宮城県が新北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の太平洋側で関東・東海地方・四国・九州に分布している。台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市の丘陵地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　166

（執筆：植物分科会）

（撮影：阿部　功之）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ギボウシラン
Liparis auriculata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸価値が高く乱獲が続き、個体数も激減している。
■**分布の概要**　北海道～九州・屋久島に分布している。朝鮮（済州島）にも分布する。
■**県内の生育状況**　山地の林床のやや湿った所に生育するが、生育地、個体数とも少ない。乱獲のため絶滅した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　101、160、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

フガクスズムシソウ
Liparis fujisanensis

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、園芸価値が高く乱獲が行われており、個体数も激減している。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。
■**県内の生育状況**　山地帯のブナ等の樹幹に着生するが、生育箇所、個体数共に少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　108、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ジガバチソウ
Liparis krameri

ラン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所以上で少し多い。園芸植物として価値が高く採取され、生育地及び個体数が激減している。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　平野部から山地帯の林床に広く生育するが、園芸植物として乱獲され減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　48、67、73、88、130、167、179、238、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

アキタスズムシソウ
Liparis longiracemosa

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道、本州、四国、九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市青葉区の奥羽山脈に生育。スズムシソウと同様，疎林の空中湿度が高い場所に生育すると思われる。極稀。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　252

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

セイタカスズムシソウ
Liparis makinoana

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で局限されており、園芸価値が高く乱獲が行われており、個体数も激減している。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールに分布する。
■**県内の生育状況**　山地の林床に生育するが、生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　42

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

スズムシソウ
Liparis suzumushi

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で、ごく限られている。園芸価値が高いので乱獲が進み、個体数も激減している。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南の奥羽山地の林床に生育するが、生育地、個体数とも極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　22、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ノビネチドリ
Neolindleya camtschatica

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所程度と多いが、個体数とも激減している。園芸価値が高いので乱獲が進んでいる。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部・四国・九州に分布している。樺太・カムチャツカ・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　山地帯の湿地に広く生育するが、乱獲が進み個体数も激減し、場所によっては絶滅状態になっている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　47、48、132、171、220、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

コフタバラン
Neottia cordata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の数ヶ所と局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部・四国に分布している。千島・樺太にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、二口山塊の亜高山帯の針葉樹林内に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など
■**主要文献番号**　132、220

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰［撮影地：福島県］）

タンザワサカネラン
Neottia inagakii

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は近年2ヶ所で確認され、局限されている。
■**分布の概要**　本州の中部に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　白石市と仙台市の丘陵地帯の林床で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　42、240

（執筆：植物分科会）

（撮影：阿部　功之）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ヒメフタバラン
Neottia japonica

ラン科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は40ヶ所近くで多いが、個体数は激減している。
■**分布の概要**　宮城県・秋田県以南の本州～沖縄に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地、島嶼の林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採など
■**主要文献番号**　48、96、100、113、132

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

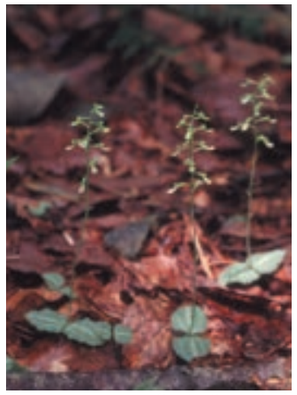
アオフタバラン
Neottia makinoana

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限され、個体数も極めて少ない。
■**分布の概要**　本州の青森県～九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南の山地の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）



（撮影：葛西　英明）

サカネラン
Neottia papilligera

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の２ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道から九州まで分布している。樺太・朝鮮・中国・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰と白石市で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

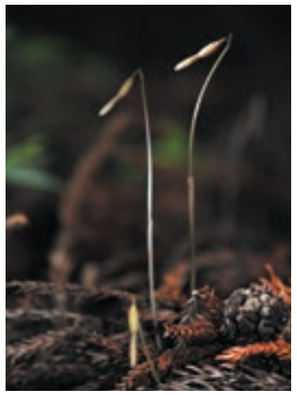
ムカゴサイシン
Nervilia nipponica

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　生育地の川崎町の標本が2点あるが、スギ植林が伐採されたため絶滅した。その後新たな生育地が見つかった。
■**分布の概要**　本州の関東から南・四国・九州・沖縄に分布している。韓国（済州島）にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南の川崎町のスギ植林内で確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　38

（執筆：植物分科会）



（撮影：上野　雄規）

ヨウラクラン
Oberonia japonica

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限であり、生育地は国立公園内の１ヶ所で、局限されている。個体数も極めて少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮（済州島）・台湾・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼に局限して生育し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　92、96、100、119

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

サギソウ
Pecteilis radiata

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あったが、減少率が大きい所が多い。園芸価値が高いので、乱獲され、また、土地開発により絶滅した所も多い。
■**分布の概要**　北海道西南部～九州に分布している。中国中部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵帯から山地帯の日当たりの良い湿地に生育するが、乱獲等によって絶滅した所が多く、生育地、個体数とも激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、湿原開発など
■**主要文献番号**　33、47、48、63、101、132、170、191、212、238、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

タカネトンボ
Platanthera chorisiana

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限、個体数も少ない。
■**分布の概要**　中北部本州・北海道に分布している。千島・樺太・カムチャツカ・アリューシャンに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の湿原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、47、220

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ミズチドリ
Platanthera hologlottis

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上であるが、個体数共に減少している。池沼の開発が進み、園芸採取も多い。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。南千島・朝鮮・中国北東部・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　平地から里山の池沼、湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　7、8、63、88、132、144、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

イイヌマムカゴ
Platanthera iinumae

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、減少率の大きい生育地も多く、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の青森県から四国・九州の霧島山に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の木陰に生育するが、ごく稀な植物である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　33

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ツレサギソウ

Platanthera japonica　ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地が20ヶ所程度と比較的少ないのでランクを上げた。個体数は少なく、園芸植物として乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道～沖縄に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　平地から山地帯までの日当たりの良い湿原や湿った樹林下に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿原開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　65、67、88、132、142、143、171、180、238、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

マイサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *macrocentron*　ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上あるが、個体数は少なく、乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　日当たりのよい湿地、草地に生育するが、個体数は少なく乱獲されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など
■**主要文献番号**　22、63、165、167、179、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

ヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades*　ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は広いが、10ヶ所程度と局限されている。園芸採取が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。樺太・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　日当たりの良い草原に生育地が限られている。草原が放置され自然遷移が進行、あるいは植林が行われ減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　132、142、143、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

タカネサギソウ

Platanthera mandarinorum subsp. *maximowicziana* var. *maximowicziana*　ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　確認されている生育地は国定公園内の１ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中北部・北海道に分布している。南千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の湿原で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　132、220、226

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ノヤマトンボ（オオバノトンボソウ）

Platanthera minor　ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度と限定されている。園芸品として乱獲される恐れがある。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮半島・台湾・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

ガッサンチドリ

Platanthera takedae subsp. *uzenensis*　ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は国定公園内の１ヶ所である。
■**分布の概要**　本州中部地方以北の日本海側の高山から北海道まで分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山草原で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

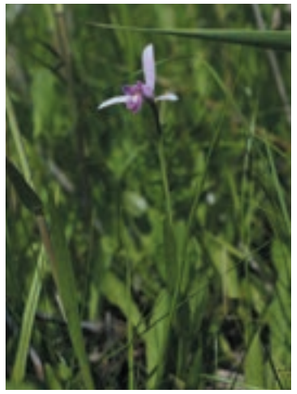
トキソウ
Pogonia japonica

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は40ヶ所程度と多いが、減少率の高い所が多い。園芸価値が高いので盗掘が進み、個体数が激減していたが、自然保護の普及により改善されつつある。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。千島・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵から山地帯の日当たりの良い湿地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、56、63、113、130、226、242

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

ヤマトキソウ
Pogonia minor

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上で、比較的限られている。個体数も少ない。園芸価値があり乱獲が進んでおり絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の日当たりの良い草原や湿地に生育するが個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　63、130、180、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ミヤマトキソウ
Pogonia subalpina

ラン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で限定されている。
■**分布の概要**　本州の中部から東北地方までの日本海側の高山に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、二口山塊、船形連峰、栗駒山の亜高山帯の湿った草地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カヤラン
Thrixspermum japonicum

ラン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度と限られ、園芸価値が高い。個体数は激減している。
■**分布の概要**　岩手県以南の本州～四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　丘陵地のモミなどの樹上に着生し、生育地は多くなく、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　8、48、58、92、95、96、100、106、112、130、180、184、200、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

ヒトツボクロ
Tipularia japonica

ラン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、分布範囲は広いが限定されている。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。朝鮮南部にも分布する。
■**県内の生育状況**　海岸、丘陵地のアカマツ林などの明るい林床で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、111、179、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ショウキラン
Yoania japonica

ラン科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道西南部～九州・屋久島に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の林内に生育するが、ごく稀な植物である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　102、108、132

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

コキンバイザサ
Hypoxis aurea

キンバイザサ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　本県唯一の仙台市の生育地が、宅地造成のため絶滅した。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州から沖縄に分布している。中国南部・台湾・マレーシア・インドの暖地の山地に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市で過去に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（生態写真：根本　秀一［撮影地：千葉県］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ヒオウギ
Iris domestica

アヤメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所とごく限られており、個体数も少ない。園芸採取が危惧される。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国・インドに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の草地にごく稀に生育する。観賞用にも栽培される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　88、101、142、171

（執筆：植物分科会）

（撮影：大友　良三）

ヒメシャガ
Iris gracilipes

アヤメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は70ヶ所近くと多いが、園芸植物として採取されている。
■**分布の概要**　本州の秋田県から九州北部に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　丘陵地のやや乾いた林床に広く生育するが、県北は少ない。都会地付近では土地開発により減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　19、32、33、47、48、52、88、95、167、215、238、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

カキツバタ
Iris laevigata

アヤメ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部から丘陵地の水湿地に生育するが、やや局限した場所に生育し、以前より個体数の減少が鈍化した。観賞用の植栽も見られる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　67、88、123、196

（執筆：植物分科会）

（撮影：八巻　克己）

アヤメ
Iris sanguinea

アヤメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は30ヶ所近くと比較的多いが、園芸採取されている。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部から丘陵地の明るい草原に生育するが、園芸採取により個体数は減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草原開発、園芸採取、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　65、73、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ヒオウギアヤメ
Iris setosa

アヤメ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中部以北から北海道に分布している。アリューシャン、アラスカ、アメリカ北部などに分布する。
■**県内の生育状況**　本来は亜高山帯から高山帯にかけての湿地や湿原に生育。仙南の丘陵地の標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：本多　隆［撮影地：福島県］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ステゴビル
Allium inutile　ヒガンバナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の宮城県から広島県まで分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　確認されている生育地は県北東部である。現在もその場所に生育しているかは不明である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など
■**主要文献番号**　88、161、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ヤマラッキョウ
Allium thunbergii　ヒガンバナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が太平洋側北限。生育地は10ヶ所程度で限られている。
■**分布の概要**　秋田県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市と県南の日当たりの良い草原に生育地が限られている。生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　8、96、112、241、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ギョウジャニンニク
Allium victorialis subsp. *platyphyllum*　ヒガンバナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく限られており、個体数が激減している。
■**分布の概要**　新潟県・茨城県以北の本州・北海道・千島に分布している。樺太・カムチャツカ・オホーツク海沿岸・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸域から丘陵地の限られた立地に生育し、山菜として採取され個体数が減少した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　山菜採取、園芸採取、土地開発など
■**主要文献番号**　142、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

スズラン
Convallaria majalis var. *manshurica*　クサスギカズラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度と限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州・九州に分布している。朝鮮・中国・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の草地、疎林内に点在して生育するが、生育地は局限されており、個体数も減少している。観賞用に採取されたものも多い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　47、65、171、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヒメマイヅルソウ
Maianthemum bifolium　クサスギカズラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所だったが、40年振りに新たな生育地が見つかった。個体数は少なく、ランクを上げた。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・中国・樺太・カムチャツカ・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地の南部白石市のブナ林帯である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　24、93

（執筆：植物分科会）

（撮影：佐藤　敏夫）

ヤマトユキザサ
Maianthemum viridiflorum　クサスギカズラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で限定されている。
■**分布の概要**　本州の秋田県以南～奈良県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山脈の山地の林床に稀に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヒメイズイ
Polygonatum humile

クサスギカズラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は30ヶ所近くで海岸に多いが、生育地、個体数共に減少している。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・樺太・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の砂浜から丘陵地の草地に広く生育する。2011年の東日本大震災の津波に遭遇し減少した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　76、78、179、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヤブミョウガ
Pollia japonica

ツユクサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は激減している。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。韓国・台湾・中国南部に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は丘陵地の林床で、個体数が激減しており、絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、土地開発など
■**主要文献番号**　7、8、18、88、112、130

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ミズアオイ
Monochoria korsakowii

ミズアオイ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は30ヶ所程度である。環境省でＮＴに指定している。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の水田や用水路に群落をつくり広く分布している。本県では水田雑草として除草対象となる。津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、管理放棄、農薬汚染など
■**主要文献番号**　57、67、70、73、74、76、77、78、79、88、101、130、143、151、175、176、177、178、180、212、238、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

オオミクリ
Sparganium coreanum

ガマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所の池沼で、全国的に分布が稀である。常に攪乱が起こる場所であり、破壊される対象である。
■**分布の概要**　本州・四国に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は平野部の池沼に限定、個体数は多いが、河川改修や埋め立てなどで産地は急減している。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、池沼開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　78、79、88

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

エゾミクリ
Sparganium emersum

ガマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　全国的に極めて稀な水草で、生育地は数ヶ所である。常に埋め立て、改修、開発などにより生育条件は悪化する可能性がある。
■**分布の概要**　長野県以北の本州・北海道に分布している。東アジア・シベリア・コーカサス・ヨーロッパ・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　大崎市と東松島市の河川、池沼に分布し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、池沼開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：山形県］）

ヤマトミクリ
Sparganium fallax

ガマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は里山地域の10ヶ所以上あるが、極めて少なく、埋め立てや開発によって減少している。
■**分布の概要**　東北地方以南の本州・四国・九州に分布している。ビルマ・インドに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の池沼や側溝に広く生育し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、池沼開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、196、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

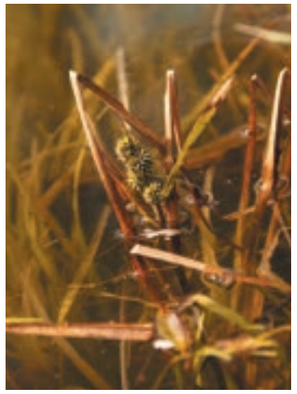
タマミクリ（ホソバタマミクリ）
Sparganium glomeratum

ガマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく稀である。ブナ林の伐採によって生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　中北部の本州・北海道に分布している。アジア・ヨーロッパ・北アメリカの温帯～寒帯に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地と平野部の池沼に分布し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、自然遷移、森林伐採など
■**主要文献番号**　33

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

ナガエミクリ
Sparganium japonicum

ガマ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、限定されている。水質汚染、農薬汚染、水域開発で生育環境が悪化して減少している所が多い。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　内陸の丘陵地の河川、沼沢、用水路など水域に比較的広く生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、水域開発、自然災害など
■**主要文献番号**　57、88、101、130、153、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ミクリ
Sparganium stoloniferum

ガマ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は70ヶ所以上で多いが、水質汚染、農薬汚染、水域開発で生育環境が悪化して減少している所が多い。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。アジア・ヨーロッパ・北アフリカの温帯に分布する。
■**県内の生育状況**　平野、沿岸部の河川、沼沢、用水路など水域に比較的広く生育している。東日本大震災の津波に遭遇した地域に開放水域が発生し生育地が増加したが、復旧工事のために消滅した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、水域開発、自然災害など
■**主要文献番号**　33、67、70、73、74、75、76、77、78、79、88、101、130、143、153、178、179、180、212、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ヒメミクリ
Sparganium subglobosum

ガマ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で限られており、減少率の高い所、絶滅した所もある。管理放棄や開発により生育環境の悪化により激減の恐れがある。
■**分布の概要**　北海道～沖縄に分布している。朝鮮・中国北部に分布する。
■**県内の生育状況**　平地から山地帯下部にかけての池沼、溜池に稀に生育する。生育環境が悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　77、78、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ホシクサ
Eriocaulon cinereum

ホシクサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　生育地が数ヶ所と少ないのでランクを変えた。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・台湾・フィリピン・インドシナ・インド・アフリカ・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地はダム周辺の湿地に局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、自然災害など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

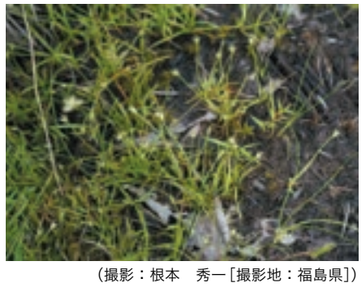
エゾホシクサ
Eriocaulon miquelianum var. *monococcon*

ホシクサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の近畿地方から北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　七ヶ宿町と加美町の湿地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）



（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

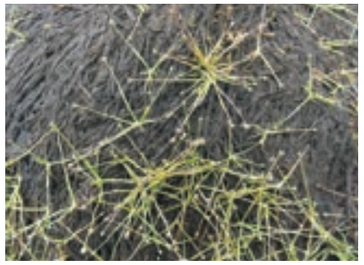
アズマホシクサ（ミヤマヒナホシクサ）

Eriocaulon takae　ホシクサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が国定公園内の1ヶ所と少なくランクを上げた。個体数も少ない。
■**分布の概要**　東北地方の高山・北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の亜高山帯の湿原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、踏みつけなど

（執筆：植物分科会）



（撮影：杉山　多喜子）

ヒメコウガイゼキショウ

Juncus bufonius　イグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度と限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部の砂浜、湿地に生育地が多いが、山地にもみられる。津波浸水域で一時的に多く確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　74、75、76、77、78、143、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

ハマイ

Juncus haenkei　イグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本州には自生がないと図鑑にあるが、県内の生育地は１ヶ所ある。
■**分布の概要**　北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部・カムチャツカ・アラスカに分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の砂浜に生え、東松島市の標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

イセウキヤガラ

Bolboschoenus planiculmis　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され、生育地は河川改修により減少する可能性が高い。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国・台湾・ロシア・モンゴル・フィリピン・西アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　県中南部の河川の河口に近い泥質の深い河岸に生育し、河川改修等により生育地、個体数とも減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、164、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

タテヤマスゲ

Carex aphyllopus　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　確認されている生育地は県立公園内の１ヶ所である。
■**分布の概要**　本州の中北部の日本海側の高山草原に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　亜高山帯の湿地に生育、船形連峰の標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、踏みつけなど

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：群馬県］）

ジョウロウスゲ

Carex capricornis　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は河川敷、海岸、溜池などに限られ、生育地が10ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。
■**分布の概要**　北海道・本州の関東地方に分布している。東アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　平地の湿地に生育しており個体数は少ない。津波浸水域でも一時的に確認された所がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、河川改修、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、179

（執筆：植物分科会）

（撮影：惠美　泰子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヌマアゼスゲ
Carex cinerascens　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく稀で、沼沢地の生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　関東・東北地方の川岸の湿地に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　伊豆沼など北部の湖沼、河川敷の湿地に生育するが、生育環境が悪化し減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湖沼改修・開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　70、88、117、118、135、144、216

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

スナジスゲ
Carex glabrescens　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上あるが、限定されている。
■**分布の概要**　北陸～本州の東北地方に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の河川高水域等に生育している。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、水域開発、自然災害など
■**主要文献番号**　78、88、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：惠美　泰子）

サナギスゲ
Carex grallatoria var. *heteroclita*　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　仙台市錦ヶ丘が唯一の生育地であったが、1980年代にニュータウン開発により絶滅した。しかし、最近新たな生育地が県南で確認された。
■**分布の概要**　関東～近畿の本州・四国・九州に分布している。台湾にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南の阿武隈山地に局限して生育する。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

イトキンスゲ
Carex hakkodensis　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　確認されている生育地は国定公園内の１ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の中部以北・北海道の高山に分布している。千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　高山の湿った斜面に生え、蔵王連峰で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹［撮影地：山形県］）

ハコネイトスゲ
Carex hakonemotana　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　全国的に極めて稀な植物で、宮城県が北限。生育地も数ヶ所で、ごく稀である。道路改修などにより絶滅の恐れがある。
■**分布の概要**　本州の宮城県と中部地方に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地に生育地はごく限られ、個体数も極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ヤマクボスゲ
Carex hymenodon　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で里山地域に限定されている。手入れが放棄されたり、開発工事で生育地は減少している。
■**分布の概要**　宮城県と栃木県の水湿地に稀に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　村田町から富谷町の里山の湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　59、66、101、129、160、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

クジュウツリスゲ
Carex kujuzana　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　全国的にも稀な植物であるが、本県でも生育地は数ヶ所と限られており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の青森県から長野県・九州に分布している。朝鮮南部に稀に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地の丘陵地の林床に生育するが、森林伐採により生育地、個体数とも減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　143、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ムジナスゲ
Carex lasiocarpa var. *occultans*　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地が２ヶ所と局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中部地方の日本海側に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地北部や平野の湿原や沼畔に生育する。仙台市大沼畔の生育地は埋立で消滅。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、踏みつけ、自然遷移など
■**主要文献番号**　70

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹［撮影地：岩手県］）

ハタベスゲ
Carex latisquamea　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　河川改修により絶滅したと思われたが、新たに生育が確認された。しかし生育地は2ヶ所で限定され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　県北の河川敷に生育するが生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　143、144

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

ヒエスゲ
Carex longirostrata var. *longirostrata*　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道、中部以北の本州に分布している。朝鮮、千島、サハリン、東シベリア、中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の丘陵の草地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　36-2

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

タチスゲ
Carex maculata　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所でごく限られている。里山に生育するので開発の恐れがある。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮南部・中国・インドの水湿地に分布する。
■**県内の生育状況**　牡鹿半島と仙台市に生育地が限られ、仙台市の生育地は里山のごく狭い所にあり、隣接地で開発工事が行われ、生育環境が悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

キンチャクスゲ
Carex mertensii var. *urostachys*　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の１ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部に分布している。千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の亜高山帯の草原に生育地は局限されている。生育地、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヌマクロボスゲ（シラカワスゲ）

Carex meyeriana　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中北部・九州の湿地に分布している。朝鮮・中国東北部・東シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地中部の山地帯と気仙沼市の湿原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　160

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ノゲヌカスゲ

Carex mitrata var. *aristata*　カヤツリグサ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部、丘陵地の明るい林内、草地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　246

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カンスゲ

Carex morrowii　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は数ヶ所でごく限られている。開発工事で絶滅の恐れがある。
■**分布の概要**　福島県以西の主として太平洋側の本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南丸森町の渓谷沿いの岩上に生育している。開発工事により生育地の破壊が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ナガエスゲ

Carex otayae　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県の分布は太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の日本海側に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の亜高山帯の湿った斜面に生育地は局限されており、個体数も極めて少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

ウスイロスゲ

Carex pallida　カヤツリグサ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　本州で稀産、本県では牡鹿半島の牧ノ崎が唯一の生育地であったが、開発によって1998年までには絶滅した。
■**分布の概要**　北海道・本州北部に分布している。東アジア北部の針葉樹林内に稀に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市で過去に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林開発など
■**主要文献番号**　223

（執筆：植物分科会）

（生態写真：丸山　まさみ［撮影地：北海道］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ツルスゲ

Carex pseudocuraica　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県の分布は太平洋側南限。生育地は数ヶ所に限られるが、埋め立て、改修、開発によって生育環境は悪化している。
■**分布の概要**　本州の宮城県・新潟県以北の日本海側・北海道に分布している。朝鮮～シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　県北の平野部の湖沼に生育する。仙台市の大沼の側の湿地に一時的に生育したが、現在は埋め立てられてない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水域開発、湖沼改修、自然遷移など
■**主要文献番号**　19、70、88、117、118、135、216

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

マメスゲ
Carex pudica　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所でごく稀であり、開発によって生育地が破壊されたり、生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　岩手県以南～近畿までの本州の丘陵地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市の沿岸部に生育するが、土地開発などにより激減の恐れがある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害など
■**主要文献番号**　76、77、78、179、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

オオクグ
Carex rugulosa　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は40ヶ所近くで比較的多いが、海岸開発により生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　北海道・本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は海岸湿地であり、海岸開発により生育環境が悪化している。東日本大震災の津波に遭遇し、津波で増加した所や消滅した所もある。また、復旧工事のために消滅した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　76、78、79、130、143、158、179、180、212、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カミカワスゲ
Carex sabynensis var. *sabynensis*　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限され、土地開発により減少する可能性が高い。
■**分布の概要**　北海道・本州北部に分布している。千島・樺太・朝鮮・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は北上山地の南端の丘陵地の林内であるが、土地開発により生育環境は悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採など
■**主要文献番号**　142、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ツルカミカワスゲ
Carex sabynensis var. *rostrata*　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。朝鮮・シベリア東部にも分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊と石巻市の丘陵地の林床で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明［撮影地：福島県］）

ユキグニハリスゲ
Carex semihyalofructa　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で、局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　北陸地方以北の本州日本海側に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の栗駒山の湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：山形県］）

カンエンガヤツリ
Cyperus exaltatus var. *iwasakii*　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　仙南の平野部の湿地などに生育が局限されている。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　70、130、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

タチヒメクグ（マメクグ）

Cyperus kamtschaticus　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で稀で、個体数も少ない。開発によって生育地、個体数共に減少が危惧される。
■**分布の概要**　宮城県以南～関東以北の本州に分布する。カムチャツカ半島にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南から県北までの数ヶ所の池沼、溜池の湿性地に生育する。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

オオシロガヤツリ

Cyperus nipponicus var. *spiralis*　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市のダムの水際の湿った平地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然災害など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ウキミガヤツリ

Cyperus pacificus var. *margoinflatus*　カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地が数ヶ所と少ないのでランクを上げた。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（宮城県以南）・四国に分布している。新潟県で初めて採集された。
■**県内の生育状況**　生育地は池沼や河川敷で局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

チシママツバイ

Eleocharis acicularis var. *acicularis*　カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　全国的に生育地が極めて稀であり、生育地は１ヶ所で、個体数とも少ない。生育地が破壊される恐れがある。
■**分布の概要**　日本に稀産する。暖帯～温帯に分布する。
■**県内の生育状況**　名取市の休耕田に生育している。再耕作や開発により絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　耕作、土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　74、78、163

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

スジヌマハリイ

Eleocharis equisetiformis　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で稀であり、半数近くが減少率が高い。生育地の開発により生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　青森県以南の本州・九州に分布している。朝鮮・中国～中央アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　県南の亘理町から北上川に至る沿海部の水湿地に生育するが、丘陵地にも分布がある。東日本大震災の津波の影響を受け生育環境が悪化した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　77、78、79、130、180、212、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：惠美　泰子）

コツブヌマハリイ

Eleocharis parvinux　カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は10ヶ所以上で少なく、個体数も少ない。開発によって生育環境は悪化している。
■**分布の概要**　本州の宮城県から神奈川県の平地の沼や川岸の湿地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　平野部の沼や川岸の湿地、沼沢地に稀に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　88、117、118、143、212、216

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

チャボイ
Eleocharis parvula

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、東日本大震災後急激に生育地が増えた。復旧工事等により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。ヨーロッパ・シベリア・南北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部の塩性湿地、休耕田に群生する。自然遷移、復旧工事等により絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、耕作、土地開発など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、79、162、163、180、212、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

サギスゲ
Eriophorum gracile

カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あるが、限定されている。湿原の開発等によって、生育地、個体数とも減少している。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。北半球に分布する。
■**県内の生育状況**　低地から亜高山帯の湿原が生育地であるが、生育地は少なく、低地では極めて稀である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿原開発、踏みつけ、自然遷移など
■**主要文献番号**　102、170、198

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

ナガボテンツキ
Fimbristylis longispica

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は数ヶ所で局限され、生育地の塩生湿地は開発により生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　亘理町から東松島市までの海岸近くの湿性地に生育する。生育地、個体数とも少ない。津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、78、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

トネテンツキ
Fimbristylis stauntonii var. *tonensis*

カヤツリグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で、極めて稀で個体数は少ない。
■**分布の概要**　山形県・宮城県以南から近畿地方までの本州に稀に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　角田市と大崎市の溜池、池沼の水辺で生育が確認されている。水辺の開発により絶滅の危惧がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

ミチノクホタルイ
Schoenoplectiella orthorhizomata

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　東北地方に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の湿地（仙台市、七ヶ宿町）に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ノグサ
Schoenus apogon

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は10ヶ所程度で稀で、個体数も少ない。開発によって生育環境は悪化している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。インドネシア・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部から丘陵地の日当たりのよい湿地、野原が生育地である。東日本大震災の津波で裸地ができ、新たな生育が確認されたが、一時的なものであった。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、92、142、143、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

タカネクロスゲ
Scirpus maximowiczii

カヤツリグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	VU

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。千島・樺太・朝鮮・中国・ロシア沿海州に分布する。
■**県内の生育状況**　栗駒山の高山の湿った草地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　踏みつけ、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹［撮影地：岩手県］）

コシンジュガヤ
Scleria parvula

カヤツリグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は１０ヶ所程度で限定されている。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。朝鮮・中国・インドネシア・インド・アフリカの低湿地に分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市、東松島市以南の低地の湿地で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然災害、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ヒメコヌカグサ
Agrostis valvata

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限定的である。
■**分布の概要**　本州の岩手県以南・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　丘陵地の湿地に生え、大和町から南部で分布が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　32、188

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ヒナガリヤス
Calamagrostis nana

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
要注目種	-

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。国定公園内に１ヶ所生育地が確認されているだけなのでランクを上げた。
■**分布の概要**　本州の中部から北部の高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の草原に生育は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

フサガヤ
Cinna latifolia

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の中・北部から北海道のブナ帯・亜高山帯に分布している。北半球の周極地帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　ふつう亜高山帯の林床に生えるが、仙台市の風穴で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

ヒナザサ
Coelachne japonica

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、湿地の開発により減少している。
■**分布の概要**　本州・九州の湿地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　平野部や阿武隈山地の湿地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、管理放棄、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

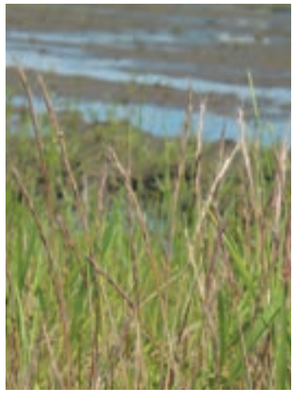
ミズタカモジグサ
Elymus humidus

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	VU

■**選定理由**　確認されている生育地は1ヶ所であり、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　水田の周りに生える多年草、蔵王町で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、管理放棄、自然遷移など

（執筆：植物分科会）



（撮影：浅井　元朗）

ミヤマドジョウツナギ
Glyceria alnasteretum

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　確認されている生育地は国定公園内の1ヶ所である。
■**分布の概要**　本州の中部から北海道に分布している。千島・中国北部・サハリン・カムチャツカに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の亜高山の林床で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

ウキガヤ
Glyceria depauperata var. *infirma*

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道南部から本州の中国地方の水辺に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　平野部の沼沢地に稀に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　16、78

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

カラフトドジョウツナギ
Glyceria lithuanica

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は県立公園内の１ヶ所で局限されており、個体数ともに少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。東アジア北部～ヨーロッパ東部に分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の山地帯の水湿地に生育が局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　56、101、160

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ミチシバ
Melica onoei

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、個体数共に減少している。
■**分布の概要**　関東以西の本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地の丘陵地の疎林内に稀に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

カリヤス
Miscanthus tinctorius

イネ科

要注目種	
2016	環境省
要注目種	-

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　東北地方南部～近畿北部に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　中部の平野部から丘陵地の林縁、草地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

キダチノネズミガヤ
Muhlenbergia ramosa

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の秋田県・岩手県以南・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の丘陵帯から山地帯の林内や林縁に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：山梨県］）

ヒロハヌマガヤ
Neomolinia faurie

イネ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の長野・群馬県に続く3県目。
■**県内の生育状況**　山地の林内に極稀に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、森林伐採など
■**主要文献番号**　249、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

アイアシ
Phacelurus latifolius

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は30ヶ所程度で、群生し比較的多いが、海岸湿地の開発が進行し生育環境が悪化している。
■**分布の概要**　北海道～九州の海岸に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸湿地に生育する。東日本大震災の津波により消滅した生育地もあるが、増加した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　74、78、130、179、180、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

タチイチゴツナギ
Poa nemoralis

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で局限され、特殊な環境条件で個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の深山に分布している。朝鮮・千島・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカに分布する
■**県内の生育状況**　仙台市の風穴で確認されている。沿岸部では帰化種も確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ハマヒエガエリ
Polypogon monspeliensis

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州から沖縄まで分布している。ヨーロッパ・アジア・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市から東松島市までの海岸や島嶼の東日本大震災の津浸水域で群生が確認されたが、一時的であった。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸・湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　76、77、78、79、164、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

タチドジョウツナギ
Puccinellia nipponica

イネ科

要注目種	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　松島湾沿岸がタイプ標本の生育地。生育地は３０ヶ所程度で比較的多い。
■**分布の概要**　日本では宮城県・岩手県・福島県の太平洋側に分布している。朝鮮・中国・ロシアにも分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の塩性湿地に分布が限られ、北から南まで広く生育が確認されている。東日本大震災津波浸水域で一時的に増加したが、復旧工事等により消滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸・湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　12、73、74、75、76、77、78、100、142、197、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ウシクサ
Schizachyrium brevifolium

イネ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は2ヵ所で極めて少ない。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。世界の各地の湿地に分布する。
■**県内の生育状況**　県南の川崎町の湿地に生育しているが、土地開発による絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

イヌアワ
Setaria chondrachne

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は1ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の東北地方南部以西・九州まで分布している。朝鮮・中国南部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の藪などに生育、大和町で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　道路工事、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：山形県］）

ヒゲシバ
Sporobolus japonicus

イネ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されている。開発などにより現在は数個所に減少している。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の湿地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　143、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ハイドジョウツナギ
Torreyochloa viridis

イネ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で内陸地の水湿地に局限され、水質汚染、生育環境の悪化が進行している。
■**分布の概要**　本州の関東以北・北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県北部の池沼などに限られ、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、湖沼開発など
■**主要文献番号**　59、160

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明［撮影地：福島県］）

アキウネマガリ
Neosasamorpha akiuensis

イネ科タケ亜科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市の奥羽山地と栗駒山の山地に生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など
■**主要文献番号**　182、183、255

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［仙台市野草園所蔵］）

オモエザサ
Neosasamorpha pubiculmis

イネ科タケ亜科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の太平洋側に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、阿武隈山地、島嶼の林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　237

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ヤマキタダケ（ヒメスズダケ）

Sasaella yamakitensis　イネ科タケ亜科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の宮城県・福島県・神奈川県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　山地、丘陵地、河川敷に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［仙台市野草園所蔵］）

フサザクラ

Euptelea polyandra　フサザクラ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は20ヶ所程度であるが、丸森町に限定されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南の阿武隈山地の谷筋に生育し、フサザクラ-タマアジサイ群集を形成している。七ヶ宿町にも分布がみられる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　7、8、112、197、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

キケマン

Corydalis heterocarpa var. *japonica*　ケシ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は10ヶ所程度で限定されている。個体数も少ない。園芸植物として採取される。
■**分布の概要**　宮城県以西の本州～沖縄に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　沿岸地域の丘陵地の日当たりの良い環境に生育している。個体数は少ない。東日本大震災の波浸水域で一時的に群生した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　74、75、78、101、164、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ツルケマン

Corydalis ochotensis　ケシ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　関東・中部地方の本州に分布している。シベリア東部・オホーツク沿岸に分布する。
■**県内の生育状況**　県南の奥羽山地の半日陰の湿った所に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ナガミノツルケマン

Corydalis raddeana　ケシ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は50ヶ所程度で多い。環境省でＮＴに指定。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の半日陰地で広く生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　32、33、88、130、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

コマクサ

Dicentra peregrina　ケシ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中北部・北海道に分布している。千島・カムチャツカ・樺太・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　火山噴火、園芸採取など
■**主要文献番号**　102、199、220、226

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヤマブキソウ
Hylomecon japonica

ケシ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　本県が国内分布の北限。生育地は４０ヶ所程度で多いが、開発、園芸採取などで減少している。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。中国・朝鮮半島・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の樹林の林床に各地で生育が確認されているが、北上山地の標本はない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　7、13、21、58、67、107、113、198、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

オサバグサ
Pteridophyllum racemosum

ケシ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸植物として採取される恐れがある。
■**分布の概要**　本州中北部～東北地方の亜高山帯の針葉樹林内に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市と県北のブナ林の沢筋に生育し、個体数も少なく絶滅寸前である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　43

（執筆：植物分科会）

（撮影：早坂　徹）

トガクシソウ
Ranzania japonica

メギ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。園芸採取される恐れがある。
■**分布の概要**　本州中北部の多雪地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　二口山塊と栗駒山の山地帯のブナ林の林床に生育するが、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取など
■**主要文献番号**　212

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子［撮影地：山形県］）

センウズモドキ
Aconitum jaluense subsp. *iwatekense*

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
要注目種	VU

■**選定理由**　生育地が70ヶ所程度と多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
■**分布の概要**　本州の東北地方から関東地方・長野県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　丘陵地から山地帯に比較的多く生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　63、67、88、92、143、151、152、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ワガトリカブト
Aconitum okuyamae var. *wagaense*

キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	VU

■**選定理由**　本県が分布の南限。生育地は国定・県立公園内の数ヶ所で確認されている。
■**分布の概要**　本州東北地方の高山の風衝草原に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　高山の風衝草原や日当たりの良い林縁に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　220

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

フクジュソウ
Adonis ramosa

キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　生育地は30ヶ所程度で、里山地域の開発が進み減少している。また、園芸植物として乱獲されている。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　各地の里山の林縁、畔などに生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。よく人家付近に植栽される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、65、88、103、143、148、171、209、238、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

イチリンソウ
Anemone nikoensis　キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが、局限されている。園芸採取される危険性が高い。
■**分布の概要**　本州～九州の暖帯上部～温帯に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南の限定された場所に生育している。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　7、8、67、112、130、196、198、200

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

レンゲショウマ
Anemonopsis macrophylla　キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所以上あるが、開発、園芸採取などで減少している。
■**分布の概要**　本州の岩手県から奈良県まで分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　山地の落葉広葉樹林の林床で各地に比較的広く分布がみられる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　64、65、67、88、100、102、104、110、112、113、114、126、142、143、171

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

オオヤマオダマキ
Aquilegia buergeriana var. *oxysepala*　キンポウゲ科

情報不足（DD）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道、本州、四国、九州に分布している。朝鮮、中国（北部・東北部）、シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　大崎市鳴子の奥羽山地の林縁や道端の草地などに生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ミヤマオダマキ
Aquilegia flabellata var. *pumila*　キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の2ヶ所で、ごく限定されている。園芸採取される危険がある。
■**分布の概要**　本州中北部・北海道に分布している。南千島・樺太・朝鮮北部に分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の日当たりの良い草原に生育、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　226

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

ハンショウヅル
Clematis japonica　キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州、九州に分布している。 主に温帯の地域に分布、日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市の丘陵で標本が採集されている。山地、丘陵地の林縁や林内に生えるつる性の落葉木本。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、森林伐採など
■**主要文献番号**　38-2

（執筆：植物分科会）

（撮影：菅野　壽代）

カザグルマ
Clematis patens　キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は60ヶ所以上と多いが、里山地域の開発が進み減少率の高い所が多い。また、園芸植物として乱獲されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州北部に分布している。朝鮮・中国東北部・南部に分布する。
■**県内の生育状況**　各地の里山の林縁などに生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。庭にも植栽される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　16、33、47、48、49、67、84、101、130、142、143、148、149、188、212、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ミツバノバイカオウレン
Coptis trifoliolata

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されており、ランクを上げた。個体数とも少ない。
■**分布の概要**　本州の中部地方～東北地方の日本海側の高山帯～亜高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　栗駒山の亜高山帯の限られた立地に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　108

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰［撮影地：山形県］）

アズマシロカネソウ
Dichocarpum nipponicum

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、局限されている。生育地や個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の日本海側・青森県から鳥取県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　栗駒山のブナ林のやや湿った林床に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など。
■**主要文献番号**　192

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

トウゴクサバノオ
Dichocarpum trachyspermum

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　本県が日本の分布北限。生育地は20ヶ所程度で限られている。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　大和町七ッ森から南部の丘陵地帯の樹林の林床で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　54、58、67、110、200

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

シラネアオイ
Glaucidium palmatum

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は50ヶ所程度であるが、花が目立つため園芸採取などで減少している。
■**分布の概要**　本州の中部地方の日本海側から北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地のブナ林の林床に広く分布しているが、北上山地の標本はない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　56、137、173、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヒメキンポウゲ
Halerpestes kawakamii

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所近く記録されているが、現在生育地は県内では確認されていない。
■**分布の概要**　本州の青森県～千葉県・秋田県の海岸付近の湿地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　海岸の砂地、湿地に生育し、個体数も少ない。東日本大震災後、生育は確認されていない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害など
■**主要文献番号**　73、74、106、143、209、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

スハマソウ
Hepatica nobilis var. *japonica* f. *variegata*

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所程度で多いが、園芸採取、開発などで個体数の減少が危惧される。
■**分布の概要**　本州・四国に分布している。ヨーロッパと東アジアに離れて分布している。
■**県内の生育状況**　丘陵帯から山地帯の林床に広く生育しているが、生育地及び個体数が減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　17、103、115、116、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

オキナグサ
Pulsatilla cernua

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は以前は30ヶ所以上あったが、家畜の放牧が減少し、生育地であった半自然草原が減少し、園芸植物として乱獲され激減した。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国の暖帯～温帯に分布する。
■**県内の生育状況**　平地から山地の日当たりの良い草原、河川の土手などに生育するが、生育地、個体数共に急激に減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草地開発、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、167、171、188、212、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

コキツネノボタン
Ranunculus chinensis

キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。湿地に生育するが、土地開発等により絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　北海道南部～九州に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平地の日当たりの良い湿地に生育し、生育地、個体数共に少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　70、144、194

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

ヒキノカサ
Ranunculus extorris

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　本県が分布の北限。局限された河川敷1ヶ所に生育し、開発で減少する可能性がある。
■**分布の概要**　宮城県・新潟県以南の本州～九州に分布している。朝鮮（済州島）・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　登米市の河川敷のヨシ焼き後などの日当たりの良い湿地に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、河川開発など
■**主要文献番号**　144

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ツルキツネノボタン
Ranunculus hakkodensis

キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州（東北6県・長野県の日本海側）の山地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の船形連峰から栗駒山の山地帯の湿った森林下や林縁に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ヒメバイカモ
Ranunculus kadzusensis

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 EN

■**選定理由**　宮城県が分布の北限。生育地は数ヶ所で、開発等で減少した。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　平地から丘陵地の水田、溜池などに生育し、個体数も少ない。東日本大震災による津波で絶滅した所もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染、土地開発など
■**主要文献番号**　75、76、78、92、94、105、115、116、180、212、227、230、231、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

バイカモ
Ranunculus nipponicus var. *submersus*

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くあったが、丘陵地の河川では水質汚染などで減少している。
■**分布の概要**　本州と北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地や平野部のきれいな流水中に生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、水質汚染など

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヒメウズ
Semiaquilegia adoxoides

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　関東より南の本州、四国、九州に分布している。朝鮮半島南部や中国の暖帯に分布する。
■**県内の生育状況**　道端、草地に生育。大和町の標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、草地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　251、38-2

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：神奈川県］）

ツヅラフジ
Sinomenium acutum

ツヅラフジ科

情報不足（DD）	
2016	環境省
DD	-

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は1ヶ所であるが、土地開発により絶滅が危惧される。また、現状の情報が無い。
■**分布の概要**　東北南部以南の本州・四国・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地に林内に生育するつる性の低木。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：福島県］）

マンセンカラマツ
Thalictrum aquilegiifolium var. *sibiricum*

キンポウゲ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	EN

■**選定理由**　生育地は数ヶ所と限られており、生育地、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。千島・樺太・中国北部～東北部・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　県南の平地の日当たりの良い林縁の草原に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

イワカラマツ
Thalictrum minus var. *sekimotoanum*

キンポウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	VU

■**選定理由**　生育地は県立公園内とそれ以外の数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の中部の山地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、千貫丘陵の日当たりのよい岩壁で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　21、33

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ノカラマツ
Thalictrum simplex var. *brevipes*

キンポウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	VU

■**選定理由**　生育地は2ヵ所のみで、個体数は少なくないが、産地は局限されている。
■**分布の概要**　青森県以南の本州～九州に分布している。朝鮮南部・中国中北部～東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　角田市と登米市の河川敷で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　100、143、144

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ヤマシャクヤク
Paeonia japonica

ボタン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
CR+EN	NT

■**選定理由**　生育地が20ヶ所以上と比較的多いのでランクを下げた。大型の花で園芸価値が高く、乱獲される恐れがある。
■**分布の概要**　北海道から九州までの山地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　山地の林床の限られた立地に生育し、花は白色、個体数は急激に減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、173、238、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata　ボタン科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されている。大型の花で園芸価値が高く、乱獲される恐れがある。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・樺太に分布する。
■**県内の生育状況**　山地のやや湿った林床、林縁に生育する。生育地、個体数共に少ない。鹿の食害を免れている生育地もある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　33、171

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ヤシャビシャク

Ribes ambiguum　スグリ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度であるが、減少率の高い所が半数近くある。ブナ林の伐採が進行したので、その生育環境が局限されている。
■**分布の概要**　本州・四国・九州に分布している。中国大陸西部に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯のブナの大木等の樹幹に着生する植物で、大木が伐採されたため個体数も減少した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など
■**主要文献番号**　101、173、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ザリコミ

Ribes maximowiczianum　スグリ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の東北地方南部～中国地方・四国に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊の山地帯の林内に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

トガスグリ

Ribes sachalinense　スグリ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・中部地方以北の本州・四国に分布している。樺太にも分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の林床や風穴に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ムカゴネコノメソウ

Chrysosplenium maximowiczii　ユキノシタ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 NT

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は20ヶ所以上あるが、個体数は少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南・関東・東海の本州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　県南の阿武隈山地の谷沿いの林床に局限して生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　8、33、112、196、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

シコタンソウ

Saxifraga bronchialis subsp. *funstonii* var. *rebunshirensis*　ユキノシタ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されており、ランクを上げた。園芸採取される恐れがある。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部以北に分布している。千島・樺太にも分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は二口山塊で極めて限定されており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　102、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：山梨県］）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

エゾノチャルメルソウ
Spuriomitella integripetala

ユキノシタ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　分布の南限に近く、生育地は１ヶ所で、個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州の福島県から北海道に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　七ヶ宿町の奥羽山地の山地帯の流水縁などに生育する。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　45、93

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

アズマツメクサ
Crassula aquatica

ベンケイソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所程度で限定されている。湿地の開発によって、絶滅する危険がある。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。北半球の温帯に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸部、平地の湿地に生育し、生育地、個体数が減少している。東日本大震災の津波浸水域で一時的に多数確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、92、177、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

ベンケイソウ
Hylotelephium erythrostictum

ベンケイソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の大平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されており、ランクを上げた。沿岸部と丘陵地帯で見られる。
■**分布の概要**　本州中北部・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　丸森町、東松島市、仙台市のやや乾いた草原や明るいやや乾いた林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採、草原開発、園芸採取

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ツメレンゲ
Orostachys japonica

ベンケイソウ科

情報不足（DD）	
2016 DD	環境省 NT

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は1ヶ所であるが、詳細な調査は行われていない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は丘陵地の岩上である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　42

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ミヤママンネングサ
Sedum japonicum var. *senanense*

ベンケイソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で、限定されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の亜高山帯～高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地、亜高山の岩場に生育している。生育地が特異なので個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

オグラノフサモ
Myriophyllum oguraense

アリノトウグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は10ヶ所程度で限定されている。
■**分布の概要**　山形県・宮城県以南の本州・四国に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部、丘陵地の溜池、沼沢に生育、生育地が減少し、水質汚染により絶滅が心配される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、水質汚染、園芸採取など
■**主要文献番号**　73

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

タチモ
Myriophyllum ussuriense　アリノトウグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度と局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・台湾・アムール・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　平野部、丘陵地の湖沼や沼沢地に生育。生育地・個体数がともに少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、土地開発など
■**主要文献番号**　188

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

タコノアシ
Penthorum chinense　タコノアシ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は50ヶ所以上と多い。環境省カテゴリーでNTに指定。
■**分布の概要**　本州から奄美大島に分布している。東アジアに広く分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の湿地、河川、用水路など広く各地で生育が確認されている。津波による攪乱で増加している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、河川開発など
■**主要文献番号**　17、52、67、70、73、74、75、76、77、78、79、88、107、119、130、143、144、151、179、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

モメンヅル
Astragalus reflexistipulus　マメ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で局限されており、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　広島県以東の本州から北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　高山帯から丘陵地まで日当たりの良い草原に広く生育するが、生育地は限られている。草原が放置され自然遷移が進行したり、植林が行われたりしており、生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　100、231

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：長野県］）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ジャケツイバラ
Caesalpinia decapetala　マメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地が１ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州・沖縄に分布する。朝鮮・中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南部の丘陵地に生育していたが、近年確認されていない。生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然災害など
■**主要文献番号**　241、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰［撮影地：福島県］）

タヌキマメ
Crotalaria sessiliflora　マメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は２ヶ所で、個体数も少ない。
■**分布の概要**　東北地方南部以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・東南アジア・インドに分布する。
■**県内の生育状況**　仙台市と大崎市鹿島台の日当たりの良い草原や道端に生育していたが、近年確認されていない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、植林、道路工事、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：岡崎　キヌ）

ノアズキ
Dunbaria villosa　マメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で極めて局限的である。個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州～九州・奄美大島・小笠原に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　県南の山元町、亘理町に極めて稀に生育している。林縁や日当たりの良い草地に生育、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　道路工事、土地造成、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、76、77、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：惠美　泰子）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

イワオウギ
Hedysarum vicioides subsp. *japonicum* var. *japonicum*

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園の2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中部以北・北海道に分布している。朝鮮・中国・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、船形連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　99、220、226

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

マルバヌスビトハギ
Hylodesmum podocarpum subsp. *podocarpum*

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
要注目種	-

■**選定理由**　本県は分布北限に近い。生育地は丘陵地の10ヶ所近くと少ないためランクを上げた。
■**分布の概要**　岩手県以南の本州～九州に分布している。中国・台湾・ヒマラヤ・インドに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の道端、草地に生え、広い範囲に分布がみられる。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、草刈りなど

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ケヤブハギ
Hylodesmum podocarpum subsp. *fallax*

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
要注目種	-

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地が丘陵地の数ヶ所と少ないためランクを変えた。
■**分布の概要**　宮城県・山形県以南の本州～九州に分布している。中国・台湾・ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　県南の丘陵地の林縁、林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　1、22、165、196

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

エゾノレンリソウ
Lathyrus palustris

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は40ヶ所近くと比較的多いが、開発などで生育地・個体数ともに減少している。
■**分布の概要**　本州・北海道・対馬に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の後背地から丘陵地の草地に広い範囲で分布している。東日本大震災の津波浸水域でも確認されているが、津波により消滅した生育地も多い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　76、78、174、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

レンリソウ
Lathyrus quinquenervius

マメ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されている。河川工事などで生育地が減少している。
■**分布の概要**　本州から九州に分布している。朝鮮・中国・ロシア東部に分布している。
■**県内の生育状況**　平野部から丘陵帯の河川敷の湿った草地などに生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

イヌハギ
Lespedeza tomentosa

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	NT

■**選定理由**　生育地は40ヶ所近くで比較的多いが、減少率の高い所が多い。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・マレーシア・インド・ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の河原など日当たりの良い砂地に生育する。津波による攪乱で一時的に増加した所もある。河川改修などで生育環境が悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、自然遷移など
■**主要文献番号**　33、73、77、78、88、179、180、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

マキエハギ
Lespedeza virgata

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所近くと比較的多いが、人為の影響を受け易く個体数の減少が見られる。
■**分布の概要**　岩手県・山形県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の日当たりの良い草地を中心に生育する。その生育地は減少傾向にある。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草地開発、除草、道路工事など
■**主要文献番号**　76、77、78、143、167、179、180、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：大越　秀樹）

トキリマメ（オオバタンキリマメ）
Rhynchosia acuminatifolia

マメ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は10ヶ所以上あるが、限定されている。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市以南の沿岸部及び丘陵地の林縁に生育する。個体数は少ない。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、震災復興工事など
■**主要文献番号**　13、100、102、106、133、143、200、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

センダイハギ
Thermopsis fabacea

マメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あったが、東日本大震災による津波により絶滅した生育地や新たに増加した生育地もあった。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・中国・ロシア極東・北アメリカ北部に分布する。
■**県内の生育状況**　沿岸地域の海岸砂丘等に生育している。生育地、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、自然災害、海岸開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、78、142、143、158、179、180、209、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

シャジクソウ
Trifolium lupinaster

マメ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　島嶼に分布し、生育地は国立公園内の数ヶ所で、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の長野県・群馬県・宮城県に分布している。東アジアの亜寒帯・シベリア・中央アジア・ヨーロッパ・アラスカに分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼の海岸の岩上及び日当たりの良い草原に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、踏付けなど
■**主要文献番号**　14、96、100、116、185

（執筆：植物分科会）

（撮影：髙橋　和吉）

オオバグミ（マルバグミ）
Elaeagnus macrophylla

グミ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　大平洋側の分布の北限に近く、生育地は局限されている。
■**分布の概要**　関東・中部以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。朝鮮南部にも分布する。
■**県内の生育状況**　極めて限られた地域に生育しており、個体数も少なく絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　254

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ホナガクマヤナギ
Berchemia longiracemosa

クロウメモドキ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中部以北の日本海側に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地北部のブナ帯の林内に局限されている。個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：秋田県］）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ヨコグラノキ
Berchemiella berchemiifolia

クロウメモドキ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　東北地方唯一の分布で北限。生育地が２ヶ所で局限されている。生育面積、個体数共に僅かである。
■**分布の概要**　本州・四国・九州の岩礫地に分布している。朝鮮半島南部にも分布するが希である。
■**県内の生育状況**　１ヵ所は国指定天然記念物で保護され健在である。他所のものは絶滅寸前である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　21、22、23、93、102、122、165、169、204、217、244

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

マルバヤブマオ
Boehmeria robusta

イラクサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。
■**県内の生育状況**　平野部の林縁や路傍の草原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

トキホコリ
Elatostema densiflorum

イラクサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は10ヶ所近くで局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の東北地方南部から関東地方・兵庫県に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙台市、川崎町の平地から丘陵地に生育地は限られており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　50

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

タチゲヒカゲミズ
Parietaria micrantha var. *coreana*

イラクサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は県立公園内の１ヶ所で局限され、個体数も少なく、ランクを上げた。
■**分布の概要**　本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊の山地帯下部に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：長野県］）

コケミズ
Pilea peploides

イラクサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　宮城・山形県以南の本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・マレーシア・インド・ハワイ・ガラパゴス諸島に分布する。
■**県内の生育状況**　中部・南部の山地の陰湿地に生育し、生育地は局限、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

チョウセンキンミズヒキ
Agrimonia coreana

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、生育環境の破壊が懸念される。
■**分布の概要**　北海道西南部～九州に分布している。朝鮮・中国東北部・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の林縁、草地に分布するが生育地は極めて局限されており、生育環境の悪化が懸念される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、森林伐採など
■**主要文献番号**　71、196、232

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

エゾツルキンバイ
Argentina anserina

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の南限に近く、生育地は数ヶ所で個体数も少ない。東日本大震災の津波で絶滅した所が多く、ランクを上げた。
■**分布の概要**　北海道・本州北部の海岸に分布している。千島・樺太・朝鮮・ウスリー・カムチャツカ・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の塩湿地に生育する。東日本大震災の津波で消滅した所もあるが消滅を免れた個体の一部は移植され、保護されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害、海岸開発など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、100、164

（執筆：植物分科会）

（撮影：丸山　まさみ［撮影地：北海道］）

ミヤマザクラ
Cerasus maximowiczii

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　東北地方以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国北東部・ウスリー・樺太に分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、船形連峰の山地帯に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：忍頂寺　晃嗣）

クサボケ
Chaenomeles japonica

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が太平洋側北限。生育地が2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州・九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　日当たりの良い原野に生育するが、原野の利用が減少し、自然遷移が進行したり、スギなどの植林地に変更されたりして、生育環境が減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、植林、土地開発など
■**主要文献番号**　130、142、184

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

キンロバイ
Dasiphora fruticosa

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が1ヶ所で局限されている。登山者による攪乱を受け易い所に生育している。個体数の減少が懸念される。
■**分布の概要**　本州中北部～北海道に分布している。千島・樺太・朝鮮北部・中国・ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の亜高山帯の限られた立地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、踏付け、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、101

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：栃木県］）

シモツケソウ（変種アカバナシモツケソウを含む）
Filipendula multijuga

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　関東以西の本州から四国・九州の山地に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の山地の草地に生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：大友　良三）

ノウゴウイチゴ
Fragaria iinumae

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の日本海側から北海道に分布している。樺太にも分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の亜高山の湿った草地で生育が確認されている。蔵王連峰でも視認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：尾形　良太）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

カラフトダイコンソウ
Geum macrophyllum var. *sachalinense*

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中北部～北海道に分布している。千島・樺太・北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の山地の林床に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など
■**主要文献番号**　35

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

カワラサイコ
Potentilla chinensis

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されており、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・アムール・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　日当たりの良い河原や海岸の砂礫地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　73

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：栃木県］）

ヒロハノカワラサイコ
Potentilla niponica

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は20ヶ所以上あるが、比較的限定的である。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙北の日当たりの良い河原や砂地に広く分布する。仙台市から南部の標本はない。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

エチゴキジムシロ
Potentilla togasii

バラ科

要注目種	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　新潟県以北の本州日本海側（兵庫県～秋田県）に分布している。ウスリーにも分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊の丘陵帯～山地帯の林縁、草地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など
■**主要文献番号**　102

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

エチゴツルキジムシロ
Potentilla toyamensis

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園の２ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の日本海側の福井県～秋田県に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の北部の山地帯の林縁、草地に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ミチノクナシ（イワテヤマナシ）
Pyrus ussuriensis

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 EN

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州・九州北部に分布している。ウスリー・中国北部・北東部・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地の日当たりのよい尾根筋に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

シャリンバイ
Rhaphiolepis indica var. *umbellata*

バラ科

要注目種	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は20ヶ所近くである。
■**分布の概要**　本州の宮城県から沖縄までに分布している。中国・台湾・朝鮮半島・フィリピン・ボルネオにも分布する。
■**県内の生育状況**　日本の北限で東松島市まで分布、海岸の丘陵地に生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　92、94、105、115、179、184、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

オオタカネバラ
Rosa acicularis

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　高山植物で特殊な環境に生育し、生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部の日本海側高山に分布している。樺太・朝鮮・中国東北部・シベリア・カムチャツカに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の風穴などの限られた立地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

タカネバラ
Rosa nipponensis

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で限定的である。
■**分布の概要**　本州中部・四国の亜高山帯・高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、船形連峰の高山の日当たりのよい場所で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、102、220、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ハマナス
Rosa rugosa

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は50ヶ所近くで比較的多いが、園芸植物として採取が危惧される。
■**分布の概要**　北海道以南・太平洋側は茨城県南部まで・日本海側は東北・北陸～島根県まで分布している。東アジアの温帯～亜寒帯に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸砂丘に生育するが、生育地は比較的限定されている。園芸植物として採取される危惧がある。また、2011年の東日本大震災の津波に遭遇し絶滅した所も多くある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、海岸開発、復興工事など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、100、106、130、142、143、155、156、158、171、179、180、205、209、214、238、242、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

エゾキイチゴ（ミヤマウラジロイチゴ）
Rubus idaeus

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　高山植物で特殊な環境に生育し、生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州の東北・関東・中部・近畿の亜高山帯に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の風穴などの限られた立地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

シモキタイチゴ
Rubus mesogaeus var. *adenothrix*

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側南限。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道南部・本州北部・九州に分布している。
■**県内の生育状況**　北上山地の日当たりの良い森林下や林縁に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）	絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

ヒメゴヨウイチゴ
Rubus pseudojaponicus

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中北部から北海道の亜高山帯の針葉樹林下に分布している。南千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊の落葉樹林の林床で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

サナギイチゴ
Rubus pungens var. *oldhamii*

バラ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
要注目種	VU

■**選定理由**　生育地が10ヶ所近くと少ないためランクを上げた。環境省カテゴリーＶＵ。
■**分布の概要**　本州・四国・九州のブナ帯に分布している。中国・ヒマラヤにも分布する。
■**県内の生育状況**　県南の奥羽山地と北上山地の落葉広葉樹林の林床、林縁に比較的生育地が多い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　13、21、22、143、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

キビノナワシロイチゴ（キビナワシロイチゴ）
Rubus yoshinoi

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地も数ヶ所で局限されており、個体数も少なく絶滅が危惧される。
■**分布の概要**　本州の宮城県・福島県・中国地方・九州に分布している。中国にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南部の丸森町の林縁に生育地が局限されており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、道路工事など
■**主要文献番号**　130

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ナガボノワレモコウ（ナガボノシロワレモコウ）
Sanguisorba tenuifolia

バラ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	-

■**選定理由**　生育地が10ヶ所程度で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の東北・関東に分布している。樺太にも分布する。
■**県内の生育状況**　湿った草地に生育する。生育地は局限されており、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　143、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

エゾノシロバナシモツケ
Spiraea miyabei

バラ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　本県は分布の南限。生育地は数ヶ所で局限されている。個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州の秋田県・宮城県以北・北海道に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の限られた立地に生育している。個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　21、22、93、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

アラカシ
Quercus glauca

ブナ科

要注目種	
2016	環境省
要注目種	-

■**選定理由**　本県は分布の太平洋側北限。生育地は20ヶ所近くで限定されている。
■**分布の概要**　宮城県・石川県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮（済州島）・中国・台湾・インドシナ～ヒマラヤに分布する。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地と千貫丘陵の仙台市までの丘陵地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　95、107、180、196、201、215、221、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

サクラバハンノキ
Alnus trabeculosa

カバノキ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は１ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　岩手県・山形県以南の本州・九州宮崎県に分布している。中国東南部にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南部の奥羽山地に生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　203

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ネコシデ
Betula corylifolia

カバノキ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　近畿地方以北の本州の亜高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　二口山塊の亜高山で生育が確認されている。蔵王連峰でも視認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

イワウメヅル
Celastrus flagellaris

ニシキギ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 DD	環境省 -

■**選定理由**　生育地が奥羽山地と北部北上山地に数ヶ所あることが判り、カテゴリーを変更した。
■**分布の概要**　東北地方南部以南の本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地と県北部北上山地の林内や河畔林に限定されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：杉山　多喜子）

ノウルシ
Euphorbia adenochlora

トウダイグサ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 NT

■**選定理由**　生育地が50ヶ所近くと多いが、減少率の高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーNT。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地を除く平野部の河川敷や湿地に比較的広く生育している。津波浸水域で消滅した所も多く、また河川改修などで減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、湿地開発、草刈りなど
■**主要文献番号**　33、73、76、77、78、88、143、144、179、180、194、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

マルミノウルシ
Euphorbia ebracteolata

トウダイグサ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で偏在している。個体数は少ない。
■**分布の概要**　関東地方以北の本州に分布している。朝鮮・中国中部に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地である丘陵地の草原が減少し、生育地、個体数とも少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　100、142、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

センダイタイゲキ
Euphorbia sendaica

トウダイグサ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地が2ヶ所で局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　関東以北の本州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙南の丘陵地の林縁の湿った谷間に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　108、128、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

トカチヤナギ（オオバヤナギ）

Salix cardiophylla　ヤナギ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度とごく限られている。河川改修によって生育地・個体数は減少する一方である。
■**分布の概要**　中部以北の本州・北海道に分布している。南千島・朝鮮半島・中国東北部・シベリア・沿海州・アムール・サハリンに広く分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の河川敷に分布がみられる。河川改修で林分が狭められ、生育環境が悪化しており自然更新が危ぶまれる状況にある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　93、99、254

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ユビソヤナギ

Salix hukaoana　ヤナギ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	NT

■**選定理由**　国内でも稀な植物で隔離分布。分布域は10ヶ所程度で限られている。砂防ダム、河川改修、林道からの廃土等により生育が脅かされている。
■**分布の概要**　本州の岩手県・秋田県～群馬県に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　鳴瀬川上流、荒雄川に生育している。荒雄川の生育地は河川改修で絶滅が危惧される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　207、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

シライヤナギ

Salix shiraii　ヤナギ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　生育地は数ヶ所あるが、広く分布し個体数も多くランクを下げた。東北地方では数ヶ所の生育地が知られるのみである。
■**分布の概要**　本州の東北地方南部から関東地方北西部に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の岩場の限られた場所に生育している。かつて青根にも生育していたが、道路工事で消滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

エゾノタチツボスミレ

Viola acuminata　スミレ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
NT	-

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で比較的限定的である。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の中部以北・北海道に分布している。樺太・千島・シベリア東部・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯から北上山地の丘陵帯の林床、草地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

キバナノコマノツメ

Viola biflora　スミレ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　黄花のスミレで、生育地は県立公園内の1ヶ所である。
■**分布の概要**　北海道・本州中北部・四国・屋久島まで分布している。北半球亜寒帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　船形山の高山の草原に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：岡崎　キヌ）

ヒゴスミレ

Viola chaerophylloides var. *sieboldiana*　スミレ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　本県が太平洋側北限。生育地が数ヶ所と局限、個体数も少ない。絶滅した所もある。
■**分布の概要**　本州の山形県・宮城県～九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地の日当たりのよい草地で、個体数も少ない。土地開発や園芸植物として採取され激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　99、186

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

シロスミレ
Viola patrinii

スミレ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 EX	環境省 -

■**選定理由**　絶滅とみなされたが、他の場所１ヶ所で生育が確認されたので、ランクを変えた。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。南千島・樺太・朝鮮・中国東北部・シベリアの山地及び低地の湿地に分布する。
■**県内の生育状況**　山形県との県境の大崎市の峠の草原で生育が確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　72、206

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

タチスミレ
Viola raddeana

スミレ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 VU

■**選定理由**　分布の北限で、生育地は品井沼であったが、品井沼の干拓により絶滅した。全国的な稀産種。
■**分布の概要**　関東地方などに稀に分布している。朝鮮・中国東北部・アムールの低湿地のヨシの間などに分布する。
■**県内の生育状況**　大崎市鹿島台の池沼の標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼干拓など
■**主要文献番号**　34、42、118、216

（執筆：植物分科会）

（生態写真：上野　雄規［撮影地：栃木県］　標本写真：上野　雄規［東京大学総合研究博物館所蔵］）

フモトスミレ
Viola sieboldii

スミレ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　岩手県・山形県以南の本州・四国・九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　日当たりのよい丘陵地の草地に生育、個体数が減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　17、19、48、88、101

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

シハイスミレ
Viola violacea var. *violacea*

スミレ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で極めて局限され、個体数も少ない。
■**分布の概要**　岩手県・山形県以南の本州～九州に分布している。朝鮮半島南部にも分布する。
■**県内の生育状況**　島嶼と栗駒山に局限して生育し、個体数は少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　195

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

マツバニンジン
Linum stelleroides

アマ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 CR

■**選定理由**　生育地は1ヶ所だけ確認されている。生育地の草地の減少で、絶滅の可能性も高い。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。東アジアに分布する。
■**県内の生育状況**　加美町の草地で採集された標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　草地開発、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：茨城県］）

アゼオトギリ
Hypericum oliganthum

オトギリソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 EN

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　関東以南の本州・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　登米市の河川敷の湿地に生育、生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：浅井　元朗）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

オシマオトギリ
Hypericum vulcanicum

オトギリソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されている。個体数とも少ない。
■**分布の概要**　本州の新潟県以北の日本海側・石狩以西の北海道に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の日当たりのよい湿った岩場等に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

タカネグンナイフウロ
Geranium onoei f. alpinum

フウロソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は県立公園内の1ヶ所で、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の磐梯山～伊吹山に分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の亜高山帯の限られた立地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：根本　秀一［撮影地：山梨県］）

コフウロ
Geranium tripartitum

フウロソウ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所近くで局限されている。
■**分布の概要**　山形県・宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地、阿武隈山地、北上山地の丘陵地の林縁、草地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、100、142、143、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ヒメミソハギ
Ammannia multiflora

ミソハギ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地が2ヶ所で限られ、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。アジア・アフリカ・オーストラリアの亜熱帯・熱帯に分布する。
■**県内の生育状況**　分布域が仙南の湿地に限られ、１ヶ所は東日本大震災の津波浸水域に新たに確認されたもので、復旧工事により消滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　74、78、130、177

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ミズマツバ
Rotala mexicana

ミソハギ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限られている。農薬汚染、農地転用、土地開発で個体数が激減している。
■**分布の概要**　本州～沖縄に分布している。朝鮮・中国・フィリピン・インド・中央アジア・アフリカに分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は平野部から丘陵帯の水田や水位の低下したダムの湿地などである。津波浸水域でも一時的に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農地転用、土地開発、農薬汚染、水質汚染など
■**主要文献番号**　74、75、78、175、178、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

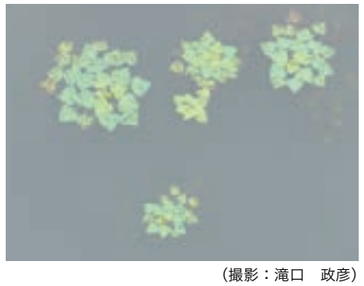
ヒメビシ
Trapa incisa

ミソハギ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で限定されており、個体数も少ない。水環境の悪化で絶滅した所もある。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。ウスリー・中国東北部・台湾・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は平野部から丘陵部の湖沼で、水環境の悪化により絶滅の恐れがある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　農薬汚染、水質汚染、池沼開発など
■**主要文献番号**　88

（執筆：植物分科会）



（撮影：滝口　政彦）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ウスゲヤナギラン

Chamaenerion angustifolium subsp. *circumvagum*　アカバナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で限定されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。ヨーロッパ・アジア・アメリカに広く分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地の草地で、個体数は極めて少ない。また、森林伐採後や山火事後に発生することもある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

アシボソアカバナ

Epilobium anagallidifolium　アカバナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園の栗駒山１ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中部以北・北海道に分布している。北半球の周極地域に広く分布する。
■**県内の生育状況**　亜高山帯の渓流沿いの砂礫草原に生育は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

カラフトアカバナ

Epilobium ciliatum　アカバナ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限定されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。朝鮮・アムール・ウスリー・オホーツク・樺太・千島・カムチャツカに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の渓流沿いの湿った場所などに生育している。低地の河川敷でも確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、河川開発、乾燥化など
■**主要文献番号**　88

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

ホソバアカバナ

Epilobium palustre　アカバナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は県立公園内の1ヶ所であり、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州中北部から北海道に分布している。ヨーロッパ・北アメリカの温帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　船形山の湿原に生育は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ナンブコハモミジ

Acer amoenum var. *nambuanum*　ムクロジ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国立公園内の1ヶ所であり、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の東北地方の三陸地方沿岸に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　オオモミジの変種で葉が小さく、三陸地方の金華山島で確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　42

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規［国立科学博物館植物研究部所蔵］）

ウスギモクゲンジ

Koelreuteria paniculata f. *miyagiensis*　ムクロジ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　花の色が薄い黄色の品種であるが、生育地は石巻市だけで数ヶ所確認されている。
■**分布の概要**　母種は本州の日本海側、長野県、宮城県・岩手県の太平洋側に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　石巻市の海岸の丘陵で生育が確認されている。
■**近似種との区別**　モクゲンジの品種
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地造成など
■**主要文献番号**　146

（執筆：植物分科会）

（撮影：佐々木　豊）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

フユザンショウ
Zanthoxylum armatum var. *subtrifoliatum*

ミカン科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は数ヶ所で局限されている。生育地も個体数も少ない。
■**分布の概要**　関東以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。朝鮮南部・台湾・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は塩竈市から気仙沼市までの沿岸部の丘陵地に限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発など
■**主要文献番号**　92、100、184

（執筆：植物分科会）

（撮影：滝口　政彦）

カラスノゴマ
Corchoropsis crenata

アオイ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上あるが、限定されており、近年減少している。
■**分布の概要**　関東以西の本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の畑や道端で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、道路工事など
■**主要文献番号**　248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ハマハタザオ
Arabis stelleri var. *japonica*

アブラナ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は40ヶ所近くあるが、近年減少している。
■**分布の概要**　北海道から九州まで分布している。朝鮮・樺太・千島に分布する。
■**県内の生育状況**　山元町から気仙沼市まで広い範囲の海岸の砂地に生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域で多数確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　震災復興工事など
■**主要文献番号**　74、76、78、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

ミズタガラシ
Cardamine lyrata

アブラナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布北限。生育地は10ヶ所以上で、湿地の開発によって絶滅する危険がある。
■**分布の概要**　関東以南の本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・シベリア東部・ロシア極東に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の湿地、沼沢地に生育し、生育地、個体数も減少している。東日本大震災の津波により、仙台市の平野の生育地は消滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　17、19、135

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

エゾハタザオ
Catolobus pendulus

アブラナ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 -

■**選定理由**　生育地が10ヶ所以上あるが、少ないためランクを上げた。
■**分布の概要**　北海道・中部以北の本州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・ロシア極東・シベリア・ヨーロッパに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の湿った草地に広く、比較的多く生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　21

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ナニワズ
Daphne jezoensis

ジンチョウゲ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で限定されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北陸以北の本州・北海道に分布している。千島・サハリンにも分布する。
■**県内の生育状況**　生育地は奥羽山地、北上山地で、山林の開発、園芸植物としての採取による絶滅の恐れがある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

オニシバリ
Daphne pseudomezereum

ジンチョウゲ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は太平洋側分布の北限。生育地は20ヶ所近くで限定されている。個体数は極めて少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州・四国・九州に分布している。韓国（済州島）にも分布する。
■**県内の生育状況**　三陸沿岸まで丘陵地の落葉広葉樹林の林床に広く分布する。生育地の開発、園芸採取で減少が懸念される。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　22、88、143、151、165、241、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ハナハタザオ
Dontostemon dentatus

アブラナ科

絶滅（EX）	
2016 -	環境省 CR

■**選定理由**　100年以上前の品井沼の標本が1点あるのみである。
■**分布の概要**　本州の中部・東北地方南部に分布している。朝鮮・中国・シベリアに分布する。
■**県内の生育状況**　大崎市鹿島台で過去に確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発など
■**主要文献番号**　212

（執筆：植物分科会）

（生態写真：根本　秀一［撮影地：茨城県］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

オオユリワサビ
Eutrema okinosimense

アブラナ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の蔵王連峰、加美町、白石市の小川で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ハクセンナズナ
Macropodium pterospermum

アブラナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は県立公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中北部から北海道に分布している。中国・ロシア極東部に分布する。
■**県内の生育状況**　船形連峰の湿った斜面に生育が局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰［撮影地：山形県］）

コイヌガラシ
Rorippa cantoniensis

アブラナ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は2ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　関東地方以西の本州～九州に分布している。朝鮮・中国・アムール・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　溜池やダムの水位の下がった湿地に生育する１年草であり、管理の変化などにより、確認が難しくなっている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　水質汚染、農薬汚染など
■**主要文献番号**　59、164

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ハタザオ
Turritis glabra

アブラナ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限定されている。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。ユーラシア大陸に広く分布する。
■**県内の生育状況**　東松島市から南の平野部、丘陵地で確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　74、76、78、246

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

ミヤマツチトリモチ
Balanophora nipponica　ツチトリモチ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は10ヶ所以上で限定されている。寄生植物で、個体数も少ない。
■**分布の概要**　青森県以南の本州・九州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地帯の林床に稀に生育し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　2、4、21、33、69、93、102、103、238、256

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

ホザキヤドリギ
Loranthus tanakae　オオバヤドリギ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地が2ヶ所と少ないのでランクを上げた。生育地は局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の東北地方・中部地方中北部に分布している。朝鮮・中国北部に分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の山地の落葉広葉樹に寄生している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

マツグミ
Taxillus kaempferi　オオバヤドリギ科

絶滅（EX）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　100年以上前の角田市の標本が2点あるのみである。
■**分布の概要**　関東・富山県以西の本州・四国・九州・沖縄に分布している。中国東部にも分布する。
■**県内の生育状況**　県南の角田市で過去にモミに寄生しているのが確認された。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然災害など
■**主要文献番号**　198、200

（執筆：植物分科会）

（生態写真：根本　秀一［撮影地：茨城県］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ハマサジ
Limonium tetragonum　イソマツ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　本県が分布の北限として貴重。生育地は10ヶ所以上あったが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも激減した。
■**分布の概要**　三陸海岸以南の太平洋側本州・四国・九州に分布している。朝鮮・中国東北部の海岸砂地に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の塩性湿地に生育し、亘理町から気仙沼市まで広く分布していたが、東日本大震災の津波後、復旧工事等により絶滅、現在は確認できない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害など
■**主要文献番号**　73、74、75、78、92、96、100、106、121、142、143、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：国京　潤一）

オヤマソバ
Aconogonon nakaii　タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　本州中部以北・北海道の高山帯に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の砂礫地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

アブクマトラノオ
Bistorta abukumensis　タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地が30ヶ所近くと少し多いのでランクを下げたが、生育地は限定されている。タイプ標本の産地である。
■**分布の概要**　福島県～宮城県の太平洋側の本州に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　生育地は仙南の丘陵地の谷筋に局限されており、園芸価値があり乱獲による個体数も減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　36、48、180、242、245

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

エゾイブキトラノオ
Bistorta officinalis subsp. *pacifica*

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は国定公園内の1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道から九州に分布している。カナダ・アラスカ・ユーラシアに広く分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰の高山の日当たりのよい草地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

クリンユキフデ
Bistorta suffulta

タデ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で、場所によっては絶滅した。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地の落葉樹林の林床に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など
■**主要文献番号**　100、107、140、142

（執筆：植物分科会）

（撮影：石隈　健斗［撮影地：山梨県］）

ムカゴトラノオ
Bistorta vivipara

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
-	-

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の2ヶ所である。
■**分布の概要**　本州中部以北・北海道に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰、船形連峰の高山の草地や岩礫地で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　99、220

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

エゾノミズタデ
Persicaria amphibia var. *amurensis*

タデ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016	環境省
CR+EN	-

■**選定理由**　生育地は1ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・東北地方・長野県北部に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　県北の湖沼の縁に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　池沼開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　88、117、118、216

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ヒメタデ
Persicaria erectominor var. *erectominor*

タデ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016	環境省
VU	DD

■**選定理由**　生育地は30ヶ所程度で限定され、個体数は少ない。
■**分布の概要**　北海道～九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の水湿地に生育している。品種のアオヒメタデは東日本大震災の津波浸水域で一時的に増加した。
■**近似種との区別**　ヒメタデは匍匐性が強く、花穂には開出毛が少なく短い。品種のアオヒメタデは立ち上がり、開出毛がやや多く長い。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発など
■**主要文献番号**　70、73、74、75、76、77、78、79、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヤナギヌカボ
Persicaria foliosa var. *paludicola*

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016	環境省
要注目種	NT

■**選定理由**　生育地が30ヶ所近くと多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
■**分布の概要**　北海道・本州・九州に分布している。朝鮮半島・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の水湿地に生育する1年草。生育地は限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、78、79、88、144、180

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ナガバノウナギツカミ
Persicaria hastatosagittata

タデ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は２ヶ所で局限、個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。中国南部・台湾に分布する。
■**県内の生育状況**　平野部の湖沼の湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発など

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

サデクサ
Persicaria maackiana

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　生育地が20ヶ所近くあるが、限定的である。干拓によって絶滅した所もある。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　水湿地に生育するが、局限された場所に生育している。東日本大震災の津波後新たに確認された生育地もあるが一時的である。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、干拓、管理放棄など
■**主要文献番号**　70、73、74、78、79、130、144、179、194、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：上野　雄規）

シラカワタデ
Persicaria maculosa subsp. *hirticaulis* var. *amblyophylla*

タデ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は10ヶ所近くで、局限されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の宮城県中部～関東北部に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地や阿武隈山地の草原や路傍に生育。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　11、25

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員／線画：井波一雄［東北大学植物園記念館所蔵］）

ヌカボタデ
Persicaria taquetii

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が30ヶ所近くと多いが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　県中央部・北部の平野部の湖沼に生育地は限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　湿地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　106、118、216

（執筆：植物分科会）

（撮影：浅井　元朗）

ホソバイヌタデ
Persicaria trigonocarpa

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は30ヶ所以上であるが、比較的限定的である。
■**分布の概要**　秋田県・宮城県以南～関東までの本州に分布している。朝鮮・中国北部・東北部・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　平野部から丘陵地の河川敷の湿地に広く生育する。河川改修の影響を受け、生育環境が悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　79、88、130、144、180、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ノダイオウ
Rumex longifolius

タデ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が50ヶ所程度と多いが、減少率が高い所も多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
■**分布の概要**　北海道・中部以北・和歌山県の本州に分布している。北半球に分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の湿った草地、路傍等に広い範囲で比較的多く生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、除草など
■**主要文献番号**　33、130、143、144、151、194

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

マダイオウ
Rumex madaio　タデ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の太平洋側北限。生育地は数ヶ所で局限、個体数は少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　平野部の水湿地に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　河川改修、沼沢地開発など

（執筆：植物分科会）

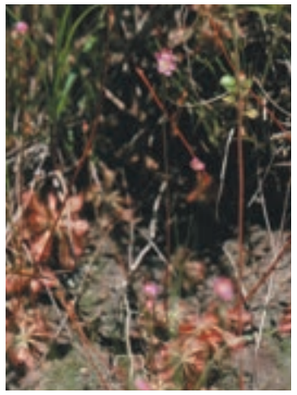
（撮影：森　俊）

コモウセンゴケ
Drosera spatulata　モウセンゴケ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は以前は10ヶ所あったが、2011年の大津波の影響で激減した。そのためランクを上げた。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州～沖縄に分布している。中国・台湾・東南アジア・オーストラリアに分布する。
■**県内の生育状況**　山元町、亘理町の沿岸部の湿地に生育しているが、東日本大震災の津波により生育地、個体数とも減少した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、土地開発、草刈り、自然遷移など
■**主要文献番号**　51、73、85、86、87、106、131、136、241、242、248

（執筆：植物分科会）


（撮影：森　俊）

タチハコベ
Arenaria trinervia　ナデシコ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 要注目種	環境省 VU

■**選定理由**　生育地が20ヶ所近くあるが、減少率が高い所が多くランクを上げた。環境省カテゴリーVU。
■**分布の概要**　北海道・本州・四国・九州に分布している。北半球に分布する。
■**県内の生育状況**　北上山地の丘陵帯の落葉広葉樹林の林床、林縁に比較的多く生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発など
■**主要文献番号**　88、100、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

タカネナデシコ
Dianthus superbus var. *speciosus*　ナデシコ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は県立公園の２ヶ所に局限されている。
■**分布の概要**　北海道・中部地方以北の本州の高山に分布している。ヨーロッパ・中国東北部・朝鮮に分布する。
■**県内の生育状況**　二口山塊の山地帯の岩場に生育地がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　238

（執筆：植物分科会）

（撮影：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

ハマハコベ
Honckenya peploides var. *major*　ナデシコ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヶ所で分布が局限、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州の主に日本海側に分布している。朝鮮・ロシア極東地方・南北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　三陸沿岸の砂浜、礫浜に生育する。東日本大震災の津波により生育地が消失した可能性がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　72、77、157

（執筆：植物分科会）

（撮影：藤田　玲［撮影地：北海道］）

ワダソウ
Pseudostellaria heterophylla　ナデシコ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は10ヶ所程度で限られており、生育環境が減少している。
■**分布の概要**　中部以北の本州・九州北部に分布している。朝鮮・中国・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地の自然度の高い里山の林床に生育する。全県に分布するが生育地は点在し、個体数も少ない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、自然遷移など
■**主要文献番号**　15、88、100、114、130、142、143

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ナンブワチガイソウ
Pseudostellaria japonica

ナデシコ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 VU

■**選定理由**　生育地は40ヶ所程度で比較的多いが、減少率の高い所が多い。生育環境が減少している。
■**分布の概要**　岩手県～長野県までの本州に分布している。中国北部・西南部・東北部・ウスリーに分布する。
■**県内の生育状況**　丘陵地帯の落葉広葉樹林の林床や林縁に広く分布する。里山地域の荒廃などにより生育環境が悪化している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、管理放棄、自然遷移など
■**主要文献番号**　32、33、66、92、96、100、139、142、143、151、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ヒゲネワチガイソウ
Pseudostellaria palibiniana

ナデシコ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限の植物。生育地は数ヶ所で局限されている。
■**分布の概要**　宮城県以南～中部地方の本州に分布している。朝鮮にも分布する。
■**県内の生育状況**　仙南の丘陵地の落葉樹林の林床や林縁に生育している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　7、8、22、112、165

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

シラオイハコベ（エゾフスマ）
Stellaria fenzlii

ナデシコ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　生育地は2ヵ所で局限されている。
■**分布の概要**　北海道・本州中部以北に分布している。千島・樺太・ウスリー・アムール・オホーツク・カムチャツカに分布する。
■**県内の生育状況**　奥羽山地の特殊な環境に生育しており、生育地を含む地域を保全する必要がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移、園芸採取など

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

カテゴリー	絶滅（EX）	野生絶滅（EW）	絶滅危惧I類（CR+EN）	絶滅危惧IA類（CR）	絶滅危惧IB類（EN）

イトハコベ
Stellaria filicaulis

ナデシコ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 CR

■**選定理由**　生育地は2ヶ所でごく限られている。
■**分布の概要**　関東地方以北の本州に稀に分布している。朝鮮・中国東北部・モンゴルに分布する。
■**県内の生育状況**　県北の平野部から丘陵帯の湿地に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、管理放棄など
■**主要文献番号**　17

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ハマアカザ
Atriplex subcordata

ヒユ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで、限定的である。
■**分布の概要**　本州から北海道に分布している。朝鮮・ウスリー・樺太・千島に分布する。
■**県内の生育状況**　各地の海岸の砂浜で広く生育が確認されている。東日本大震災の津波浸水域でも確認されているが、個体数は多くない。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　復興工事、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、76、78、154、155、246、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：加藤　啓子）

イワアカザ
Chenopodium gracilispicum

ヒユ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 要注目種	環境省 CR

■**選定理由**　生育地が数ヶ所と局限、少ないのでランクを上げた。個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州～九州に分布している。シベリア東部・アムール・ウスリー・朝鮮・中国に分布する。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の比較的岩礫のある林床等に生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採など

（執筆：植物分科会）

（撮影：葛西　英明）

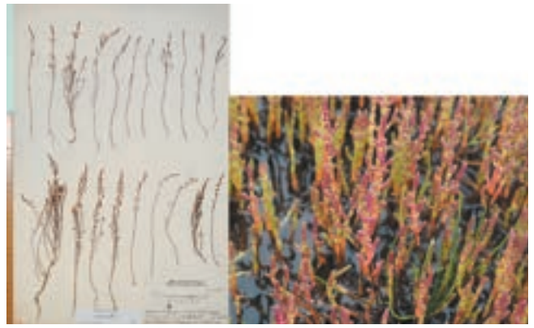
絶滅危惧II類（VU）	準絶滅危惧（NT）	情報不足（DD）	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	要注目種

アッケシソウ
Salicornia perennans　ヒユ科

絶滅（EX）	
2016 EX	環境省 VU

■**選定理由**　気仙沼市岩井崎付近の塩田跡地に生育していたが、土地開発のため絶滅した。
■**分布の概要**　四国・本州の宮城県・岡山県・北海道の塩沼地に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　かつて気仙沼市岩井崎付近で採集された標本がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、生育環境変化など
■**主要文献番号**　42、92、121

（執筆：植物分科会）



（生態写真：藤田　玲［撮影地：北海道］　標本写真：植物分科会調査員［東北大学植物園記念館所蔵］）

マツナ
Suaeda glauca　ヒユ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は30ヶ所程度で限定されている。個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州～九州に分布している。朝鮮・中国・モンゴル・ウスリー・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　七ヶ浜町から石巻市の沿岸部の塩性湿地に広く分布していたが、東日本大震災の津波に遭遇し一時的に増加した所と消滅した所がある。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　78、106、246

（執筆：植物分科会）

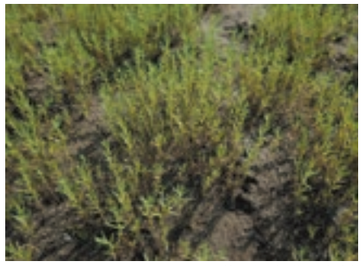
（撮影：上野　雄規）

ハママツナ
Suaeda maritima subsp. *asiatica*　ヒユ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地は40ヶ所近くで限定されている。
■**分布の概要**　宮城県以南の本州～九州に分布している。北半球に広く分布する。
■**県内の生育状況**　亘理町から気仙沼市の沿岸部の塩性湿地に広く分布していたが、東日本大震災の津波に遭遇し、生育地が増加し、個体数は激増した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然災害、自然遷移など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、78、92、96、106、142、143、179、246、248

（執筆：植物分科会）



（撮影：細谷　治夫）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）

クサアジサイ
Cardiandra alternifolia　アジサイ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　本県は分布の北限。生育地が10ヶ所程度と少し多いのでランクを下げた。園芸植物として採取され、絶滅寸前である。
■**分布の概要**　宮城県・新潟県以南の本州～九州に分布する。日本固有種。
■**県内の生育状況**　仙南地域の丘陵地のやや湿った林床に分布は限られている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　土地開発、園芸採取など
■**主要文献番号**　67、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヤマアジサイ
Hortensia serrata　アジサイ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は20ヶ所程度で、限定的で個体数も少ない。
■**分布の概要**　宮城県以南の太平洋側の本州・四国・九州に分布している。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の丘陵地のやや湿った環境に生育する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、自然遷移など
■**主要文献番号**　67、130、196、242、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

タマアジサイ
Platycrater involucrata　アジサイ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 NT	環境省 -

■**選定理由**　本県が分布の北限。生育地は20ヶ所程度で限定的で個体数も少ない。
■**分布の概要**　本州の宮城県～岐阜県・福井県に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　阿武隈山地の谷筋に生育し、フサザクラ-タマアジサイ群集を形成している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　1、7、8、112、241、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種

ウミミドリ
Lysimachia maritima var. *obtusifolia*

サクラソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 -

■**選定理由**　北方系要素の植物として貴重。生育地は10ヶ所近く、個体数とも少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州北部の海岸の湿地に分布している。アジア・北アメリカ北部に分布する。
■**県内の生育状況**　海岸の塩性湿地に生育する。東日本大震災の津波により消滅した場所もある一方沿岸の水田跡などに生育域を拡大し、群落を生じたが復旧工事で消滅した。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　海岸開発、自然遷移、自然災害など
■**主要文献番号**　73、74、75、76、77、78、96、100、121、142、143、209、248

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

ヤナギトラノオ
Lysimachia thyrsiflora

サクラソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道～本州中部地方以北に分布している。北半球の寒帯に広く分布する。
■**県内の生育状況**　平地から山地帯までの溜池の縁、湿原に生育するが、生育地は局限されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　19、73、88、100、118、135、242

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

ユキワリコザクラ
Primula farinosa subsp. *modesta* var. *fauriei*

サクラソウ科

準絶滅危惧（NT）	
2016 -	環境省 -

■**選定理由**　生育地は国定・県立公園内の10ヶ所程度で、局限されている。
■**分布の概要**　本州北部・北海道に分布している。千島にも分布する。
■**県内の生育状況**　蔵王連峰から船形連峰までの高山の湿った岩場で生育が確認されている。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　99、102、220、226、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：三島木　進）

クリンソウ
Primula japonica

サクラソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 -

■**選定理由**　生育地は20ヶ所近くで限られている。園芸植物として採取され、個体数が減少している。
■**分布の概要**　本州の近畿地方から北海道に分布している。日本固有種。
■**県内の生育状況**　各地の山間地の湿地に生育しているが、生育地、個体数共に急激に減少している。園芸植物として採取、減少している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　森林伐採、園芸採取、自然遷移など
■**主要文献番号**　48、110、113、171、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

サクラソウ
Primula sieboldii

サクラソウ科

絶滅危惧I類（CR+EN）	
2016 CR+EN	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数十ヶ所と限定されている。生育地や個体数は減少している。
■**分布の概要**　北海道南部・本州・九州に分布している。朝鮮・中国東北部・シベリア東部に分布する。
■**県内の生育状況**　平地から低山の沢筋や湿地に生育しているが、土地開発、園芸採取などにより激減している。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　園芸採取、土地開発など
■**主要文献番号**　33、48、52、64、65、67、101、142、143、147、170、171、196、197、209、212、238

（執筆：植物分科会）

（撮影：細谷　治夫）

ハイハマボッス
Samolus parviflorus

サクラソウ科

絶滅危惧II類（VU）	
2016 VU	環境省 NT

■**選定理由**　生育地は数ヶ所で局限されており、個体数も少ない。
■**分布の概要**　北海道・本州に分布している。北アメリカに分布する。
■**県内の生育状況**　県西部の奥羽山地の山地帯の湿地に稀産する。
■**生育に対する脅威（減少の要因）**　自然遷移など
■**主要文献番号**　99、170、191、212

（執筆：植物分科会）

（撮影：市ノ渡　彰）

カテゴリー　絶滅（EX）　野生絶滅（EW）　絶滅危惧I類（CR+EN）　絶滅危惧IA類（CR）　絶滅危惧IB類（EN）　絶滅危惧II類（VU）　準絶滅危惧（NT）　情報不足（DD）　絶滅のおそれのある地域個体群（LP）　要注目種